

平成 21 年度地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定等事業

北杜市次世代エネルギーパーク構想

報告書



平成 22 年 2 月
山梨県北杜市

目 次

1	北杜市次世代エネルギーパーク構想策定の背景と目的	
1.1	構想策定の背景と目的	3
1.2	地球温暖化問題とエネルギー問題に対する取り組み	5
1.3	北杜市次世代エネルギーパーク構想の目的と位置付け	16
2	北杜市の現況について	
2.1	自然特性	19
2.2	社会特性	20
2.3	新エネルギー賦存状況	27
2.4	新エネルギー導入状況	28
3	北杜市内の環境関連施設及び観光資源に関する調査	
3.1	エリア別	31
3.2	北杜市で実施されているエコツアー・体験イベント	39
4	北杜市次世代エネルギーパークの在り方に関する調査	
4.1	市民アンケート調査	43
4.2	事業所・団体アンケート調査	48
4.3	事業所・団体ヒアリング調査	52
4.4	観光客アンケート調査	53
4.5	アンケート・ヒアリング調査結果から見た今後の課題	57
5	北杜市次世代エネルギーパーク全体構想	
5.1	基本理念	61
5.2	基本方針	62
5.3	次世代エネルギーパーク整備方針	64

6	北杜市次世代エネルギーパークを構成する施設とその活用	
6.1	構成する施設	67
6.2	施設の位置付け	67
6.3	施設等の活用方針	72
7	北杜市次世代エネルギーパークの運用と今後の課題	
7.1	運用の考え方	97
7.2	運用の体制	98
7.3	今後のスケジュール	99
7.4	持続可能な運用に向けた課題	100

【資料編】

- 1 北杜市次世代エネルギーパーク・ビジョン策定委員会設置要綱
- 2 北杜市次世代エネルギーパーク・ビジョン策定委員会委員名簿
- 3 北杜市次世代エネルギーパーク・ビジョン策定委員会の開催状況
- 4 先進地事例調査報告書
- 5 アンケート調査票（市民、事業所・団体、観光客）
- 6 アンケート・ヒアリング調査結果（自由意見等）
- 7 NEDO北杜サイトパンフレット
- 8 NEDO北杜サイト本格運用について（平成21年（2009年）12月3日報道発表資料）
- 9 補助事業・関係法令等
- 10 用語解説

本調査は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の平成21年度「地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定等事業」の補助により策定しました。

1 北杜市次世代エネルギーパーク構想策定の背景と目的

1.1 構想策定の背景と目的

(1) 地球温暖化問題

私たちの便利で快適な暮らしは石油や石炭といった化石燃料の大量消費の上に成り立っています。しかし、化石燃料の消費は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO₂）の排出を伴い、それによる地球温暖化の進行が大きな問題になっています。

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第4次評価報告書では、世界の平均気温は過去100年（1906～2005年）に0.74℃上昇し、最近50年間の長期傾向は、過去100年のほぼ2倍であると示されています。

また、人為的な起源による温室効果ガスの増加が地球温暖化の原因とほぼ断定されており、気候変化が世界中の自然と社会に影響を与えていることが明らかになったと報告されています。温室効果ガスの中で最も地球温暖化に影響を及ぼしているのがCO₂です。

今後も、化石燃料の消費量が増加し続けた場合、エネルギー起源によるCO₂排出量が増加し、地球温暖化が進行します。地球温暖化のさらなる進行により、農業・食料供給への影響、洪水増加、海岸部・低地への浸食、高潮被害、地滑り、伝染病を媒介する生物の増加、大気汚染の増加等の地球環境に様々な影響が出るのが懸念されています（図1.1-1）。



図 1.1-1 地球温暖化による影響（例）

（出典：NEDO 技術開発機構新エネルギーガイドブック 2008）より抜粋

(2) エネルギー問題

エネルギー起源の CO₂ 排出量の増加が地球温暖化に大きな影響を及ぼしていることから、エネルギー問題と地球温暖化問題には密接な関係があります。

国内における最終エネルギー消費量は、産業部門では昭和 48 年（1973 年）の石油危機以降ほぼ横ばいで推移していますが、昭和 48 年（1973 年）を 100 とした場合、平成 19 年度（2007 年度）は、運輸・旅客部門 261、民生・家庭部門 232、民生・業務部門 183 で増加率が高くなっており（図 1.1-2）、こうした部門におけるエネルギー消費量の抑制により CO₂ 排出量を削減し、地球温暖化防止へとつなげていくことが重要です。

また、日本はエネルギー自給率が低く大部分を輸入に依存していることから、安定供給という側面からのエネルギー問題への対応も課題となっています（図 1.1-3）。

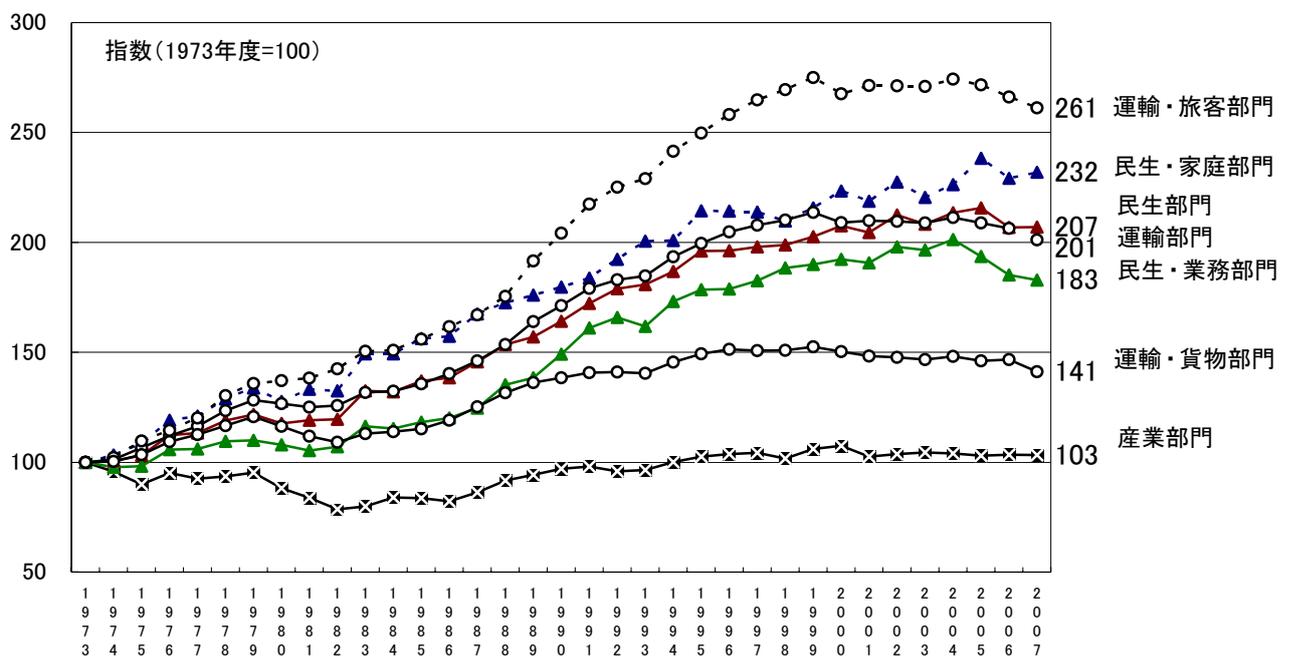


図 1.1-2 部門別最終エネルギー消費量の指数推移 (昭和 48 年 (1973 年) を 100 とした場合の指数)

(出典：エネルギー・経済統計要覧 2009 より作図)

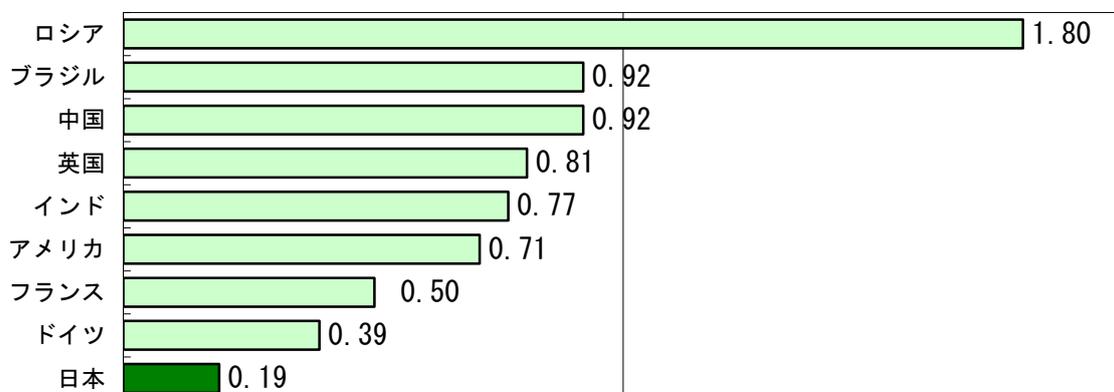


図 1.1-3 主要各国のエネルギー自給率 (エネルギー生産量/一次エネルギー総供給量) (平成 18 年)

(出典：Energy Balances of OECD Countries・Energy Balances of NON-OECD Countries (2008) より作図)

1.2 地球温暖化問題とエネルギー問題に対する取り組み

(1) 国の取り組み

① 京都議定書での温室効果ガス削減に関する公約

平成4年(1992年)の地球サミットにおいて、気候変動に関する国際連合枠組条約への署名が開始され、平成6年(1994年)に発効しました。

平成9年(1997年)12月には、京都において気候変動に関する国際連合枠組条約第3回締約国会議(COP3京都会議)が開催され、京都議定書が採択されました。また、平成17年(2005年)2月には、ロシアの批准により要件が満たされ、発効しました。

京都議定書では、先進国全体の温室効果ガスの排出量を平成20年(2008年)から平成24年(2012年)までの期間中に、平成2年(1990年)の水準より5%以上削減することを目標に設定しており、日本は6%削減を世界に約束しています(図1.2-1)。

しかしながら、日本の温室効果ガスの排出量は平成2年(1990年)以降も増加しており、平成19年度(2007年度)は、平成18年度(2006年度)に比べ若干増加し、約束期間内に平成2年(1990年)の水準から6%削減するためには、森林吸収源対策3.8%、京都メカニズム1.6%を確保した上で、9.6%の排出削減が必要となっています(図1.2-2)。

京都議定書の約束を達成するために、様々な国の取り組みが開始されています。

具体的には、平成10年(1998年)6月には、地球温暖化対策推進本部において平成22年(2010年)に向けた「地球温暖化対策推進大綱」が決定され、平成11年(1999年)4月には「地球温暖化対策の推進に関する法律」が施行し、平成17年(2005年)4月には「京都議定書目標達成計画」が策定(平成20年(2008年)3月に改定)されています。

平成19年(2007年)5月には、Cool Earth 50が発表され、「世界全体の排出量を現状から2050年までに半減」という長期目標を世界共通目標として提案されています。

平成20年(2008年)7月の洞爺湖サミットでは、「G8は2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量を少なくとも50%削減するという長期目標を世界全体の目標として採択することを求める」「野心的な中期の国別総量目標を実施する」「革新的な技術開発のための国際イニシアティブを立ち上げる」等の合意がなされました。

平成21年(2009年)1月には、温室効果ガスの排出削減の長期目標を達成していくための取り組みを実施するモデル都市として、13の環境モデル都市が選定されています。

平成21年(2009年)6月には、平成32年(2020年)の温室効果ガス排出量を平成17年(2005年)比15%減(平成2年(1990年)比8%減)とする中期目標が発表されました。また、鳩山政権発足後には、温室効果ガスの削減目標として、1990年比で2020年までに25%削減を目指すことが表明されています(表1.2-1)。

京都会議で決められた
主要国の温室効果ガス排出削減目標
(2008年～2012年の期間の目標)

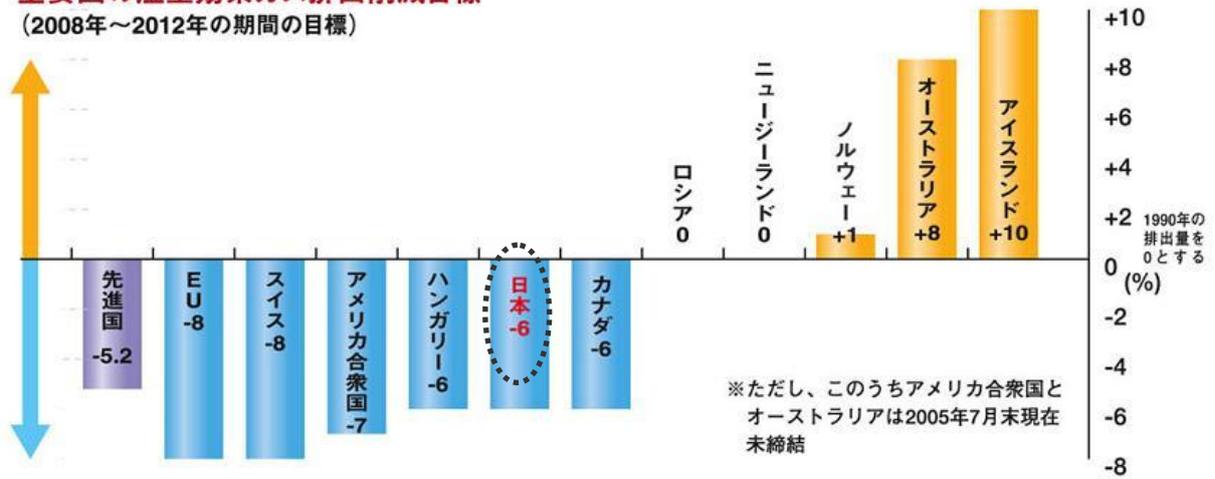


図 1.2-1 京都会議で定められた主要国の温室効果ガス排出削減目標 (2008年～2012年の期間目標)

(出典：全国地球温暖化防止活動推進センターホームページ

<http://www.jccca.org/content/view/821/728/>) より抜粋

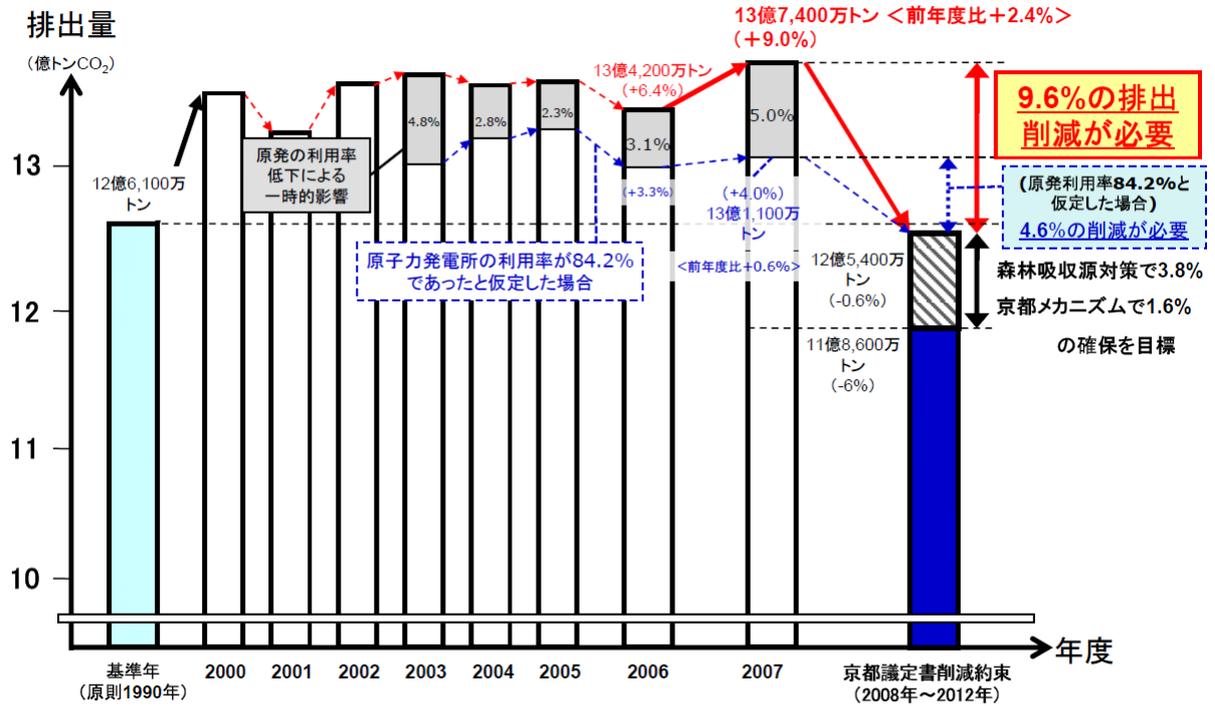


図 1.2-2 日本の温室効果ガス排出量

(出典：環境省報道発表資料「2007年度(平成19年度)温室効果ガス排出量」

<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg/2007gaiyo.pdf/>) より抜粋

表 1.2-1 国の取り組み

平成 4 年(1992 年)	○気候変動に関する国際連合枠組条約への署名開始。1994 年発効
平成 9 年(1997 年)	○京都議定書採択 ○新エネ法（新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法）施行
平成 11 年(1999 年)	○地球温暖化対策推進法施行
平成 15 年(2003 年)	○RPS 法（電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法）施行
平成 17 年(2005 年)	○ロシアの批准により京都議定書が発効。先進国全体の温室効果ガス排出量を、2008 年から 2012 年までに、1990 年より 5%削減する約束（日本は 6%） ○京都議定書目標達成計画が閣議決定
平成 19 年(2007 年)	○Cool Earth 50 を提唱 *世界全体の排出量を 2050 年までに半減という長期目標を設定
平成 20 年(2008 年)	○新エネ法施行令改正 *水力発電（1,000kW 以下）、地熱発電が追加 ○京都議定書目標達成計画策定 ○地球温暖化対策推進法一部改正*集約型・低炭素型都市構造の実現が追加
平成 21 年(2009 年)	○環境モデル都市 13 自治体選定 *低炭素社会実現に向け温室効果ガスの大幅削減を行うモデル都市 大都市：神奈川県横浜市、福岡県北九州市、京都府京都市、大阪府堺市 地方中心都市：北海道帯広市、富山県富山市、長野県飯田市、愛知県豊田市 小規模市町村：北海道下川町、熊本県水俣市、高知県梶原町、沖縄県宮古島市 東京特別区：東京都千代田区 ○省エネ法改正 *企業全体へのエネルギー管理へ移行。年間 1,500k1 以上は届出が必要 ○2020 年の温室効果ガス排出量を 2005 年比 15%減（1990 年比 8%減）の中期目標を設定 ○エネルギー供給構造高度化法（*新エネ導入拡大を電力・ガス会社に義務づけ。FIT を含む）・非化石エネルギー法（*石油以外のエネルギー利用促進を目指す）成立 ○鳩山政権が、温室効果ガスを 1990 年比で 2020 年までに 25%削減する目標を表明

②新・国家エネルギー戦略

経済産業省は、2006 年 5 月に、2030 年に向けて特に重要な施策プログラムを盛り込んだ「新・国家エネルギー戦略」を策定しました。同戦略では、「エネルギー安全保障の確立」「エネルギー問題と環境問題の一体的解決」「アジアや世界のエネルギー問題への貢献」を目標とし、5 つの数値目標があります（表 1.2-2）。

表 1.2-2 「新・国家エネルギー戦略（2006 年 5 月策定）」によるエネルギー政策の目標

実現を目指す目標
(1) 国民に信頼されるエネルギー安全保障の確立 (2) エネルギー問題と環境問題の一体的解決による持続可能な成長基盤の確立 (3) アジア・世界のエネルギー問題克服への積極的貢献
数値目標
(1) 省エネルギー目標 今後、2030 年までに更に少なくとも 30%の効率改善を目指す。 (2) 原子力発電目標 2030 年以降においても、発電電力量に占める原子力発電の比率を 30~40%程度以上にすることを旨とする。 (3) 運輸部門における石油依存度低減目標 今後、2030 年までに、80%程度とすることを旨とする。 (4) 海外での資源開発目標 今後、更に拡大し、2030 年までに 40%程度を目指す。 (5) 石油依存度低減目標 今後、2030 年までに、40%を下回る水準を目指す。

③次世代エネルギーパークの推進

平成18年(2006年)5月に策定された「新・国家エネルギー戦略」(経済産業省・資源エネルギー庁)では、「次世代エネルギーパークの整備」として、「国民が新エネルギーや省エネルギーなど新たなエネルギーの生産・利用に目で見えて触れて理解できるよう、次世代エネルギーパークという形でエネルギーの地域拠点を整備する。」とされています。

新エネルギーをはじめとした次世代のエネルギーについて、実際に国民が見て触れる機会を増やすことを通じて、地球環境と調和した将来のエネルギーの在り方について、国民の理解の増進を図るため、太陽光等の次世代エネルギー設備や体験施設等を整備した「次世代エネルギーパーク」を推進する取り組みが実施されており、平成19年(2007年)度に6件、平成20年(2008年)度には7件、平成21年(2009年)度には12件の合計25件が「次世代エネルギーパーク」の計画として認定されています(図1.2-3)。

なお、全国各地の次世代エネルギーパークのそれぞれの概要は表1.2-4のとおりです。

これらのエネルギーパークを類型化してみると、拠点施設を中心に展開を図る拠点施設型のほか、複数の施設とのネットワークを活かしたパークづくりを進めるネットワーク型や、地域内施設を観光ルート化しているエコツーリズム型、それぞれの混合タイプに分けることができます(表1.2-4)。

また、「次世代エネルギーパーク」の計画の認定条件として6項目が挙げられています(表1.2-3)。

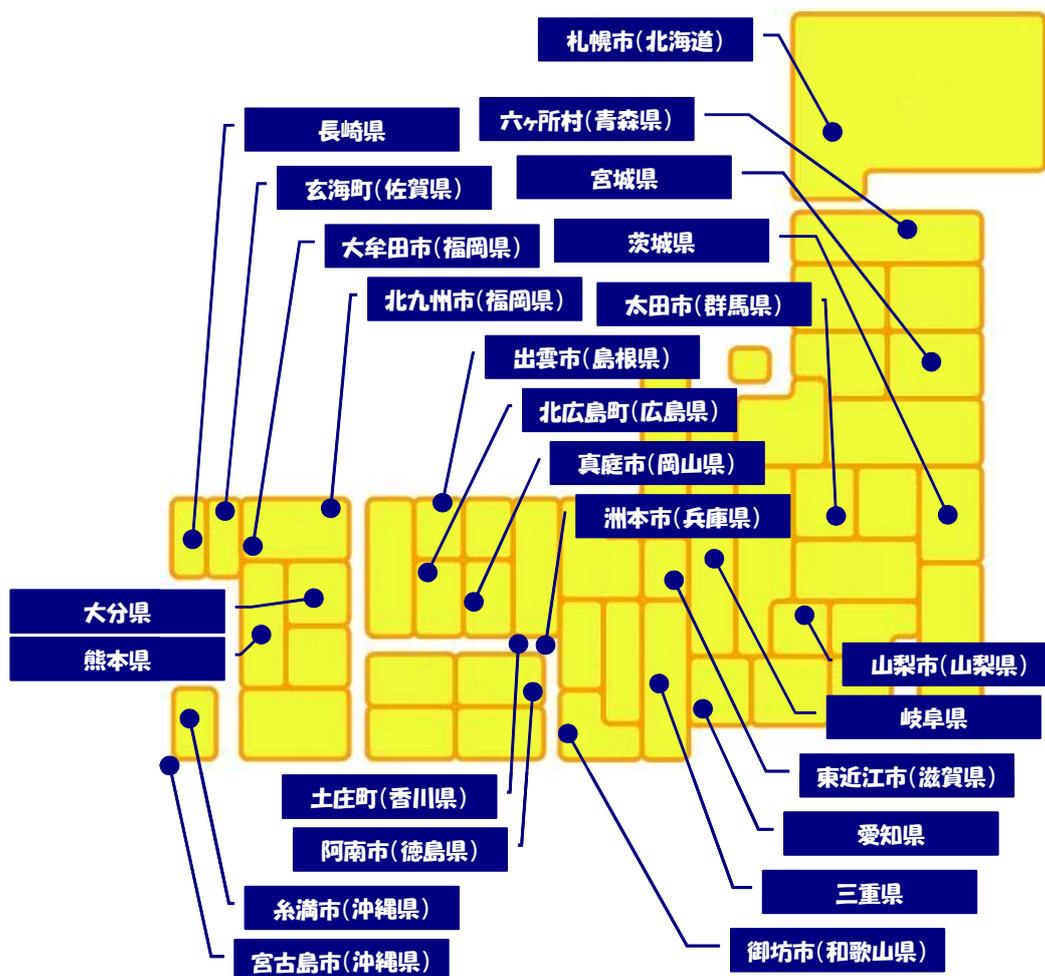


図1.2-3 次世代エネルギーパーク計画の認定状況

表1.2-3 国（経済産業省）が示している「次世代エネルギーパーク」計画認定の条件

①運営主体は自治体または3セクなど、自治体が主体的に取り組んでいること
②維持費等の確保の見通しが立っており、運営主体による安定した運営・管理が見込まれること
③多くの人々が訪れるよう、ハードやソフト面において、地元自治体や市民、地元企業等による地域の特色を生かした創意工夫がみられること
④新エネルギー設備で得たエネルギーが周辺地区等において使用されること
⑤原則として複数の種類の新エネルギー設備の見学が可能であること
⑥既存の新エネルギー設備や関連施設がある場合は、これを最大限活用すること

表 1.2-4 各次世代エネルギーパークの概要 (1/2)

自治体	概要	分類	認定年度
札幌市 (北海道)	札幌市の環境教育の拠点である円山動物園内に、太陽光発電・小型風力発電設備等を導入	拠点施設型	平成 20 年度
六ヶ所村 (青森県)	風力、地熱、バイオマスや石油、原子力など過去、現在、未来にわたる幅広いエネルギーの施設を見学するパーク	拠点施設型 ネットワーク型	平成 20 年度
宮城県	明治からの歴史を持つ水力発電所や国内有数の地熱発電所、林地残材（バイオマス）利用など、地域の特色を生かした新エネルギーをパークとして位置付け、将来的には、メガソーラー、燃料電池等も導入	ネットワーク型	平成 21 年度
茨城県	エネルギー関連施設が集積している東海・つくば・鹿島の3地区を連携させたネットワーク型のエネルギーパーク	ネットワーク型	平成 19 年度
太田市 (群馬県)	北部運動公園内に体験・学習拠点を整備するとともに、大規模の太陽光発電団地「パルタウン城西の杜」など市内の新エネルギー施設をエネルギーパークとして位置付け	拠点施設型 ネットワーク型	平成 20 年度
山梨市 (山梨県)	「山梨市バイオマスタウン構想」「新エネルギービジョン」を推進中。多様なバイオマス資源と自然エネルギーを地域内で有効活用して地域を活性化	エコツーリズム型	平成 20 年度
愛知県	愛知万博の理念・成果を継承し、新エネルギーの最新の実証研究と燃料電池自動車など多様なエネルギー関連施設が見学できる研究・体験型パーク	拠点施設型	平成 20 年度
岐阜県	燃料電池、太陽光発電、バッテリー等と電気自動車を組み合わせて、半独立型エネルギー供給システムを構築。コスト低減、CO ₂ 削減等の効果を実証・公開	ネットワーク型	平成 21 年度
三重県	三重県内各地の新エネルギー施設をパークと位置付け、連携・PR で次世代エネルギー理解と普及を促進	ネットワーク型	平成 21 年度
東近江市 (滋賀県)	市民ファンドによる太陽光発電施設、全国に広まった菜の花エコプロジェクトや、パークの中心施設として布引運動公園を整備	拠点施設型	平成 21 年度
御坊市 (和歌山県)	太陽光・小型風力等の研究施設や、展示等を行う PR 施設、ソーラーカーコース等を備えた公園施設を一体的に整備	拠点施設型	平成 19 年度
洲本市 (兵庫県)	観光公園ウェルネスパーク五色を中心とし、バイオ燃料の体験学習や風力発電、太陽光発電等によりパークを構築	拠点施設型	平成 21 年度
真庭市 (岡山県)	「真庭バイオマスタウン構想」を推進中。市内一円のバイオマス関連施設を見学できるコースを観光ルート化	エコツーリズム型	平成 19 年度
北広島町 (広島県)	地域の財産である自然の恵みを活用した太陽光発電・小水力等の既設施設や取り組みをいかしたパークの整備を目指す	ネットワーク型	平成 21 年度
出雲市 (島根県)	風車が設置される周辺地を風車公園として整備、その他の新エネルギー施設と連携して、市全域でパークを構築	拠点施設型 ネットワーク型	平成 20 年度
土庄町 (香川県)	瀬戸内海に浮かぶ小豆島と豊島の公共・観光施設等に太陽光発電、小型風力発電、BDF 製造装置を導入し、町民及び観光客に新エネルギーを普及啓発	拠点施設型 エコツーリズム型	平成 21 年度

表 1.2-4 各次世代エネルギーパークの概要 (2/2)

自治体	概要	分類	認定年度
阿南市 (徳島県)	四国最大規模の電力供給地として、既存のエネルギー体験施設と新たな新エネルギー設備導入により、市内全域を次世代エネルギーパークと位置付け	拠点施設型	平成 20 年度
北九州市 (福岡県)	「北九州エコタウン事業」を展開している地区。既存のエネルギー関連施設を活用し、展示やバスツアーなどのソフト事業を実施	拠点施設型 エコツーリズム型	平成 19 年度
大牟田市 (福岡県)	近代日本の発展をエネルギー面から支え、大牟田市の発展と共に歩んできた石炭の歴史と、次世代を担う新エネルギーを融合させた、過去から未来へのエネルギーの体験・学習の場	拠点施設型	平成 21 年度
玄海町 (佐賀県)	太陽光・小型風力・小型水力などの設備を備え、エネルギー学習機能、体験・交流機能、エネルギー供給機能を有する施設を設置	拠点施設型	平成 19 年度
長崎県	ハウステンボスに導入する太陽光発電施設等の新エネルギー設備を活用した情報発信及び学習の場を提供	拠点施設型	平成 19 年度
大分県	日本一の発電規模を持つ八丁原地熱、豊富な森林資源から生じるバイオマス等、豊かな自然が生み出す多様なエネルギーを見て、触れて、感動することのできる周遊型エネルギーパーク	エコツーリズム型	平成 21 年度
熊本県	くまもとソーラーパークを中心とした太陽光発電、バイオマス、風力発電等の新エネルギーの実証実験の実施と全国への普及拡大に向けた情報発信	拠点施設型	平成 21 年度
糸満市 (沖縄県)	市庁舎の太陽光発電及び糸満市観光農園の風力発電施設を拠点として、情報発信及び周遊コースの充実を目指す	エコツーリズム型	平成 21 年度
宮古島市 (沖縄県)	宮古島の「エネトピアエリア」「バイオマスエリア」等をネットワーク化し、風力発電、太陽光発電、バイオマス等を見学するパーク	ネットワーク型 エコツーリズム型	平成 21 年度

※この表の分類欄は、各次世代エネルギーパークを北杜市が独自に分類し、表示したものです。

(3) 山梨県の取り組み

山梨県では、目指す県土像として環境首都を掲げ、環境の保全と創造に努めています。

平成5年(1993年)には、県民・事業者・行政それぞれの主体が一体となって行う活動指針として「快適な環境の享受の保障」「将来の世代に良好な環境を引き継ぐ責務」「人と自然の共生を基本とした環境倫理」「地球環境問題への積極的な対応」及び「持続可能な社会の構築」を基本理念とする「山梨県環境首都憲章」を制定し、一人ひとりの行動規範を示しました。

平成6年(1994年)3月には、環境首都憲章の基本理念を踏まえた「環境首都・山梨づくりプラン」を策定し、「地域の環境を重視する視点」「地球環境を常に念頭に置いて考察していく視点」「未来の人々が住む環境を常に念頭に置きながら考察していく視点」を基本的視点としつつ、目標達成のための対策と方針を示しています。

具体的な地球温暖化対策として、平成8年(1996年)3月に、県のCO₂排出量を1990年レベルで安定させるための行動計画「山梨県地球温暖化対策推進計画」を策定し、民生・運輸部門を中心に対策を実施してきました。

平成11年(1999年)7月には、「山梨県環境保全率先行動計画」を策定し、県自らが率先して消費者・事業者としての立場から省資源・省エネルギーの推進、環境に配慮した製品・サービスの購入と使用(グリーン購入)の推進、廃棄物の減量化・リサイクルの推進、環境に配慮した県有施設の整備などに取り組むことなどを掲げました。

平成15年(2003年)11月には、地域における地球温暖化対策を推進するため、地球温暖化対策の推進に関する法律に定められている「地球温暖化防止活動推進員」を市町村単位に配置し、平成16年(2004年)には、県民の温暖化防止活動推進の中核となる山梨県地球温暖化防止活動推進センターを指定しました。

平成20年(2008年)12月には、温室効果ガスの排出抑制を計画的に推進するとともに、県民や事業者等の地球温暖化防止に対する意識を高め、自主的な取り組みを促進していくために「山梨県地球温暖化対策条例」を制定、平成21年(2009年)3月には、同条例で規定した各主体が行うべき具体的な取り組みを盛り込み、長期ビジョンとして概ね2050年に山梨県域でCO₂の排出量と吸収量が均衡する「CO₂ゼロやまなし」を掲げた「山梨県地球温暖化対策実行計画」を策定しました。

平成21年(2009年)6月には、低炭素社会の実現と経済活性化の両立を図り、「クリーンエネルギー先進県やまなし」の実現を目指す、「やまなしグリーンニューディール計画」を策定しました(表1.2-5)。

表 1.2-5 県の取り組み

平成5年(1993年)	○環境首都・山梨を実現していくために「山梨環境首都憲章」制定
平成6年(1994年)	○環境首都・山梨づくりプラン策定
平成8年(1996年)	○山梨県地球温暖化対策推進計画策定 ○クリーンエネルギーやまなしプラン策定
平成11年(1999年)	○山梨県環境保全率先行動計画策定
平成14年(2002年)	○環境首都・山梨づくり推進本部に地球温暖化対策専門部会を設置
平成15年(2003年)	○新山梨県地球温暖化対策推進計画策定 ○地球温暖化対策推進法に定める山梨県地球温暖化防止活動推進員を委嘱
平成16年(2004年)	○地球温暖化対策推進法に定める山梨県地球温暖化防止活動推進センター指定 ○やまなし環境教育実践指針の策定
平成20年(2008年)	○山梨県地球温暖化対策条例制定
平成21年(2009年)	○山梨県地球温暖化対策実行計画策定 ○やまなしグリーンニューディール計画の策定

(4) 北杜市の取り組み

北杜市では、平成19年（2007年）3月に第1次北杜市総合計画を策定し、「人と自然と文化が躍動する環境創造都市」を将来像に掲げ、その実現のために8つの杜づくりを施策の柱とし、その1つに「環境日本一の潤いの杜づくり」を掲げ、市民に対して循環型社会、低炭素社会、自然共生社会の構築の必要性をわかりやすく情報提供するとともに、地域ぐるみで取り組みやすいエネルギー消費削減方法やクリーンエネルギー（太陽光発電・小水力発電等）の活用や普及啓発などの取り組みメニューを提示し、率先的行動を強力に促すこととしています。

平成20年（2008年）3月に策定した北杜市環境基本計画では、北杜市環境基本条例に掲げる基本理念の具体化を図り、北杜市が目指すべき環境像を明らかにし、環境の保全と創造に関する総合的な施策の方向性を示し、クリーンエネルギーを積極的に活用した事業等に取り組むことにより、地球環境の保全を図ることを基本方針に設定しています。

以下に、北杜市における地球温暖化対策・新エネルギーの普及に関する取り組みの概要について詳述します。

① 北杜市地域新エネルギービジョン

北杜市に適した新エネルギーの活用や、省エネルギーなどの地球温暖化対策・エネルギー問題への取り組みを念頭においた市独自のエネルギー計画として平成18年（2006年）3月に「北杜市地域新エネルギービジョン」を策定し、太陽と水を中心とする自然エネルギーを活用して次の基本方針の下に新エネルギーの導入推進等を図っています（表1.2-1）。

表1.2-1 北杜市地域新エネルギービジョンの基本方針

基本方針	1 太陽と水を中心とする自然エネルギーの活用 2 木質バイオマスを中心とする未利用エネルギーの活用 3 環境共生都市・資源循環型社会の形成 （新エネルギービジョンの推進体制・推進方法） 4 市民・事業者・行政の連携による推進
------	--

② 太陽エネルギープロジェクト

a 大規模電力供給用太陽光発電システム安定化等実証研究（北杜サイト） （以下、「NEDO北杜サイト」という）

独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO技術開発機構」という。）からの5年間（平成18年（2006年）度～平成22年（2010年）度）の委託事業として、大規模な太陽光発電の発電電力変動による悪影響を低減するための研究、大規模太陽光発電に対応したパワーコンディショナーの開発等を目的とし、約2メガワット級の大規模太陽光発電システムを構築し、今後の普及拡大に向けた実証研究に取り組んでいます。また、本施設は視察・見学を受け入れており、国内外から年間2,500人を超える方が訪れています。

b 住宅用太陽光発電システム設置費補助事業

住宅用太陽光発電システムの導入促進を目的とし、平成18年（2006年）度より1kWあたり25,000円の補助を行っています。平成18年（2006年）度から平成21年（2009年）12月までの交付総件数は、197件（発電出力総計690kW）となっています。

c 北杜市まるごとメガソーラープロジェクト

北杜市では、地球温暖化問題及びエネルギー問題の双方に寄与するため、太陽光発電システムの市内での導入促進を図るとともに、自ら率先して太陽光発電システムを公共施設へ導入することにより、地球温暖化対策及びエネルギー対策に取り組むこととしています。

太陽光発電システムを学校施設に導入することにより、学校施設は環境教育の実物大の教材となり、そこでの学習や生活体験は子どもたちの環境意識の向上に寄与するものと期待されます。市立明野中学校では、平成17年（2005年）度の校舎新築に伴い、太陽光発電システム（20kW）を導入し、表示板で発電量を示すことによる可視化を図り、環境教育の教材として活用しています。さらに、現在、市立小中高等学校23施設への導入（総計で1MWを目標）を進めているところです。

また、平成22年（2010年）度は、北杜市大泉体育館など3公共施設への太陽光発電システムを導入することとし、さらには導入可能性調査を実施することとしています。

③ 小水力エネルギープロジェクト

a 村山六ヶ村堰水力発電所(愛称：クリーンでんでん)

村山六ヶ村堰の農業用水を利用して延長約1.3km、総落差85mの流れ込み式水力発電所を整備し、平成19年（2007年）4月から稼動しています。最大出力は320kWで年間200万kWhを超えるクリーン電力を創出しています。

また、本施設は視察を受け入れており、市内外から多数の視察者が訪れています。

b 三分一湧水ミニ水力発電所

三分一湧水公園内にある水路を利用して流れ込み式水力発電所（1kW）を平成16年（2004年）に設置し、公園内の吊り橋の照明や、発電所内に設置した模型電車を動かし、環境教育に活用しています。

c 小水力発電実現可能性調査

平成20年（2008年）度に市内の小水力発電可能性調査を実施し、小水力発電の導入及び新エネルギーの普及啓発を積極的に図っています。

加えて、平成21年（2009年）8月の環境省委託を受け「小水力発電による市民共同発電実現可能性調査」を進めているところです。

④ バイオマスエネルギープロジェクト

a 企業参加の森づくり推進事業

北杜市では、森林の持つ多面的な機能の発揮を目的とし、森林所有者や市民による森林整備に加え、企業等との協力・連携による森づくりを推進しています。現在、市内4箇所において、企業の社会・環境貢献活動の一環として「企業の森」に取り組んでおり、企業と地域が一体となった森林づくりを進めています。

b 杜づくり・木づかい事業

自然環境の保全と地域コミュニティの活性化に資するため、ボランティア等による森林整備の促進及び木材利用の促進を図るための情報の共有並びに発信を行っています。

b-1 杜づくりの輪形成事業

自力による間伐等を行い難い森林所有者と活動箇所の確保が困難なボランティア等の登録・紹介を行うことにより、市民参加の森づくりを促進しています。

b-2 里山整備機器貸出事業

北杜市の管理する林業機器等の貸出により、市民による森林及び里地里山の整備を促進するとともに、地域コミュニティ活動の活性化を促します。

b-3 木づかいの輪形成事業

間伐材や薪炭材などの身近な木材等に関する情報の共有・発信を行うことにより、地域の森林資源の有効利用を促進しています。

c 北の杜づくり講座

森林・林業分野における地球温暖化対策の一方策として、森林整備を推進しており、森林整備に欠かすことの出来ない森林・林業に関する知識・技術などの講座を市民を対象に年6回程度開催しています。

d 増富地域再生計画

増富地域再生協議会が主体の「森林を活用した癒しの空間づくりによる増富地域再生計画～都市と農山村の交流により、豊かで元気な農山村地域を創ろう～」の計画が平成20年（2008年）7月に内閣府の地域活性化計画に認定され、市、地域、NPO法人が一体となり、森林を守り育てるための森林活用体験プログラムなどを実施し、農村と都市の交流を図っています。

また、地域の自然エネルギー資源による地域自給を目指した検討等が行われています。

⑤ 環境にやさしいまちづくりプロジェクト

a 電気自動車モデルゾーン実験事業

平成20年（2008年）度に有限責任中間法人電動車両普及センター（現一般社団法人 次世代自動車振興センター）のモデルゾーン実験として、中山間地における電気自動車の性能評価を目的とし、6台の電気自動車をモニターとして利用し、また、各種のイベントや環境学習の教材として市民が目で見、触れる機会を設け普及啓発を図りました。

b 燃料電池普及促進事業

将来的に次世代自動車の本命と目されている燃料電池自動車の仕組み、大気汚染物質やCO₂の削減効果、総合エネルギー効率、コスト、利便性、安全性などについて、広く啓発し、正しい理解や認識を得ることにより社会的受容性を向上させることを目的とする環境省の平成21年度燃料電池自動車啓発推進事業の実施自治体に選ばれ、公用車利用や市内15箇所においてのイベント展示・試乗会を実施し、地域社会への啓発推進を図りました。

c 環境学習プログラム事業

地球温暖化問題やエネルギー問題等について、正しい理解と実践行動を図るため、受講希望者の目的に沿ったプログラムを選択できるよう51項目のプログラムを具現化した「北杜市地球温暖化防止・環境学習プログラムガイド」を平成18年（2006年）度に作成し、環境教育の普及啓発を推進しています。

d 環境保全基金事業

北杜市の緑豊かな森林や清らかで豊富な水資源等の自然環境を適切に保全し、これらを良好な状態で次世代に引き継いでいくことは非常に重要であることから、環境保全活動に取り組む企業や個人の皆様より協力金を募り、北杜市の環境保全に資する資金を提供する、企業の社会貢献活動の仕組みを展開しています。

また、基金を活用して市民や団体等の環境保全活動を支援しています。

e 農村地域新エネルギー推進事業

豊かな自然に恵まれた北杜市にとって、石油代替となる自然エネルギー等の積極的な導入を図っていくことが有効であり、公共施設等への積極導入に加えて農業関連施設等への太陽光・水力発電施設の導入促進を図り低炭素社会への実現と農業振興による地域の活性化に資する取り組みとして、県と連携する中で市内農業関連施設への太陽光発電設備を整備することとしています。また、農業用水を活用した水力発電設備の導入についても検討しています。

f バイオディーゼル燃料（BDF）利用促進事業

北杜市では、地域から排出される廃食用油を回収し、住民（排出＝ゴミの減量化）、企業（リサイクル＝収集・製造・供給）、市（CO₂削減＝公用車利用）がパートナーシップにより循環型システムを構築し、展開しています。

1.3 北杜市次世代エネルギーパーク構想の目的と位置付け

本調査は、上位計画である北杜市総合計画や北杜市環境基本計画で掲げた将来像・環境像の実現に向け、北杜市が地球温暖化問題やエネルギー問題、環境保全へ貢献することを目的として、NEDO 北杜サイトをはじめ、市内の新エネルギー施設と環境教育施設、そして豊かな自然環境を活かし、地球環境と調和した将来のエネルギーの在り方について、理解の増進を図るため、「北杜市次世代エネルギーパーク構想」を策定するものであり、市民・事業者・団体、市などの協働により適切な計画策定から運営まで行うことで地域社会、地域経済活動の活性化と環境の調和を図ることを目的とします（図 1.3-1）。

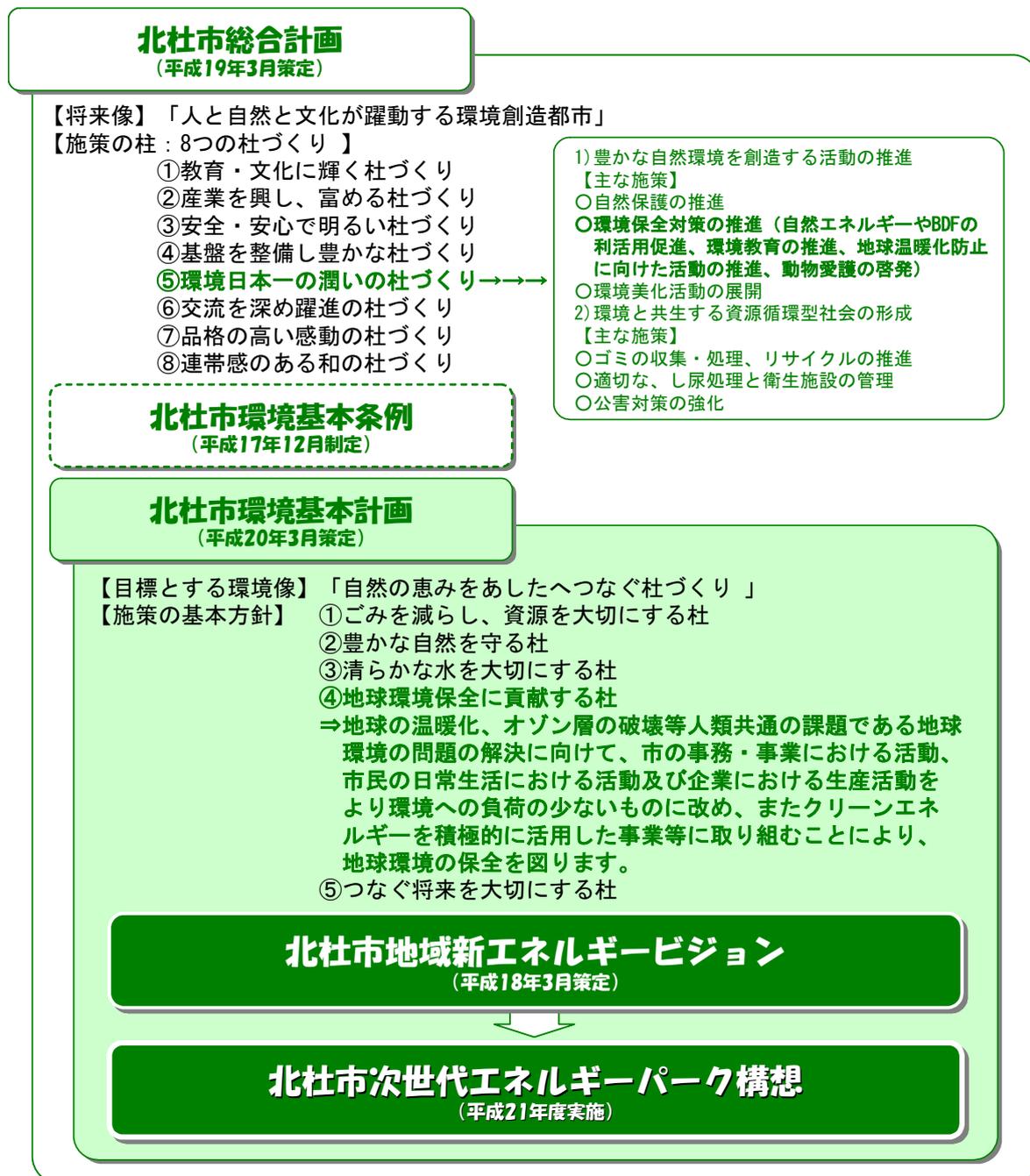


図 1.3-1 北杜市次世代エネルギーパーク構想の位置付け

2 北杜市の現況について

2.1 自然特性

(1) 位置・地勢

北杜市は、甲府盆地の北西に位置し、山梨県北西端として西から北にかけては長野県に接し、東から南にかけては、甲府市・甲斐市・韮崎市・南アルプス市に接しています。また、市域の西部は甲斐駒ヶ岳から連なる南アルプス、北部は八ヶ岳連峰、北東は秩父山地、東は茅ヶ岳といった山々に囲まれています。

地理的特徴としては、八ヶ岳と茅ヶ岳南麓に広がる火山性の台地部分と、釜無川による沖積平野にあたる部分の大きく2つに分けられます。

秩父多摩甲斐国立公園、南アルプス国立公園、八ヶ岳中信高原国定公園、県立南アルプス巨摩自然公園などの自然公園を有し、全国有数の美しい自然環境を誇る地域です。

(2) 面積・土地利用

総面積は、602.89km²であり、林野面積が73.2%を占めています（表2.1-1）。

表2.1-1 面積

総面積 (km ²)	林野面積 (km ²)	林野面積の割合 (%)
602.89	441.3	73.2

(出典：総面積は山梨県統計データバンク、林野面積は農林業センサス 2005)

(3) 気象

気象は、年間の寒暖差が大きい内陸性であり、夏は30℃を越える場合がある一方で冬は氷点下を下回る場合もあります。積雪は一部の山間地域で見られる程度です。

平成20年（2008年）のアメダスデータ（平年値）によると、年平均気温は10.7℃、月平均気温では最暖月は8月の22.3℃、最寒月は1月の-0.4℃と、冷涼な気候となっています。また、日照時間は年間2,228.5時間と全国平均（1,934時間）に比べて長く、降水量は1,138.4mmと全国平均（1,714mm）に比べて少なくなっており、日照条件に恵まれた地域です（表2.1-2）。

表2.1-2 大泉測候所の平年値データ（平成20年（2008年））

	降水量(mm)	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	平均風(m/s)速	日照時間
1月	38.0	-0.4	4.1	-4.9	2.9	197.3
2月	41.6	-0.2	4.6	-4.7	2.8	192.7
3月	79.9	3.5	8.5	-1.4	2.5	203.8
4月	85.2	9.4	14.9	4.1	2.4	209.0
5月	94.8	14.1	19.4	9.2	2.0	201.5
6月	154.3	17.8	22.2	14.0	1.6	152.1
7月	144.3	21.2	25.6	17.6	1.4	167.1
8月	132.5	22.3	27.3	18.6	1.5	200.4
9月	187.8	18.3	22.6	14.7	1.5	137.7
10月	106.0	12.5	17.2	8.2	1.9	171.8
11月	53.5	7.2	12.1	2.7	2.4	187.5
12月	20.4	2.2	7.0	-2.4	2.8	205.4
年	1,138.4	10.7	15.5	6.3	2.2	2,228.5

(出典：気象庁HP(<http://www.data.jma.go.jp/>))

2.2 社会特性

(1) 人口・世帯数

人口は、平成2年（1990年）以降、平成16年（2004年）までゆるやかな増加傾向がみられましたが、近年ではやや減少しています（図2.2-1）。

世帯数は、増加傾向がみられ平成20年で19,765世帯であり、平成2年の14,862世帯に比べ約5,000世帯増加しています。また、1世帯あたりの人数は、減少傾向がみられ平成20年で2.50人であり、平成2年の3.16人に比べ減少しています（図2.2-2）。

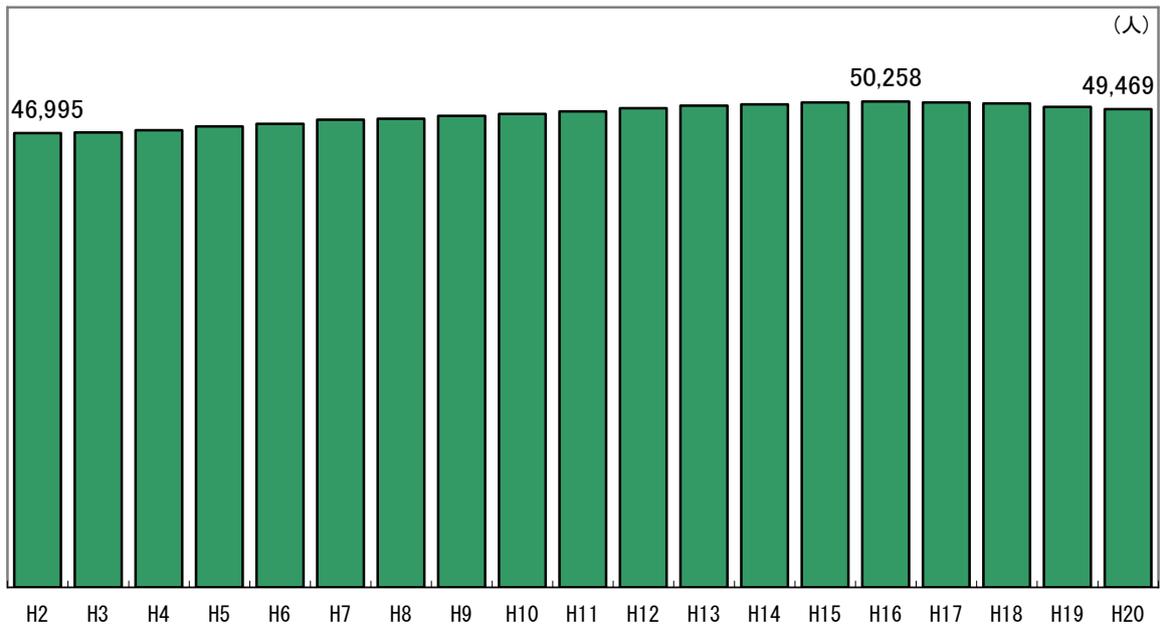


図2.2-1 人口の推移

(出典：市町村別住民基本台帳（各年度12月末時点）、北杜市HP (<http://www.city.hokuto.lg.jp/hokuto/>))

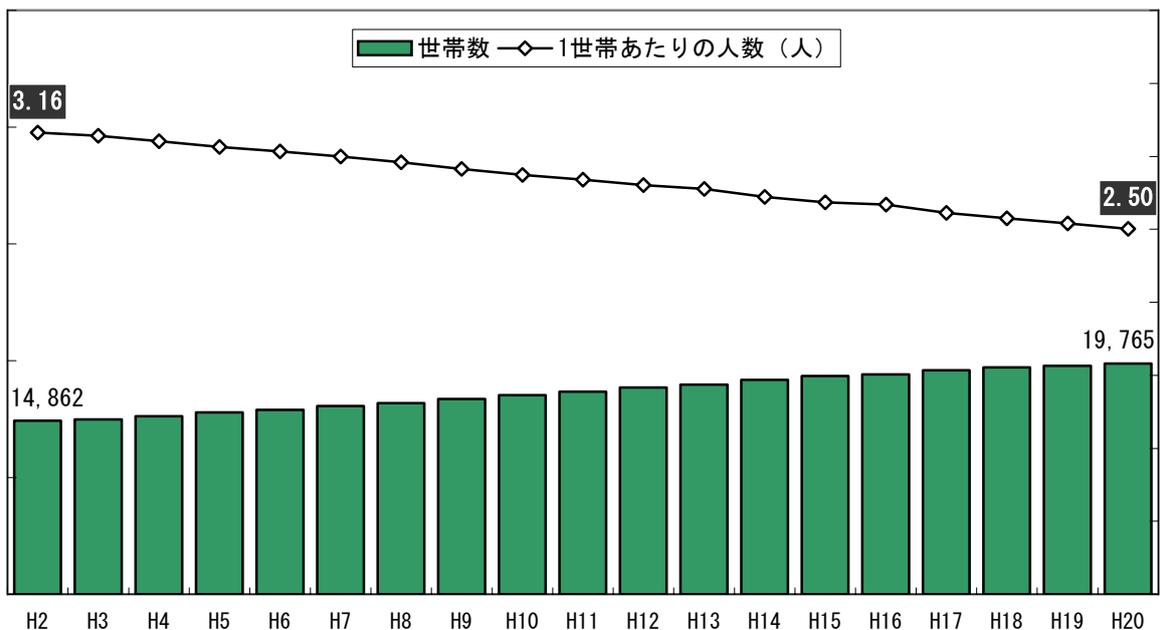


図2.2-2 世帯数・1世帯あたり人数の推移

(出典：市町村別住民基本台帳（各年度12月末時点）、北杜市HP (<http://www.city.hokuto.lg.jp/hokuto/>))

(2) 産業構造

① 就業者数

就業者数は、昭和60年（1985年）から平成17年（2005年）の間、26,000人台でほぼ横ばいとなっています。

産業分類別（大分類）では、第一次産業の割合が低下する一方で、第三次産業の割合が上昇しており、平成17年（2005年）には約5割を占めています（図2.2-3）。

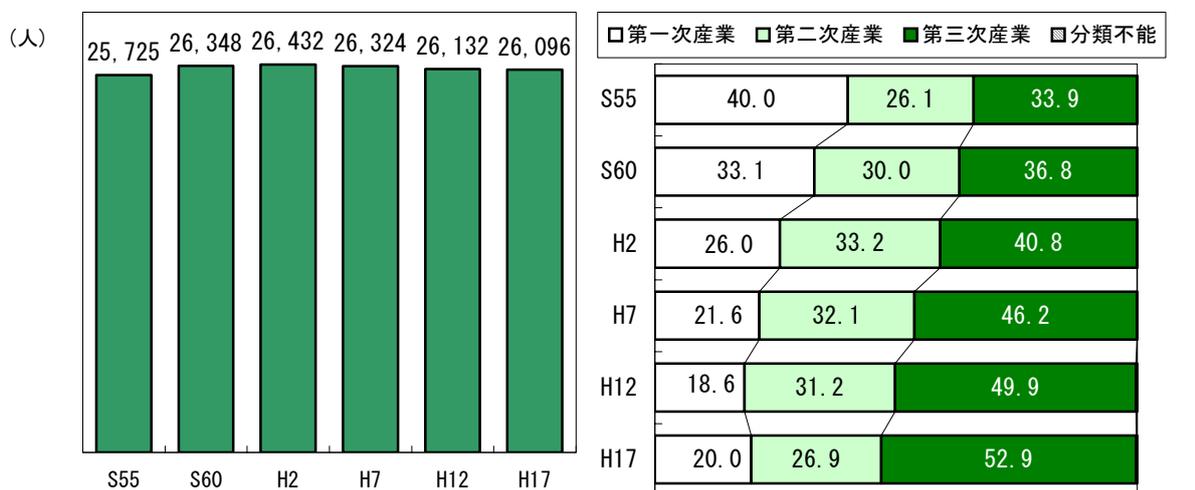


図2.2-3 (左) 就業者数の推移・(右) 産業分類（大分類）別就業者数割合の推移
(出典：国勢調査)

② 事業所数・従業者数

平成18年（2006年）の事業所・企業統計調査によると、事業所数は2,771事業所、従業者数は19,907人となっており、事業所数・従業者数ともに、平成8年（1996年）から減少しています（図2.2-4）。

産業分類別でみると、事業所数では「卸売・小売業」（24.0%）、「飲食店、宿泊業」（22.3%）、「サービス業」（14.5%）、従業者数では「製造業」（25.8%）、「卸売・小売業」（15.5%）、「飲食店、宿泊業」（14.5%）が上位3位を占めています。

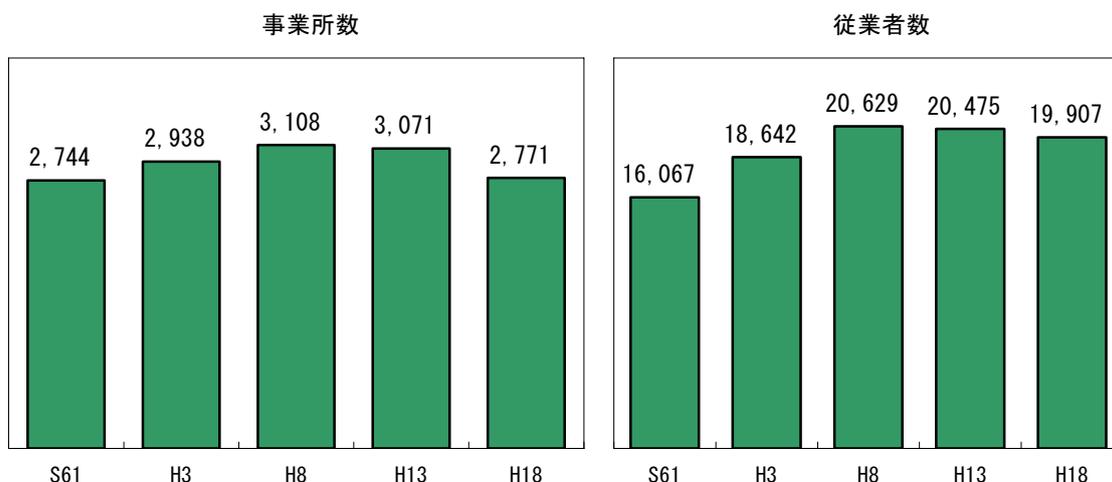


図2.2-4 事業所数・従業者数の推移
(出典：事業所・企業統計調査)

販売農家数 (N=3,467)

(3) 農林業

①販売農家数

平成17年（2005年）の北杜市の販売農家数は3,467戸であり、兼業農家が約3/4を占めています（図2.2-5）。

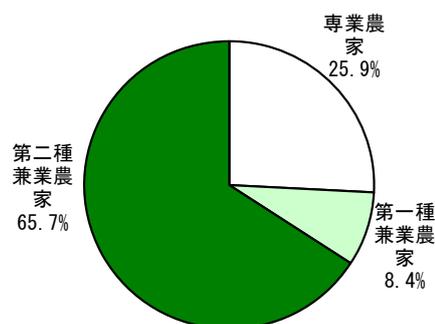


図2.2-5 平成17年の販売農家数の割合

②農業産出額

平成17年（2005年）の農業産出額は73億4,000万円となっています。耕種が約7割を占め、「米」（36.9%）、「野菜」（18.3%）、「乳用牛」（11.6%）の割合が高くなっています（図2.2-6）。収穫量が多い野菜は「だいこん」（2,665t）や「はくさい」（2,227t）等であり、収穫量が多い果樹は、「りんご」（623t）や「ぶどう」（198t）等となっています。また、水稻の収穫量は10,800t、作付面積は1,870haとなっています。また、北杜市内で栽培される「梨北米」が（財）日本穀物検定協会の米食味ランキングで4年連続「特A」評価を受けています。

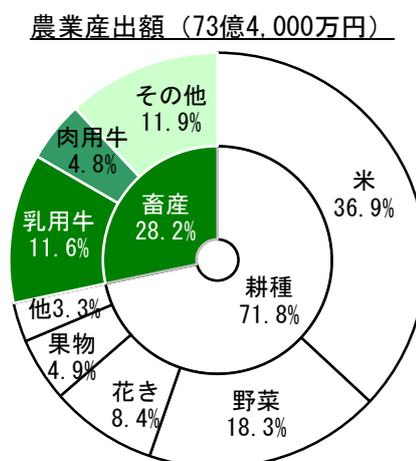


図2.2-6 農業産出額

（出典：農林水産省「平成17年生産農業所得統計」、2005年農林業センサス）

③耕地面積

耕地面積は5,170haで、田が61.5%、畑が38.5%を占めています。

④家畜飼養戸数・頭羽数

家畜飼養頭羽数は、乳用牛が1,740頭、肉用牛が1,970頭となっています（表2.2-1）。

表2.2-1 家畜飼養戸数・頭羽数

	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏
飼養戸数（戸）	41	32	2	16
飼養頭羽数	1,740	1,970	X	X

*Xは、秘密保護上統計数値を公表しないもの。

（出典：2005年農林業センサス）

⑤林業

林業経営体数は173経営体で、その中で法人化しているのは18経営体であり、大半は小規模な家族経営となっています。

(4) 工業

平成19年（2007年）の製造業の事業所数は、145事業所、従業員数は5,788人、製造品出荷額等は2,349億円となっており、従業員数、製造品出荷額等が増加傾向にあります（図2.2-7）。

また、平成19年（2007年）の製造品出荷額等を産業中分類別で見ると、「一般機械器具」が23.8%で最も高く、次いで「窯業・土石製品」（23.4%）、「飲料・たばこ・飼料」（20.6%）、「輸送用機械器具」（7.2%）、「食料品」（7.0%）等が続いています。

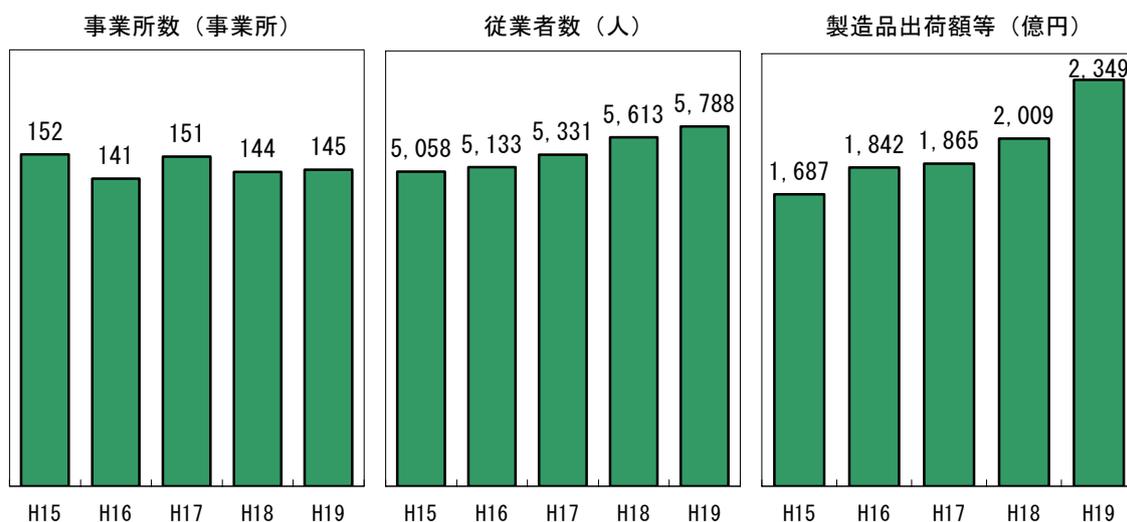


図2.2-7 工業（事業所数・従業者数・製造品出荷額等）の推移

（出典：工業統計表）

(5) 商業

平成19年（2007年）の商業統計調査では、事業所数は621事業所、従業者数は2,722人、年間商品販売額は409億円となっており、全ての項目で前回調査を下回っています（図2.2-8）。

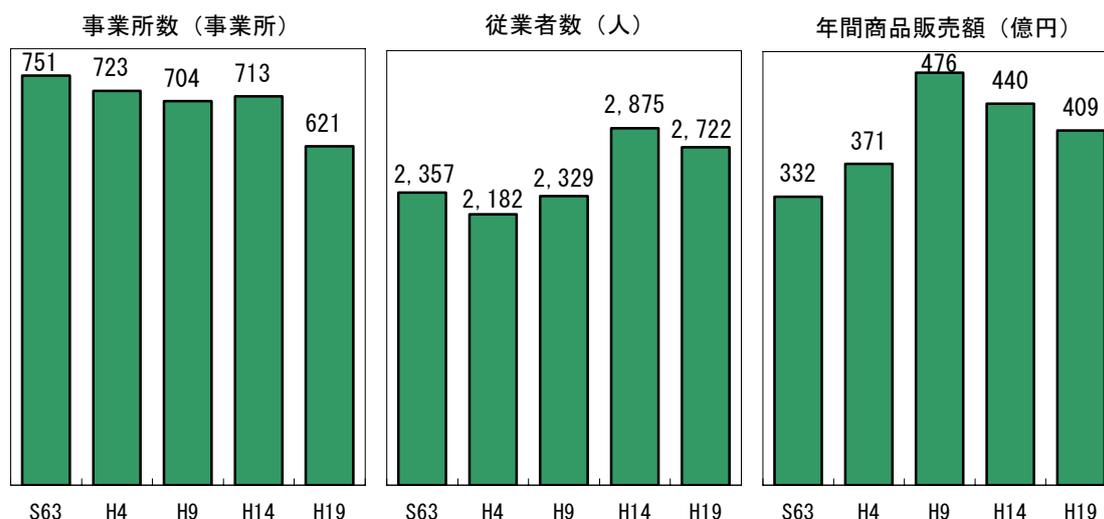


図2.2-8 商業（事業所数・従業者数・年間商品販売額）の推移

（出典：商業統計調査昭和63年、平成4年、平成9年、平成14年、平成19年）

(6) 観光業

①概要

峡北地域（北杜市と韮崎市との合計）への年間観光客数の推移をみると、平成20年は大河ドラマ等の影響により増加した前年に比べて約60万人の減少でしたが、平成14年以降の年間700万人以上というラインは維持しています。日帰り客・宿泊客別では、日帰り客が約9割を占めており、宿泊客が伸び悩んでいる状況にあります（図2.2-9）。

また、月別の観光客数をみると、8月の約135万人が最も多く、次いで7月の約79万人、5月の約75万、10月の約73万人の順でした（図2.2-10）。

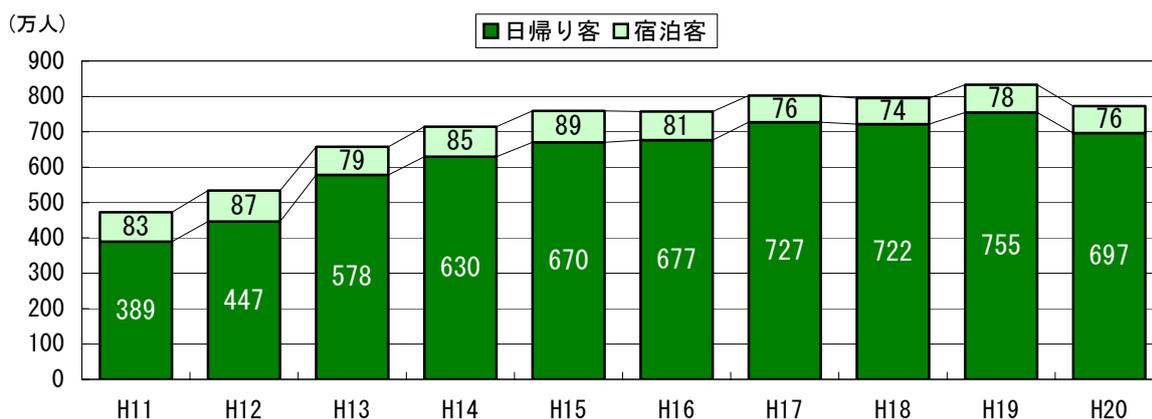


図 2.2-9 峡北地域（北杜市と韮崎市の合計）の年間観光客数の推移

（出典：山梨県観光客動態調査）

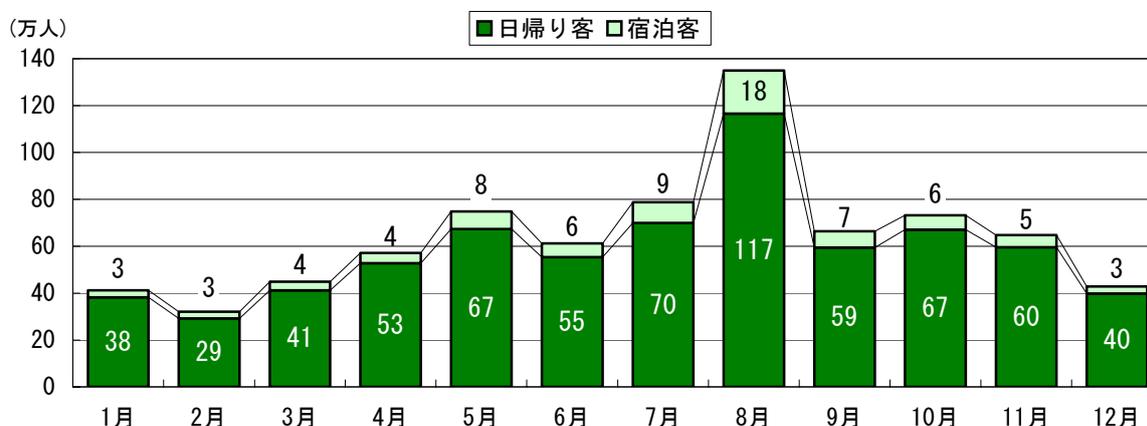


図 2.2-10 峡北地域（北杜市と韮崎市の合計）の月別観光客数（平成20年）

（出典：山梨県観光客動態調査）

②北杜市における取り組み

北杜市は、平成19年（2007年）6月2日に「長期滞在型リトリートの杜」宣言を行いました。「リトリート」とは、仕事や日常生活を離れ、自分だけの時間や人間関係に浸ってリフレッシュするという意味で、「癒しの空間」と意味づけており、暮らす感覚で地域とコミュニケーションできる滞在プランの提供を目指しています。また、コンソーシアム（事業共同体）の組織づくりや滞在期間中の行動をコーディネートしてくれる地域コンシェルジュの育成を行っています。

(7) 交通

① 広域交通網

北杜市を中央自動車道が縦貫しており、東京方面から須玉・長坂・小淵沢の3つのインターチェンジがあり、首都圏（新宿IC）から約2時間でアクセスできます。主要道路としては国道20号線及び141号線があるほか、広域農道等が整備されています（図2.2-11）。



図 2.2-11 広域交通網図

(出典：北杜市ホームページ <http://www.city.hokuto.lg.jp/>)

② 鉄道

市内をJR中央線・小海線が通っています。JR中央線は、日野春駅、長坂駅、小淵沢駅の3駅があり、首都圏（新宿駅）から小淵沢駅まで約2時間で結ばれています。JR小海線は、小淵沢駅（JR中央線）から長野県の小諸駅を結び、市内には小淵沢駅、甲斐小泉駅、甲斐大泉駅、清里駅の4駅があり、環境に配慮した世界初のハイブリッド型鉄道車両も運行し、観光客誘致にも一役かっています。

なお、明野、須玉方面へ行く場合には、葦崎駅からのアクセスが主流です。

③ 路線バス

期間限定ですが、市内の観光施設をつなぐ路線バスが運行されています（表2.2-2）。

表2.2-2 路線バス運行時期・コース

<p>清里ピクニックバス *平成21年4月25～ 11月23日</p>	<p>【平日清里・大泉周遊】 清里駅→キープ農場前→清泉寮→東沢大橋→まきば公園→八ヶ岳倶楽部→パノラマの湯→ロイヤルホテル→八ヶ岳大橋・中村農場前→吐竜の滝入口→清里駅 清里駅→学校寮・明治大学前→清里の森→美し森→清里高原ホテル→清泉寮→キープ農場前→清里駅 清里駅→オルゴール博物館→レストハウス八ヶ岳前→小須田牧場前→黒井健絵本ハウス→丘の公園・天女の湯前→谷口牧場→輿石牧場→清里駅 1日周遊券：(大人) 600円・(小人) 300円 1回乗車券：(大人) 300円・(小人) 150円</p>
<p>八ヶ岳高原リゾートバス *平成21年4月4日～ 11月29日 *7月17日までと10・ 11月は土日祝</p>	<p>小淵沢駅→スーパーやまと→身曾岐神社→但馬家幸之助→スパティオ小淵沢→中村キース・ヘリング美術館→ルラシュ癒しの社→しのはらの森→えほん村→三分一湧水館→セラヴィリゾート泉郷→平山郁夫シルクロード美術館→ダイヤモンド八ヶ岳美術館→パノラマの湯→大泉高原八ヶ岳ロイヤルホテル 1日フリーパス 600円</p>
<p>甲斐駒ヶ岳周遊バス *平成21年4月1日～ 11月23日 *4月の桜の時期はほぼ 毎日、それ以外は土日祝</p>	<p>【桜ルート】 韮崎駅→韮崎大村美術館→武川米直販所なごみ→まちの駅武川直販所→実相寺・神代桜→眞原桜並木→眞原セラピー上原前→フレンドパークむかわ→藪ノ湯みはらし→篠沢大滝キャンプ場→B&B 白州→ナカヤマ住設前→べるが・尾白の湯→尾白川溪谷→シャルマンワイン→台ヶ原宿七賢・金精軒 片道：韮崎駅～実相寺 780円、韮崎駅～尾白川溪谷 1,280円</p>

*運行時期は、平成21年(2009年)のものです。

(出典：山梨交通ホームページ <http://yamanashikotsu.co.jp/>)

④北杜市民バス

北杜市民バスは、北杜市が運営するコミュニティバスであり、清里長坂線、小泉長坂線、大泉長坂線、小淵沢長坂線、横手日野春線等、12の路線で運行されています。普通運賃(平成22年2月現在)は、3km未満が200円、3～6km未満が300円、6～10km未満が400円、10～15km未満が500円、15km以上が600円(3歳未満無料、中学生未満半額)、及び巡回線(明野、須玉、小淵沢、武川各路線)では200円均一となっています。

2.3 新エネルギー賦存状況

北杜市地域新エネルギービジョンの基礎調査結果では、北杜市における新エネルギーの賦存状況について、太陽エネルギー（太陽光発電・太陽熱利用）が◎、木質資源、畜産資源、廃食油、中小水力が○と評価されており、同ビジョンでは、これらのエネルギー資源の活用が、短期・中期的には中心であることが示されています（表 2.3-1、図 2.3-1）。

表 2.3-1 北杜市の新エネルギー賦存量・期待可採量

種別	賦存量 (百万 MJ/年)	期待可採量		評価
		熱利用 (千 MJ/年)	発電利用 (千 MJ/年)	
太陽光発電	2,951,446	-	234,047	◎
太陽熱利用		288,108	-	
風力発電	6,936	-	210,863	△
木質資源	40,308	546,966	182,322	○
畜産資源	37	27,991	9,330	○
農産資源	163	122,532	40,844	△
廃食油	9	6,761	-	○
可燃ゴミ	43	32,197	6,439	△
し尿汚泥	1	668	223	×
中小水力	2,332	-	16,636	○
合計	3,001,275	1,025,223	700,704	

◎：非常に有望、○：有望、△：あまり期待できない、×：良くない
 (出典：北杜市地域新エネルギービジョン報告書)

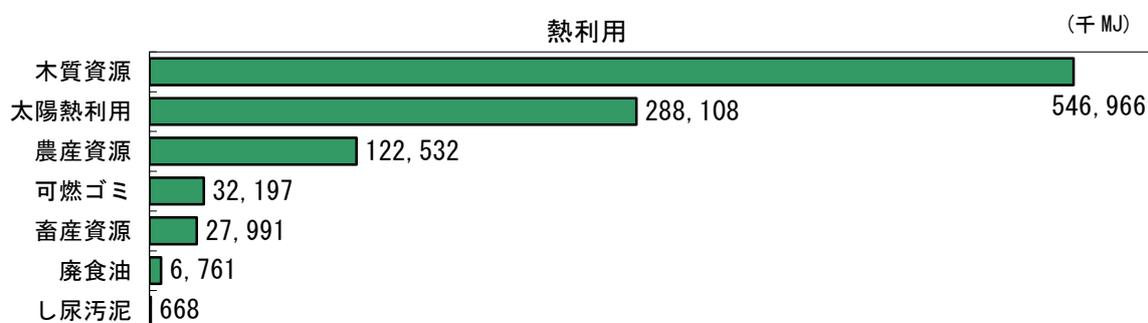
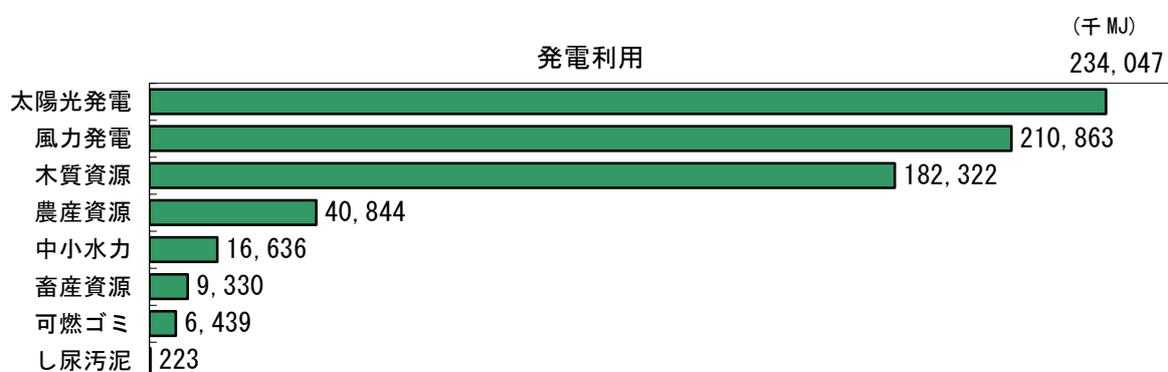


図 2.3-1 新エネルギー期待可採量：【上図】発電利用・【下図】熱利用
 (出典：北杜市地域新エネルギービジョン報告書より作図)

2.4 新エネルギー導入状況

(1) 行政（市・県）導入済施設

行政においては、太陽光発電や中小水力を中心に導入が進んでいます（表 2.4-1）。

表 2.4-1 新エネルギー導入状況

導入地域	導入場所・施設名	新エネルギー施設
明野町	明野ふるさと太陽館	太陽光発電 30kW
	市立明野中学校	太陽光発電 20kW、ペレットストーブ、OMソーラー
	市営ひまわり団地	ハイブリッド街路灯 1基
高根町	丘の公園	太陽光発電 95kW
	県立八ヶ岳自然ふれあいセンター	太陽光発電 5.2kW
	大門ダム（清里湖）	水力発電 230kW
	市立高根中学校プール	太陽熱利用
	市立みどり保育園	太陽熱利用
	市立さくら保育園	太陽熱利用
	福祉村みのりの里	ハイブリッド街路灯 1基
	パル・実郷	太陽光発電 20kW
	村山六ヶ村堰水力発電所	水力発電 320kW
長坂町	三分一湧水館（三分一湧水公園）	太陽光発電 3.2kW、水力発電 1kW、ハイブリッド街路灯 5基
	NEDO 北杜サイト	太陽光発電約 2,000kW
	県道横手日野春停車場線	エコ照明 8基 9.6W
大泉町	市立泉中学校	ハイブリッド街路灯 1基
	甲斐大泉温泉パノラマの湯	太陽光発電 40kW
小淵沢町	保健センター	ハイブリッド街路灯 1基
	市立小淵沢中学校	OMソーラー、ハイブリッド街路灯 2基 太陽光街路灯 7基
武川町	むかわの湯	ハイブリッド街路灯 1基
市役所	公用車	BDF 燃料利用車 5台・ハイブリッド自動車 6台

(2) 市民・事業者の取り組み

市民においては、平成 18 年（2006 年）度～平成 21 年（2009 年）度 12 月までに北杜市住宅用太陽光発電システム設置費補助金の利用による導入量は、690kW です。

また、事業者においては、太陽光発電を中心に導入がされているほか、JR 小海線では世界初のハイブリッド型鉄道車両が導入されています（表 2.4-2）。

表 2.4-2 新エネルギー導入状況

導入地域	導入場所・施設名	新エネルギー施設
高根町	明治大学清里セミナーハウス	太陽光発電 30kW
	(株) 環境保全研究所社屋	太陽光発電 16.5kW
	キープ国際研修交流センター	太陽光発電 30kW、木質ペレットボイラー
長坂町	(株) キッツ長坂工場試作工場棟	太陽光発電 40kW
大泉町	日本マイクロコーティング (株) 山梨プラント	太陽光発電 120kW
	(株) ニチレイ・アイス大泉アイスプラント	太陽光発電 50kW
	日本小水力発電 (株)	水力発電 4.8kW
JR	JR 小海線	ハイブリッド型鉄道車両

3 北杜市内の環境関連施設及び観光資源に関する調査

3.1 エリア別

(1) ハヶ岳南麓高原エリア（高根町、長坂町、大泉町、小淵沢町）



表 3.1-1 エリア図

本エリアは、国内屈指のリゾート地である清里を有する高根、国蝶であるオオムラサキの一大生息地である長坂、広大な牧場とハヶ岳の大自然に抱かれた大泉、乗馬等のアウトドアが盛んな小淵沢から構成されています。ハヶ岳高原を駆け抜ける爽やかな風に、芸術と文化の息吹を感じることができるエリアです。

また、NEDO 北杜サイト、村山六ヶ村堰水力発電所、三分一湧水館等、太陽光発電や水力発電等の代表的な施設がある一方で、環境教育に関する活動が活発な地域でもあり、新エネルギーや環境に関するハードとソフトが揃っています（図 3.1-1、表 3.1-1）。

表 3.1-1 ハヶ岳南麓高原エリアにおける環境関連施設・観光施設（1/4）

No	施設名等	施設概要	区分	
			環境	観光
1	三分一湧水館 （三分一湧水公園）	水力発電 1kW、太陽光発電 3.2kW、ハイブリッド街路灯水と環境をテーマにした施設で、資料館では三分一湧水の歴史や水力発電、風力発電、太陽光発電の仕組み等が学べる。 名水百選に認定（環境省）	○	○
2	オオムラサキセンター （オオムラサキ自然公園）	環境教育の取り組みとして、オオムラサキ観察ノートづくり、里山づくり（通年での下草刈りや落ち葉掃き、春：棚田の種まき、夏：昆虫観察会、秋：きこり体験、冬：炭焼き体験等）の体験プログラムを実施している。	○	○
3	丘の公園	太陽光発電 95kW NEDO フィールドテスト事業終了後、県独自に実証試験を実施中。 天女の湯、多機能温泉プール、オートキャンプ場、ゴルフコース、宿泊施設、レストラン等を併設。	○	○

表 3.1-1 ハヶ岳南麓高原エリアにおける環境関連施設・観光施設 (2/4)

No	施設名等	施設概要	区分	
			環境	観光
4	(財) キープ協会 (清泉寮/国際研修交流センター)	自然体験型の環境教育プログラムの実践と指導者育成など先進的な環境教育に取り組む。 清泉寮は、自然学校・キャンプ場・ポールラッシュ記念博物館・国際研修交流センターなどで構成。	○	○
5	甲斐大泉温泉パノラマの湯	太陽光発電 40kW 食事処、宿泊施設を併設。	○	○
6	JR 小海線とハヶ岳	ディーゼルエンジンとリチウムイオン蓄電池を組み合わせ、駆動力に電気モーター使用して走る環境配慮型のハイブリッド鉄道車両が走る。 北杜 24 景	○	○
7	NEDO 北杜サイト	太陽光発電 約 2,000kW 国内外 9ヶ国 27 種類の太陽電池モジュールで構成。 平成 22 年度末で実証研究終了。 新エネ百選に認定 (経済産業省・NEDO 技術開発機構)	○	
8	村山六ヶ村堰水力発電所	水力発電 最大出力 320kW	○	
9	高根中学校	太陽熱利用	○	
10	みどり保育園	太陽熱利用	○	
11	さくら保育園	太陽熱利用	○	
12	福祉村みのるの里	ハイブリッド街路灯	○	
13	パル・実郷	知的障害者通所授産施設。太陽光発電 20kW	○	
14	たかねの湯	ハヶ岳の麓、富士山とアルプスを望む自然の中の温泉。		○
15	南ハヶ岳花の森公園	「道の駅南きよさと」内に併設されている体験農園施設。四季折々の花や緑に包まれた園内では、新鮮な野菜の収穫から食の体験まで楽しめる。 体験内容：ピザ作り、収穫体験、押し花、草木染め、農業体験等。		○
16	高根クラインガルテン	都市と農村のふれあいの郷。広大な園内には、農園・農産物販売所・休養・宿泊施設・ハーブ園・ゲートボール場・収穫体験農園を備え、新鮮な野菜の収穫や各種手作りの体験ができる。		○
17	清里高原とポールラッシュ通り	ハヶ岳南麓に広がる高原は清里の代名詞。清里の父 (ポールラッシュ) の名の通りは清泉寮へ続く。 北杜 24 景		○

表 3.1-1 ハヶ岳南麓高原エリアにおける環境関連施設・観光施設 (3/4)

No	施設名等	施設概要	区分
18	清里ミルクプラント	乳製品加工処理施設。乳製品製造過程見学、チーズ・バター・アイスクリーム作りができる。	○
19	清里現代美術館	質の高い現代美術を紹介する美術館	○
20	えほんミュージアム清里	常設展示のほか、年間3～4回企画展を開催	○
21	清里フォトアートミュージアム	清里高原の澄んだ大気と深い緑に包まれた写真美術館。	○
22	萌木の村	宿泊施設、クラフト工房、レストラン、博物館等が集まるヨーロッパの田舎をイメージしたビレッジ。	○
23	ほたるの里秋葉公園	6月にほたる祭りが開催される。	○
24	高原大橋	高原大橋から観るハヶ岳の迫力に圧倒される。眼下に広がる溪谷は四季折々の美しさを見せる。 北杜 24 景	○
25	東沢大橋・まきば公園	新緑や紅葉の風景は絶好の撮影ポイント 北杜 24 景	○
26	清春芸術村	芸術家たちのアトリエ、白樺派・印象派の作品を収蔵する美術館。廃校になった清春小学校の跡地。30本のソメイヨシノが今も残る桜の名所。 北杜 24 景	○
27	富士見坂	標高 1,000m の富士山の絶景ポイント。 北杜 24 景	○
28	平山郁夫シルクロード美術館	日本画壇を代表する平山郁夫画伯の作品のみならず、画伯がシルクロードで蒐集したという 9,000 点以上の収蔵品を順次展示しています。 北杜 24 景	○
29	吐竜の滝・川俣川溪谷	ハヶ岳を水源とする溪谷は新緑と紅葉の時期が美しい。 北杜 24 景	○
30	信玄棒道と石仏	武田信玄が作った軍用道路。 北杜 24 景	○
31	谷戸城址・金生遺跡	武田信玄の祖、新羅三郎義光に縁のある城と、国指定の史跡として高い価値をもつ遺跡。 北杜 24 景	○
32	スパティオ小淵沢	食と健康をテーマにした施設。 宿泊施設、レストラン、延命の湯、農産物直売コーナー等を併設。陶芸、そば打ち等 15 種類の体験ができる。	○
33	花パークフィオーレ小淵沢	良好な自然環境と農地を活用した公園 富士山・南アルプス・ハヶ岳を望む景観のもと、農業や流れる水に親しみ自然とふれあうことのできる	○

表 3.1-1 八ヶ岳南麓高原エリアにおける環境関連施設・観光施設 (4/4)

No	施設名等	施設概要	区分	
			環境	観光
34	大滝湧水	三分一湧水とともに八ヶ岳南麓高原湧水群として環境省の名水百選に認定。春は新緑、秋は紅葉が楽しめる。		○
35	神田の大イトザクラ	樹齢 400 年のエドヒガンザクラの変種で、県内でもまれな枝垂れ桜の巨木で樹形も良く、県の天然記念物に指定。北杜 24 景		○
36	八ヶ岳登山歴史館 (森の駅)	三角屋根・木造平屋建てで、八ヶ岳に関する史料や写真を展示、登山者や観光客の交流拠点施設。		○
37	権現小屋	山小屋 4 月下旬～11 月上旬頃まで。収容人数 50 名		○
38	青年小屋	山小屋 4 月下旬～11 月上旬頃まで。収容人数 150 名		○
40	馬と高原	高原の大自然を背景に乗馬を楽しむ 北杜 24 景		○

(2) 清流と甲斐駒ヶ岳エリア（白州町、武川町）



表 3.1-2 エリア図

本エリアは、日本名水百選の尾白川溪谷等の名水に恵まれ日本酒や洋酒を産出する白州と、日本三大桜・山高神代桜、750m続く眞原桜並木を有する桜の名所で日本有数の米処である武川から構成されています。南アルプスと清らかな水に育まれた大地が特徴的です（図 3.1-2、表 3.1-2）。

表 3.1-2 清流と甲斐駒ヶ岳エリアにおける環境関連施設・観光施設（1/2）

No	施設名等	施設概要	区分	
			環境	観光
41	サントリー白州蒸留所	1973年、アルプス甲斐駒ヶ岳の麓、雄峰を駆け下る清冽な水が白い砂の扇状地をつくり生まれた白州の地にできたサントリーの第二の蒸溜所。	○	○
42	むかわの湯	ハイブリッド街路灯を導入。鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳など南アルプス連峰の山懐に位置する温泉。	○	○
43	東京電力㈱ 小武川第三発電所	水力発電 最大出力 2200kW、最大使用水量 1.22m ³ /s、有効落差 220.02m、発電形式 水路式、発電方式 調整池式、当初運転開始年月 1927.12	○	
44	東京電力㈱ 釜無川第一発電所	水力発電 最大出力 5,800kW、常時出力 2,600kW、有効落差 129.54m、発電形式 水路式、発電方式 調整池式、当初運転開始年月 1926.12	○	
45	東京電力㈱ 釜無川第二発電所	水力発電 最大出力 6,200kW、常時出力 3,200kW、有効落差 89.00m、発電形式 水路式、発電方式 調整池式、当初運転開始年月 1926.11	○	
46	東京電力㈱ 釜無川第三発電所	水力発電 最大出力 1,000kW、常時出力 560kW、有効落差 15.12m、発電形式 水路式、発電方式 流込み式、当初運転開始年月 1938.02	○	

表 3.1-2 清流と甲斐駒ヶ岳エリアにおける環境関連施設・観光施設 (2/2)

No	施設名等	施設概要	区分	
			環境	観光
47	フォッサ・マグマの湯	古くから湯治場として広く知られてきた。南アルプスの山懐に抱かれた標高 800m の釜無川の最上流河岸に建つ温泉は、フォッサ・マグマ地帯から湧出する 2 つの源泉を持つ名湯。		○
48	名水、尾白川溪谷	南アルプス、甲斐駒ヶ岳を源流とする清流。初夏の新緑から秋の紅葉まで素晴らしい景色を眺めることができる。環境省の名水百選に認定。 北杜 24 景		○
49	名水公園べるが・甲斐駒ヶ岳	水・森・人をテーマにした尾白川沿いの自然公園。園内には、甲斐駒ヶ岳温泉尾白の湯もある。沿道からは間近に迫る甲斐駒ヶ岳を代表する山々を望むことができる。 北杜 24 景。		○
50	甲州街道台ヶ原宿	江戸時代には甲州街道の宿場町として栄え、古い面影を残した酒蔵や和菓子屋が並ぶ。日本の道百選。 北杜 24 景		○
51	フレンドパークむかわ (大武川河川公園)	甲斐駒ヶ岳の麓にある「源流から河口までの水の一生」をテーマとした公園。		○
52	水車の里公園	大武川の舞鶴橋の近くにある水車の回る小さな公園。南アルプスと水田を背景にゆっくりと回る水車が、訪れる人を和やかな雰囲気させてくれる。		○
53	精進ヶ滝・石空川溪谷	南アルプス、鳳凰三山を源とする清流。精進ヶ滝は落差 121m を誇る。秋には素晴らしい紅葉を楽しむことができる。 北杜 24 景		○
54	武川米の郷：田園風景	甲斐駒ヶ岳に抱かれた武川米の里。48 米 (ヨンパチマイ) で知られる武川米は全国にファンを持つ。秋の黄金色の田園風景は必見。 北杜 24 景		○
55	山高神代桜・眞原の桜並木	神代桜は樹齢 2000 年を誇る国の天然記念物。眞原の桜並木は地域の発展を願い昭和 40 年の植樹。 北杜 24 景		○

(3) 太陽と茅ヶ岳・瑞牆山エリア（明野町、須玉町）



表 3.1-3 エリア図

本エリアは、日照時間日本一を誇る明野と、世界屈指のラジウム含有量を誇る増富ラジウム温泉を有する須玉から構成されています。太陽の恵みに満ちあふれる地域です（図 3.1-3、表 3.1-3）。

また、須玉町では、構造改革特区「増富地域交流振興特区」が内閣府認定を受け、NPO 法人が中心となり、都市と農村の交流を中心とした地域活性化に取り組んでいます。

表 3.1-3 太陽と茅ヶ岳・瑞牆山エリアにおける環境関連施設・観光施設（1/2）

No	施設名等	施設概要	区分	
			環境	観光
56	明野温泉太陽館（ふるさと太陽館）	太陽光発電 30kW 温泉・宿泊施設。食事処、そば工房を併設。	○	○
57	みずがき山自然公園	「第 52 回全国植樹祭」（平成 13 年）の主会場跡地を芝生公園に整備し、管理棟を設置。森林教育と都市農山村の交流の拠点として活用されている。 北杜 24 景	○	○
58	明野中学校	太陽光発電 20kW、0M ソーラー、ペレットストーブ	○	
59	東京電力（株） 津金発電所	水力発電 最大出力 700kW、常時出力 575kW、最大使用水量 0.70m ³ /s、有効落差 133.42m 流域面積 40.0km ² 、発電形式 水路式、発電方式 流込み式、当初運転開始年月 1924.09	○	
60	東京電力（株） 江草発電所	水力発電 最大出力 2,400kW、常時出力 700kW、最大使用水量 2.23m ³ /s、有効落差 138.25m、発電形式 水路式、発電方式 流込み式、当初運転開始年月 1931.05	○	

表 3.1-3 太陽と茅ヶ岳・瑞牆山エリアにおける環境関連施設・観光施設 (2/2)

No	施設名等	施設概要	区分	
			環境	観光
61	山梨県企業局 塩川発電所	水力発電 最大出力 1,100kW、常時出力 230kW、最大使用水量 2.80m ³ /s、有効落差 50.34m、発電形式 ダム式、発電方式 流込み式、当初運転開始年月 1998.04	○	
62	山梨県企業局 塩川第二発電所	水力発電 最大出力 82kW (導入予定) 塩川浄水場の減圧施設に水道水の余剰圧力を利用した最大出力 82kW の水力発電設備を設置予定。	○	
63	太陽の里、ひまわり畑とフラワーセンター	日照時間日本一の地に咲く一面のひまわり畑。フラワーセンターには、四季の花が咲き誇る。ハイジの村には、アルプスの少女・ハイジの世界を 4m 幅の大ジオラマで再現した展示室等がある。 北杜 24 景		○
64	明野観光農園	①アマワラビ穫り：5月初旬～7月初旬、②さくらんぼ狩り：6月中旬～7月上旬、③ブルーベリー摘み取り：6月中旬～8月上旬、④じゃがいも収穫体験：7月中旬～9月中旬、⑤枝豆摘み取り体験：7月中旬～8月下旬、⑥さつま芋収穫体験：9月。明野温泉太陽館(宿泊可能)、明野ふれあいの里(キャンプ場)が隣接。夏には、ひまわりイベント『明野サンフラワーフェス』が開催される。		○
65	すたま自然健康村施設(増富の湯)	豊富なラジウム含有量を誇る武田信玄縁の隠し湯。本谷川渓谷は美しい紅葉で知られる。 北杜 24 景		○
66	鉱泉みずがきランド	瑞垣山の麓の農村にある素朴で小さな立ち寄り温泉。		○
67	津金の三代校舎 (須玉歴史資料館、大正館、 おいしい学校)	明治・大正・昭和と日本で唯一 3 代の校舎が現存する複合体験施設。 明治校舎(須玉歴史資料館) ：山梨県指定文化財。 大正校舎(農業体験施設「大正館」) ：農業体験、そば打ち、工芸教室等を開催している。昭和校舎(おいしい学校)。 ：食をテーマにした複合施設。宿泊施設 B&B、本格的イタリアンレストラン『ぼのポーノ』、パン工房、『香りの湯』(ハーブ湯)、和室休憩所、食事処『古宮(ふるみや)』、地元農産物直売所が併設されている。 北杜 24 景		○
68	茅ヶ岳広域農道	北に八ヶ岳、南に富士山、西に南アルプス、東に茅ヶ岳の山々を望むことができる。 北杜 24 景		○

3.2 北杜市で実施されているエコツアー・体験イベント

市内で実施されているエコツアーとしては、清流と甲斐駒ヶ岳エリアや八ヶ岳南麓高原エリアで実施されているトレッキングや登山が中心です。また、体験イベントとしては、里山整備や農業体験等があります（表 3.2-1）。

なお、山梨県では、エコツアーガイドの育成講座を開催し、エコツアーを根付かせていくための人づくりを行っています（表 3.2-2）。

表 3.2-1 北杜市で実施されているエコツアー・体験イベント（1/2）

地域	ツアー・イベント名	概要
八ヶ岳南麓高原	冬の里山整備・しいたけの原木づくり体験	2月 ①山の下草刈り（整備）、②間びき（間伐）、③しいたけの原木にしいたけ菌をつめる（30cmの原木を3本持ち帰りできます）。 ◇参加費用:3,000円/大人1人（昼食込み） （子供同伴の場合、子供の昼食代500円）
八ヶ岳南麓高原	2009 八ヶ岳登山 & ウォーク	①登山コース 日時：8月9日（日） 午前7時～午後3時30分（予定） ※雨天中止 コース：三分一湧水館→三味線滝→木戸口公園→三ツ頭→前三ツ頭→天の河原→天女山 募集人員：30名（小学生以上） 参加料：中学生以上3,000円、小学生1,000円 ②ウォーキングコース 日時：8月9日（日） 午前8時30分～正午（予定） ※雨天中止 コース：三分一湧水館→小荒間番所跡→棒道→女取湧水→小荒間古戦場跡→三分一湧水館 募集人員：80名（小学生以下は大人同伴） 参加料：中学生以上1,000円、小学生以下500円
清流と甲斐駒ヶ岳	尾白川溪谷トレッキング（ガイド付き）	◇実施日（平成21年の場合）： ①5月2日（土）、②5月16日（土）、③5月30日（土）、 ④8月8日（土）、⑤8月22日（土）、⑥9月26日（土）、 ⑦10月10日（土）、⑧10月24日（土） 歩行時間：5時間 標高差：330m 尾白川溪谷は甲斐駒ヶ岳の中で一番素晴らしい溪谷美を楽しめる人気のコースです。白い花崗岩の岩床と大小さまざまな滝など清流の美しさが特徴です。空の青、木々の新緑・紅葉、石と砂の白、エメラルドの水を楽しめます。 ◇参加費用：2,500円/人
清流と甲斐駒ヶ岳	日向山ハイキング（ガイド付き）	◇実施日（平成21年の場合）： ①5月9日（土）、②5月23日（土）、③6月6日（土）、 ④9月19日（土）、⑤10月3日（土）、⑥10月17日（土）、 ⑦10月31日（土）、⑧11月7日（土） 歩行時間4時間 標高差：460m 標高1660mの日向山は、気軽にハイキングを楽しめる人気のコースです。花崗岩が風化して出来た自然現象の山頂（雁ヶ原）の「真っ白な砂漠と奇岩」、「八ヶ岳と駒ヶ岳の眺望」が特徴です。矢立石登山口から錦滝経由でゆっくり登山頂に到達した満足感は格別です。 ◇参加費用：2,500円/人

表 3.2-1 北杜市で実施されているエコツアー・体験イベント (2/2)

地域	ツアー・イベント名	概要
清流と 甲斐駒ヶ岳	甲斐駒ヶ岳登山 (ガイド付)	<p>◇実施日 (平成 21 年の場合) : 7月 25 日 (土) ~ 7月 26 日 (1泊 2日)</p> <p>歩行時間: 1 日目 9 時間 2 日目 10 時間 標高差: 2,197m 標高 2,967m の古くは信仰の山としても名を馳せた甲斐駒ヶ岳を表参道の竹宇駒ヶ岳神社から黒戸尾根経由で登る、登山愛好者の憧れのコースです (上級者向き)。山体が他を圧する雄大さを誇ること、花崗岩質の白い岩肌が神秘的な美しさを感じさせること、ハードな登りが特徴。</p> <p>◇参加費用: 16,000 円/人 (宿泊費は含まず、ガイド、保険費用)</p>
太陽と 茅ヶ岳・ 瑞牆山	田植え体験をしよう!	<p>◇実施日 (平成 21 年の場合) : 6月 7 日 (日)</p> <p>地元の農家の人達が田植えの指導、お米の出来るまでのお話をします。田んぼには素足で入ります。土のぬくもりを直に感じてください。ご希望の方には、秋に収穫した新米をお送りします。5kg: 2,500 円 (送料別) ~。日帰り、宿泊どちらでも OK です。宿泊ご希望の際は会員ペンションをご紹介します。(1泊 2食付税込 7,500 円~)</p> <p>◇定員: 50 名 (先着順)</p> <p>◇参加費: 小学生以上 2,000 円、幼児 500 円 (昼食付き)</p>

(出典: 北杜市観光協会ホームページ <http://www.hokuto-kanko.jp/calendar/>)

表 3.2-2 エコツアーガイドスキルアップ研修会 (山梨県主催) の概要

概要	山梨県では、全県的なエコツーリズムの推進に資するため、魅力あるプログラムづくりや解説のテクニック及び創意工夫、さらに、リスクマネジメント等についての実践的な研修を開催している。
対象	<ul style="list-style-type: none"> ○エコツアーガイド (プロ・アマを問わず現在ガイドとして活動している者) ○エコツアー事業者 (プログラムの企画実施を行う NPO 法人、民間事業者・団体等) ○関係行政機関 (県、市町村・教育委員会等で観光、農林業の振興や地域づくり、生涯学習の推進等に携わる職員)
内容	<p>(平成 21 年 2 月 18 日実施の「八ヶ岳南麓・北杜市エリア編」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「八ヶ岳南麓地域におけるガイドツアー実践のポイント」(仮題) NPO 法人つなぐ 理事長 山本育夫氏 ○エコツアーにおけるサービス (仮題) 富士山登山学校ごうりき代表・NPO 富士山サポートセンター 理事長 近藤光一氏 ○満足度の高いエコツアーの企画と実施に向けて (仮題) (財) キープ協会 常務理事 桶本隆男氏

(出典: 北杜市観光協会ホームページ <http://www.hokuto-kanko.jp/calendar/>)

4 北杜市次世代エネルギーパークの在り方に関する調査

4.1 市民アンケート調査

4.1.1 調査概要

市民を対象に、北杜市次世代エネルギーパーク構想に対する考えや新エネルギー等の利用状況等についてアンケート調査を実施しました。

調査対象者数は、性別・年齢・地域のバランスを考慮した無作為抽出による 1,500 名です。アンケート調査票の郵送発送・回収による自記入方式で、平成 21 年 10 月 28 日～11 月 6 日（締切り）に実施しました。有効回収票数は 424 票、有効回収率は約 28.3%でした。

4.1.2 調査結果

(1) 回答者の特性

性別は、「女性」57.5%、「男性」40.1%となっています。

年齢は、「40代」「50代」「60代」合わせて約6割となっていますが、「20代」「30代」の比較的若い層からも約1/4の回答を得ており、幅広い年代層から回答を得ています。

職業は、「会社員」「主婦」「パート」合わせて約7割を占めています。居住地では、市内8町全ての住民から回答を得ています（図4.1.2-1）。

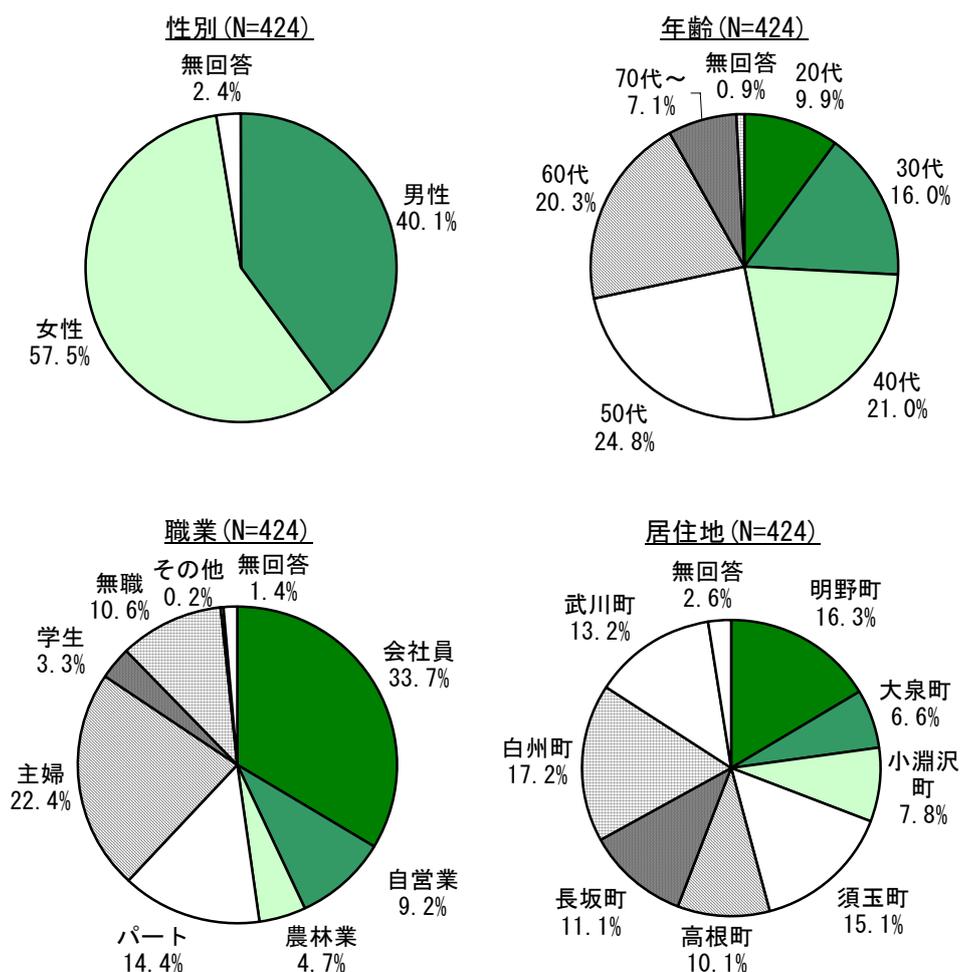


図 4.1.2-1 回答者の特性（性別・年齢・職業・居住地）

(2) 地球温暖化問題・新エネルギーの関心度

地球温暖化問題についての関心度（「非常に関心がある」「関心がある」合わせた数値）は、89.2%となっています（図 4.1.2-2）。

なお、平成 17 年 7 月に、内閣府において全国の 20 歳以上の男女 3,000 人を対象に実施された「地球温暖化対策に関する世論調査」では、「地球の温暖化、オゾン層の破壊、熱帯林の減少などの地球環境問題に関心がありますか」という質問に対して、関心度（「関心がある」「ある程度関心がある」を合わせた数値）は 87.1%となっています。

新エネルギーの関心度（「非常に関心がある」「関心がある」合わせた数値）は、82.5%となっており、地球温暖化問題の関心度と比較すると 6.7 ポイント下回っています（図 4.1.2-3）。

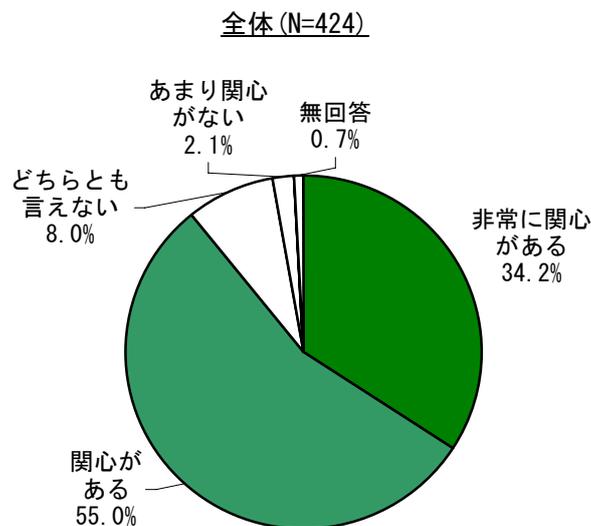


図 4.1.2-2 地球温暖化問題

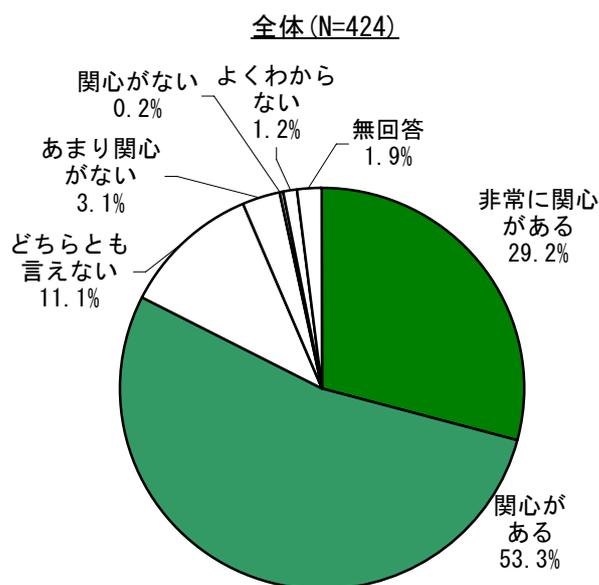
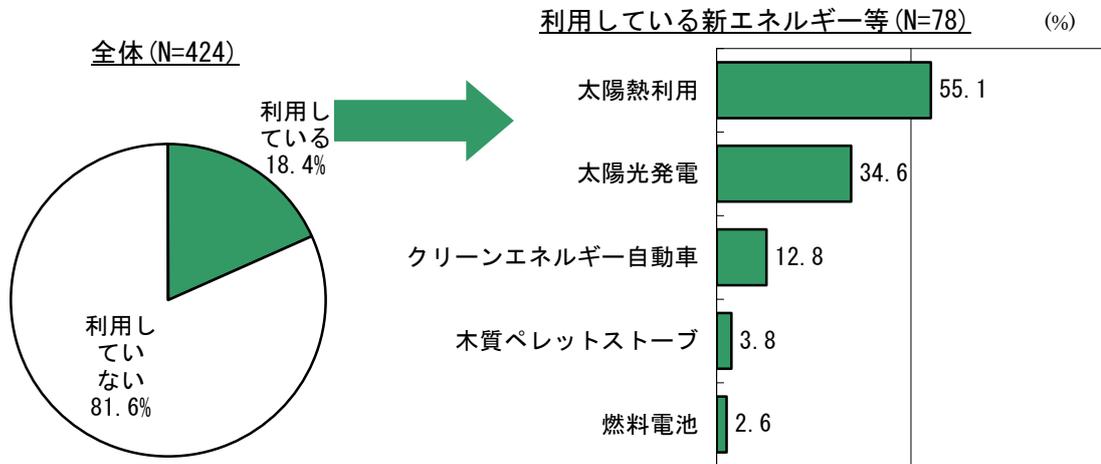


図 4.1.2-3 新エネルギーの関心度

(3) 新エネルギー等の利用状況

新エネルギー等の利用状況は、「利用している」が18.4%であり、利用している種類としては、「太陽熱利用」が55.1%で最も多く、次いで「太陽光発電」が34.6%、「クリーンエネルギー自動車」が12.8%となっています（図4.1.2-4）。

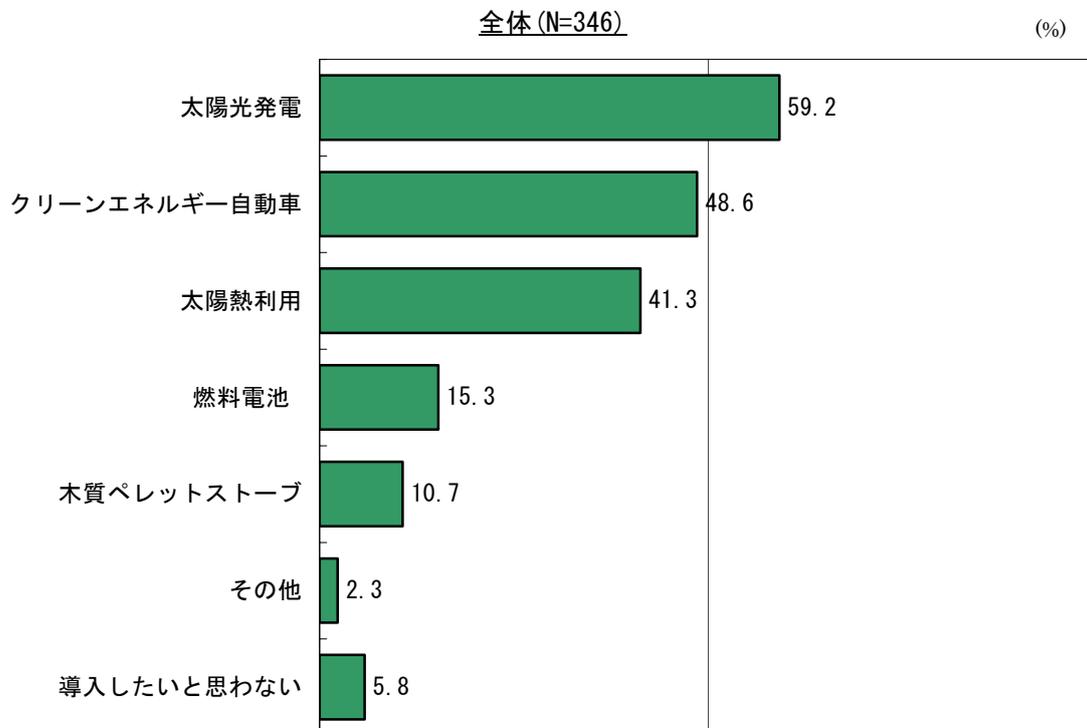


* 右図は、新エネルギー等を「利用している」と回答した人が対象。

図 4.1.2-4 新エネルギー等の利用状況

(4) 今後、導入したい新エネルギー等

今後、導入したい新エネルギー等は、「太陽光発電」が59.2%で最も高く、次いで「クリーンエネルギー自動車」が48.6%、「太陽熱利用」が41.3%となっています（図4.1.2-5）。



* 新エネルギー等を「利用していない」と回答した人が対象。

図 4.1.2-5 今後、導入したい新エネルギー等

(5) 「北杜市次世代エネルギーパーク構想」の推進について

北杜市の次世代エネルギーパーク構想への取組については、「積極的に取り組むべき」「ある程度積極的に取り組むべき」を合わせた積極的な取組への肯定的な意見が3/4以上を占めています（図4.1.2-6）。

今後、次世代エネルギーパーク構想を推進していくために必要な施策としては、「活動拠点の提供・整備」が39.7%で最も高く、次いで「学習機能の強化」が34.2%、「研究開発機能の強化」「情報発信機能の強化」が26.8%、「エコツーリズムの推進」が25.5%となっています（図4.1.2-7）。

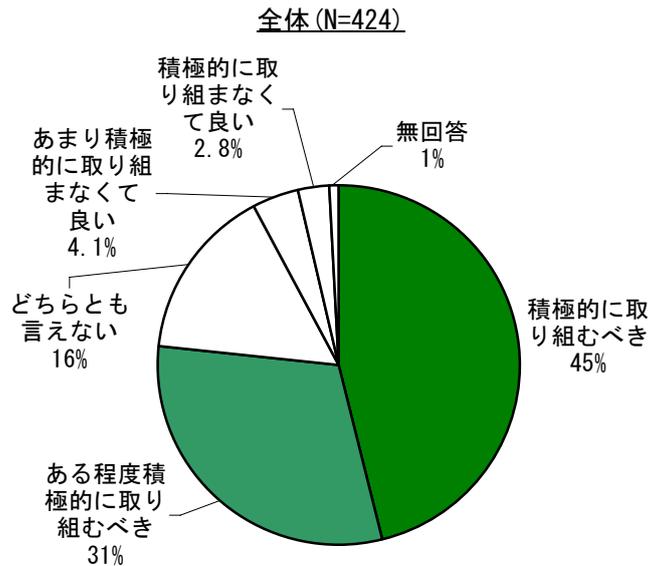
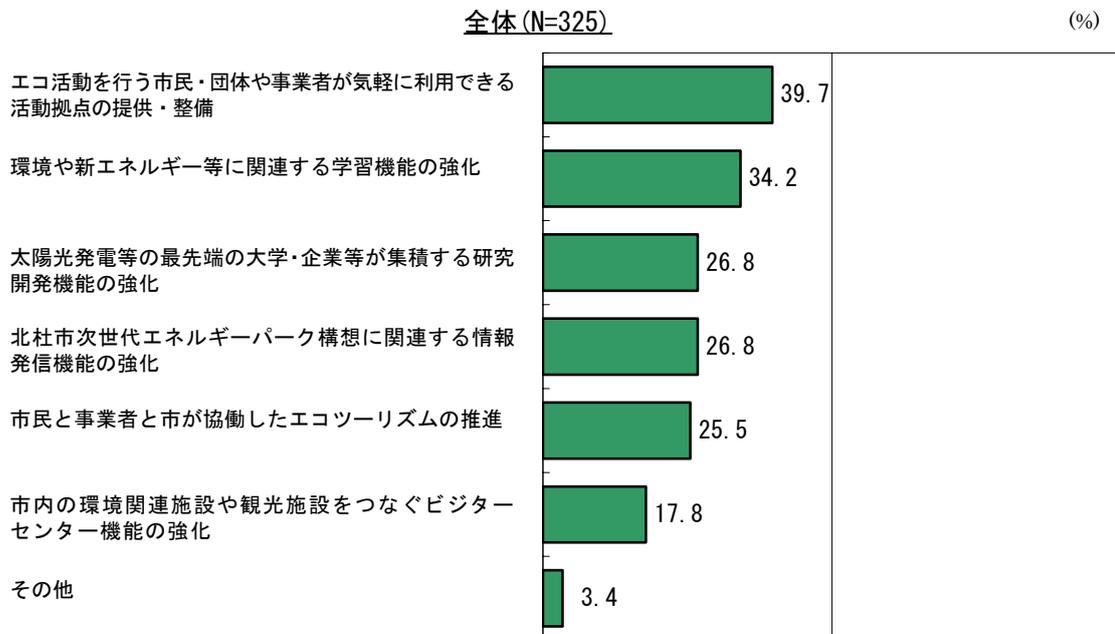


図 4.1.2-6 「北杜市次世代エネルギーパーク構想」の推進について



* 「積極的に・ある程度積極的に取り組むべき」と回答した人が対象。

図 4.1.2-7 「北杜市次世代エネルギーパーク構想」の推進時の優先事項

(6) 北杜市内のガイド付きエコツアーへの参加意向

市内のガイド付きエコツアーへの参加意向は、「参加してみたい」が34.9%となっています（図4.1.2-8）。

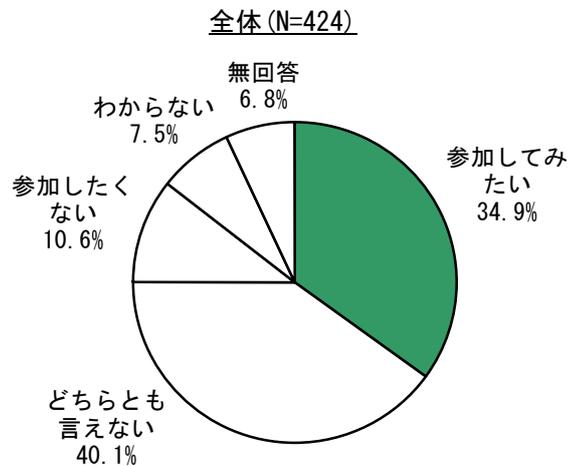


図4.1.2-8 北杜市内のガイド付きエコツアーへの参加意向

(7) 北杜市でエコツアーを実施する場合に組み込んだ方がよい施設・ルート（自由回答）

北杜市でエコツアーを実施する場合に組み込んだ方がよい施設として、

- 八ヶ岳南麓（豊かな自然）、白州、尾白（水）、武川（お米）、明野（日照時間が日本一）、長坂（夏秋地区にある太陽光発電の施設、オオムラサキセンター）、須玉（ダム、水力発電）、小淵沢（ハイブリット車の電車、小海線）など [20代女性]
- 北杜市の大きな特徴は豊かな自然や素晴らしい山並み（残念ながら衰退しつつあるところの）、日照と気候、風土を生かした農業にあるので、新しく作られた観光施設だけではなく、地域に根ざしたもの [30代女性]
- 太陽光発電、太陽熱を利用した施設等を見学、研究開発している大学・企業の様子、取組を学び、エコ活動拠点のすばらしさを知る。 [50代女性]
- 明野、ひまわり畑と周辺の道路、高根、清泉寮、八ヶ岳道路、長坂、富士見坂 [40代男性]
- 太陽光発電などの地球に優しい「地球の癒し」と、人に優しい「人間の癒し」になる自然環境ツアーと組み合わせればより効果があるのではと思う。具体的には、太陽光発電のソーラーシステム見学研修と白州や武川地区の滝めぐりツアー [50代男性]

等の意見が挙げられています。

その一方で、エコツアーに対して慎重な意見（参考資料参照）も出されており、今後、北杜市次世代エネルギーパーク構想の意義等を、市民に対して幅広く情報発信し、より理解を深めてもらうことが重要です。

4.2 事業所・団体アンケート調査

4.2.1 調査概要

事業所・団体（NPO 法人等）を対象に、北杜市次世代エネルギーパーク構想に対する考えや新エネルギー等の利用状況等についてのアンケート調査を実施しました。

調査対象者数は、北杜市地球温暖化対策・クリーンエネルギー協議会に所属する北杜市内に拠点を有する事業所や、環境教育等を行う団体等、合計 150 事業所・団体です。

アンケート調査票の郵送発送・回収による自記入方式で、平成 21 年 10 月 28 日～11 月 13 日（締切り）に実施しました。有効回収票数は 58 票、有効回収率は 38.7%でした。

4.2.2 調査結果

(1) 回答事業所・団体の特性

事業所・団体別では、「事業所」が 82.7%、「団体」が 12.1%です。回答事業所の業種は、「サービス業」が 41.6%で最も高く、第三次産業が約 6 割を占めています。また、市内 8 町全ての事業所から回答を得ています（図 4.2.2-1）。

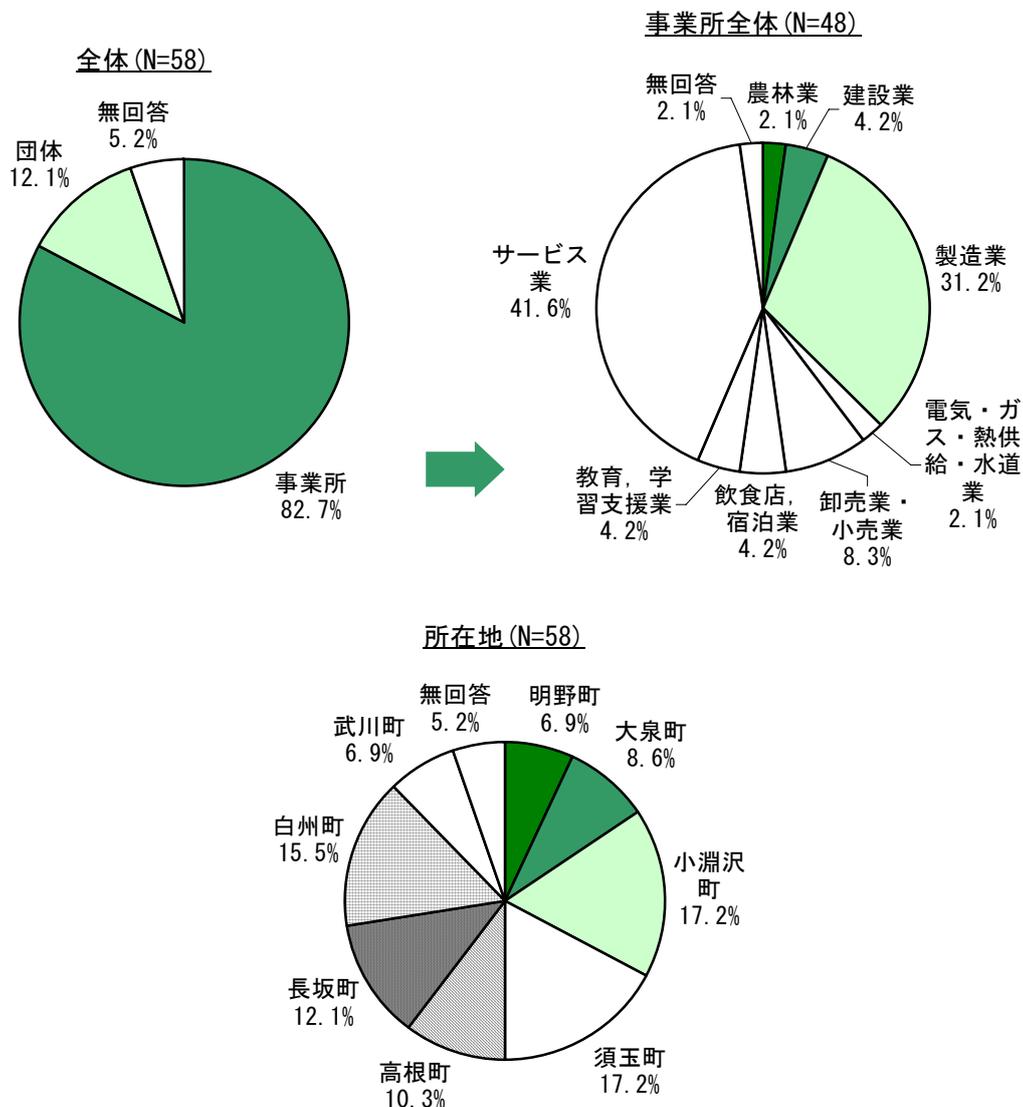


図 4.2.2-1 回答事業者・団体の特性

(2) 地球温暖化問題の関心度

地球温暖化問題についての関心度（「非常に関心がある」「関心がある」合わせた数値）は、88.0%となっており、市民アンケート調査における市民の地球温暖化問題への関心度とほぼ同等の水準となっています（図 4.2.2-2）。

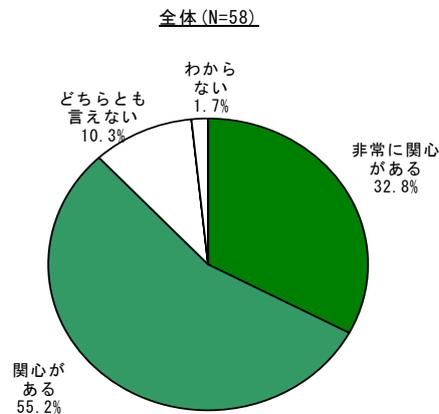


図 4.2.2-2 地球温暖化問題の関心度

(3) 新エネルギー等の導入状況・意向

新エネルギーの導入状況は、「既に導入している」「導入を検討中」「条件によっては導入したい」の全ての項目に関して「太陽光発電」が最も高くなっています。

また、「クリーンエネルギー自動車」は、「既に導入」は5.2%ですが、「条件によっては導入したい」が約4割を占め、太陽光発電に次いで、潜在的な需要が大きいことが伺えます（図 4.2.2-3）。

全体 (N=58) (%)

(種別)	既に導入	検討中	条件により	導入しない	わからない	無回答
太陽光発電	15.5	8.6	48.3	5.2	17.2	5.2
太陽熱利用	1.7	6.9	27.6	12.1	29.3	22.4
風力発電	1.7	25.9	31.0	24.1	17.2	
バイオマス発電		22.4	20.7	37.9	19.0	
バイオマス熱利用	1.7	24.1	19.0	36.2	19.0	
バイオマス燃料	1.7	21.5	22.4	36.2	19.0	
中小水力発電	5.2	17	25.9	22.4	29.3	15.5
クリーンエネルギー自動車	5.2	39.7	15.5	20.7	19.0	
天然ガスコージェネレーション		27.6	19.0	31.0	22.4	
燃料電池	1.7	24.1	22.4	29.3	22.4	

図 4.2.2-3 新エネルギー等の導入状況・意向

(4) 取り組んでいる環境対策・地球温暖化対策

取り組んでいる対策では、「温度調節」が63.8%で最も高く、次いで「クールビズの実施」が46.6%、「社員への環境教育の実施」が43.1%となっています（図4.2.2-4）。

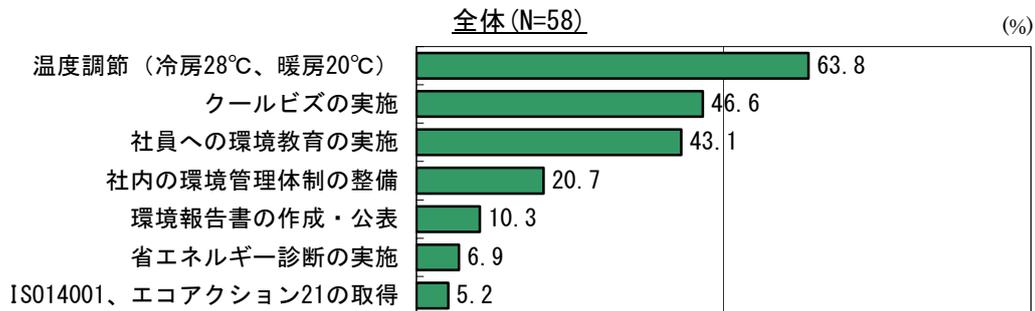


図4.2.2-4 取り組んでいる環境・地球温暖化対策

(5) 「北杜市次世代エネルギーパーク構想」の推進について

北杜市の次世代エネルギーパーク構想への取組については、「積極的に取り組むべき」「ある程度積極的に取り組むべき」を合わせた積極的な取組への肯定的な意見が8割以上を占めています（図4.2.2-5）。

今後、次世代エネルギーパーク構想を推進していくために必要な施策としては、「情報発信機能の強化」が47.9%で最も高く、次いで「エコツーリズムの推進」が41.7%、「学習機能の強化」が35.4%となっています（図4.2.2-6）。

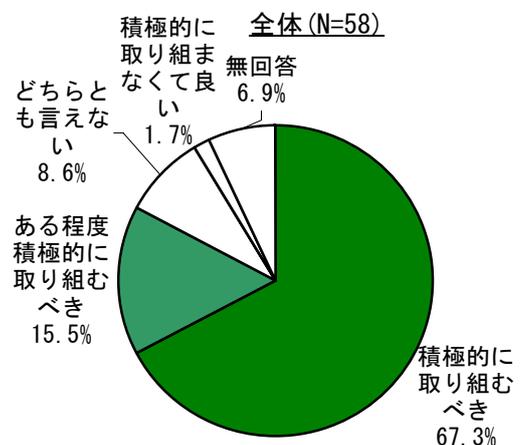
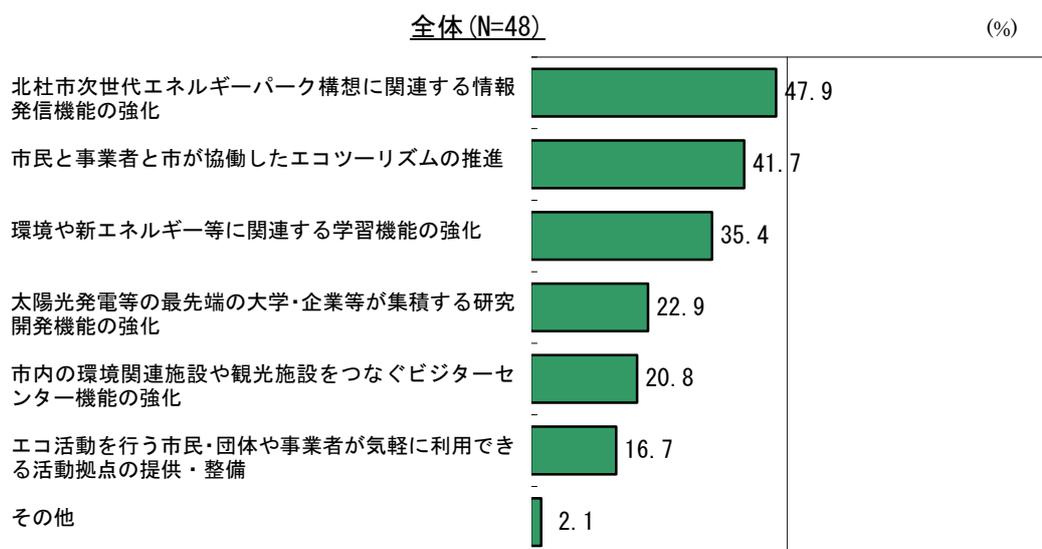


図4.2.2-5 「北杜市次世代エネルギーパーク構想」の推進について



* 「積極的に・ある程度積極的に取り組むべき」と回答した事業所・団体が対象。

図4.2.2-6 「北杜市次世代エネルギーパーク構想」の推進時の優先事項

(6) 北杜市でエコツアーを実施する場合に組み込んだ方がよい施設・ルート（自由回答）

北杜市でエコツアーを実施する場合に組み込んだ方がよい施設として、

- 地球温暖化の対策は、エネルギーCO₂の発生抑制の方向だけでなく、農林業の振興によるCO₂の削減方向があると考えている。エコツアーでは農業体験を含む農業振興につながるものが適当と思う。〔製造業〕
- オオムラサキセンター→八ヶ岳薬用植物園→サントリー天然水工場→尾白川溪谷と尾白の森散策〔卸売・小売業〕
- 太陽光発電（長坂）、ダム、三分一湧水、湧水めぐり〔サービス業〕
- 滞在型を目指し、体験型や参加型の基盤を整えていることから、今後の北杜市の観光のテーマは「教育（学ぶ）」という言葉でまとめられるのではないかと
〔教育・学習業〕

等の意見が挙げられています。

(7) 「北杜市次世代エネルギーパーク構想」への参加可能性

「北杜市次世代エネルギーパーク構想」への参加可能性については、「参加可能性がある」が46.6%となっており（図4.2.2-7）、「見学者の受け入れ」「エコツアーの企画等」「環境・エネルギー教育の支援」「寄付」等、様々な側面から参加が可能であるという意見が挙げられています。

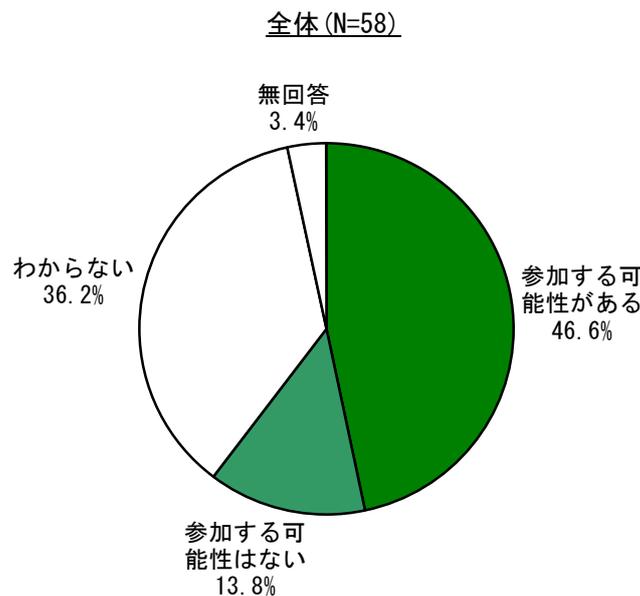


図 4.2.2-7 「北杜市次世代エネルギーパーク構想」への参加可能性

4.3 事業所・団体ヒアリング調査

市内において、積極的に新エネルギー導入・省エネルギー活動や、環境教育を行っている8事業所・団体（NPO法人等）を対象に、ヒアリング調査を実施しました。

(1) 北杜市で考えられるエコツアー・モデルコースのテーマ・主要スポット

提案されているテーマとしては、

- 森林整備・環境整備等を含めた体験型
- 次世代エネルギーパーク構想の素材となる施設を巡るツアー
- 景観・自然の魅力・エネルギー活用の実感型
- 太陽光発電等を利用した充電設備とアシストバイク等を利用したエコツアー等の意見が挙げられています。

また、県外・市外の観光客をターゲットにするだけでなく、「市内の人が元気になれる場所」であることの重要性が指摘されています。

さらに、体験型のツアー・メニューを実施する際には、「体験内容と伝えたいメッセージのバランス」を十分に取る必要があることが指摘されています。

なお、北杜市で考えられるエコツアー・モデルコースのテーマや主要スポットを実際に決めていく際には、「誰かが一方的に決めるものではなく、ワークショップ方式で、色々な人とのかかわりの中で作っていくことが重要」という意見が挙げられています。

(2) 実証試験終了後の北杜サイトの利用展開イメージ

NEDO北杜サイトの利用展開としては、

- 森林や小水力発電等との連携
- 小さな体験から、大きな話しにつなげていくプログラムの実施
- 原理を理解させるための体験型プログラムとの連携
- 生活密着型・家庭での普及と連携させた取組
- 企業向けに太陽エネルギーの実験施設としての提供
- 太陽光発電や小水力発電等、スマートグリッドの社会実験施設としての提供等の意見が挙げられています。

(4) 北杜市次世代エネルギーパーク構想の実現に向けた課題

北杜市次世代エネルギーパーク構想の実現に向けた課題としては、

- リトリートの杜等との連携による推進
 - 指導者（人材）育成
 - 大目標に向かって各団体が主体的に取り組むことができる体制の整備
 - 事務局の設置
 - 消費側のニーズを取り入れたマーケティングの発想（女性の活用を含む）
 - 大人の考え方・価値観を変えていく啓発活動の実施
 - 企業との連携を深めるための機能強化
- 等の意見が挙げられています。

4.4 観光客アンケート調査

4.4.1 調査概要

市内の観光施設・宿泊施設等、16箇所に協力をお願いし、留め置きによる自記入方式により、観光客アンケート調査を実施しました。1箇所につき、30票の調査票を配布しました。

平成21年10月28日～11月20日（締切り）に実施しました。有効回収票数は136票でした。

4.4.2 調査結果

(1) 回答者の特性

性別は、「女性」51.4%、「男性」47.1%となっています。年齢は、「50代」「60代」「70代～」が多く合わせて約7割となっています。職業は、「会社員」「主婦」「無職」合わせて約7割を占めています。居住地は、「県外」が約7割を占めています（図4.4.2-1）。

なお、国内旅行の頻度として、日帰り旅行の年間平均回数は約6.4回、宿泊旅行の年間平均回数は約3.9回となっています。

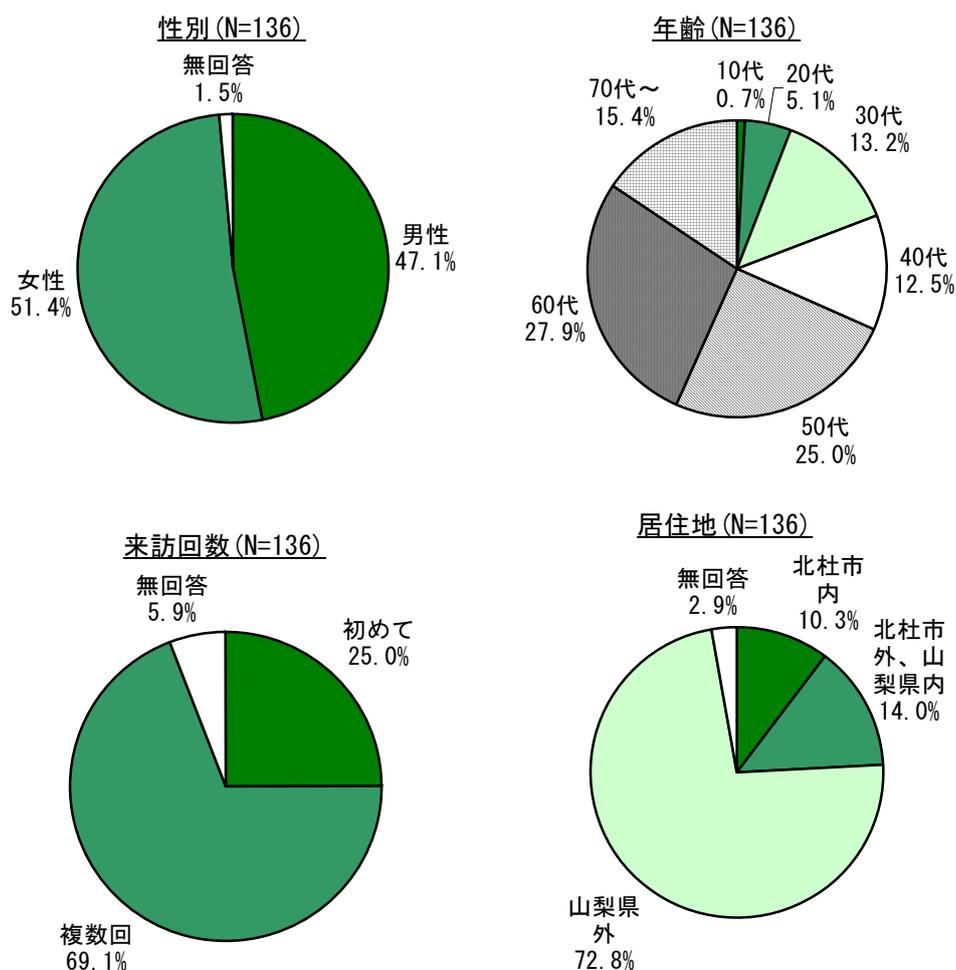


図 4.4.2-1 回答者の特性（性別・年齢・職業・居住地）

(2) 今回の北杜市への来訪について

北杜市への来訪については、来訪回数は「複数回」が約7割を占めています。「日帰り」「宿泊」別では、ほぼ半々となっています。同伴者は、「配偶者・家族」が54.4%を占めています。交通手段は、「車」が66.9%を占めています。

来訪意向は、「また来てみたい」が85.4%を占めています（図4.4.2-2）。

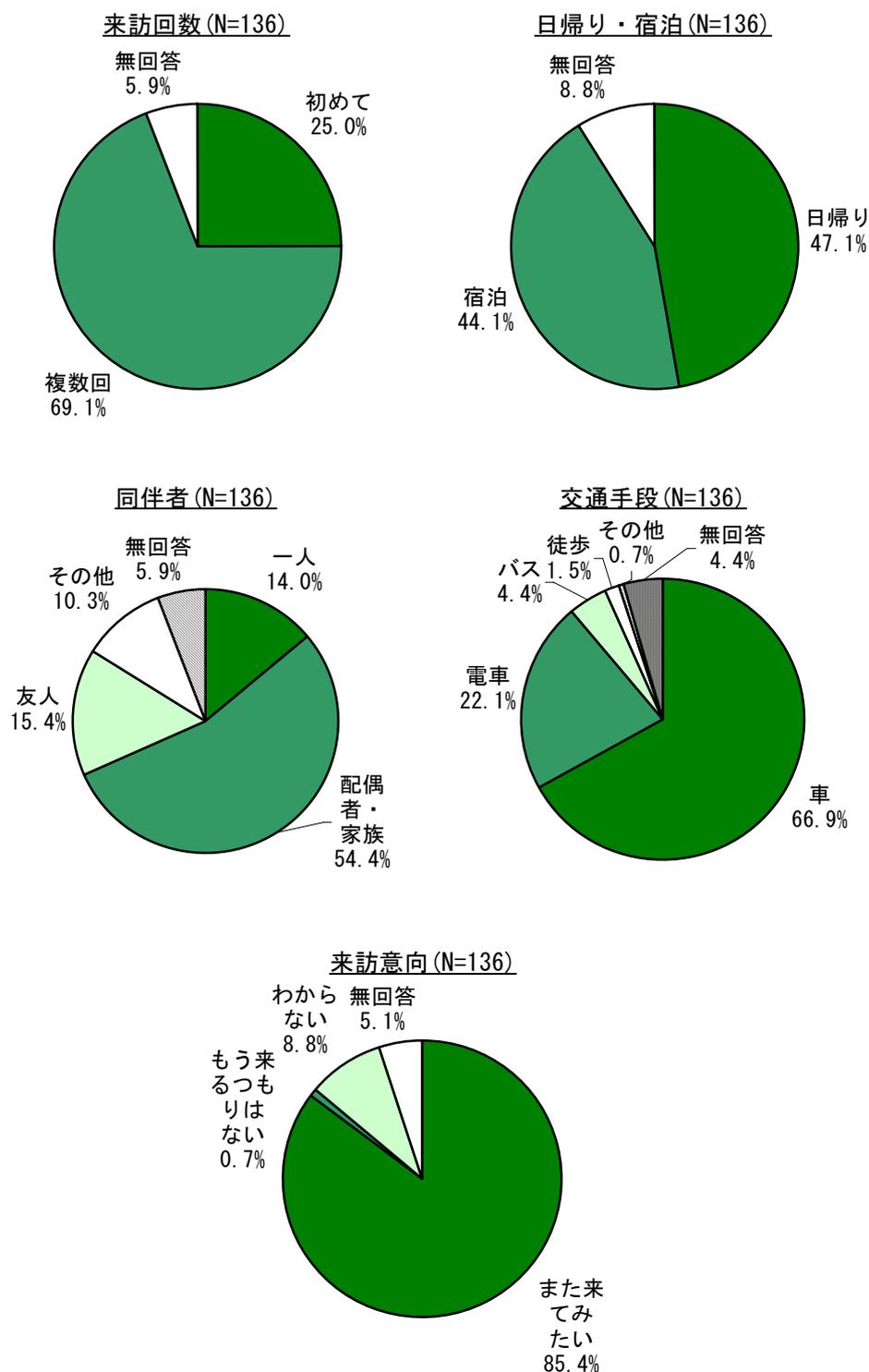


図 4.4.2-2 今回の北杜市への来訪について

(3) どのようなタイプの旅行をすることが多いか

頻度が高い旅行タイプとしては、「自然景観や風景を見てまわる旅行」(64.0%)、「保養・休養・温泉浴の旅行」(45.6%)、「自然に囲まれてのんびりする旅行」(30.9%)が上位に挙げられています(図4.4.2-3)。

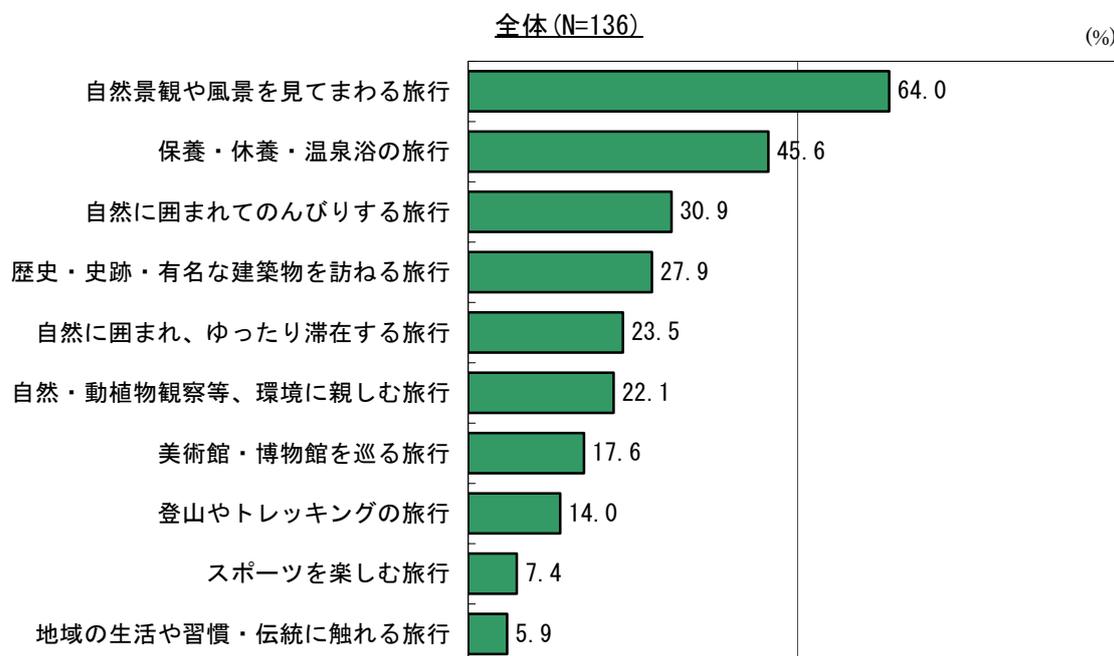


図4.4.2-3 どのようなタイプの旅行をすることが多いか

(4) 旅行先を決める際に重視する項目

旅行先を決める際の重視項目としては、「自然環境」(24.3%)や「温泉の有無」(22.8%)が上位に挙げられています(図4.4.2-4)。

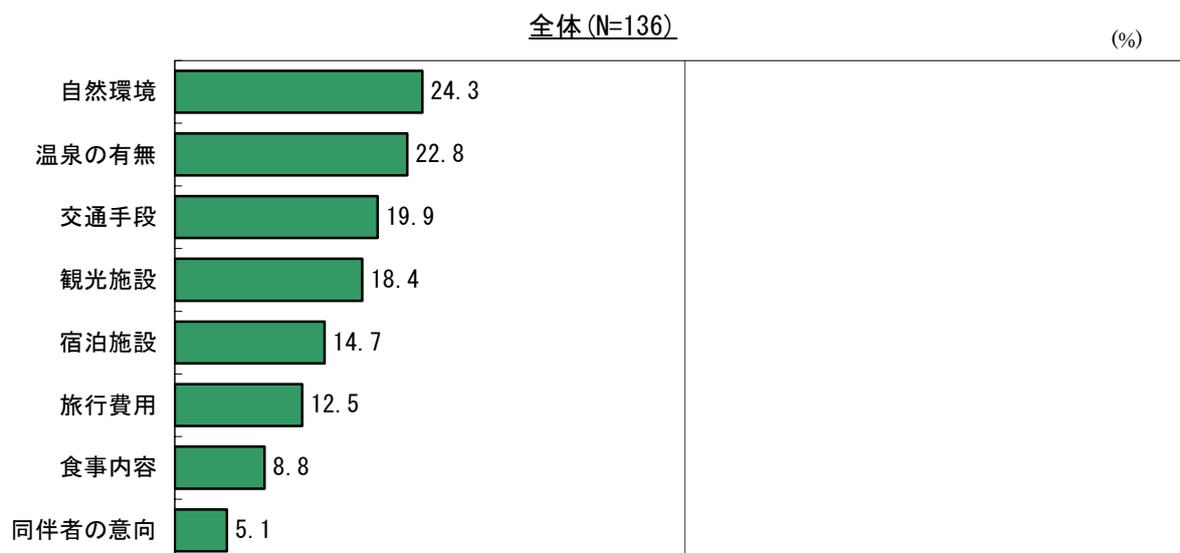


図4.4.2-4 旅行先を決める際に重視する項目

(5) エコツアー（ガイド付き）について

① 関心度・参加経験

エコツアー（ガイド付き）に対する関心度は44.1%である一方、実際の参加経験は「ある」が12.5%にとどまっています（図4.4.2-5）。

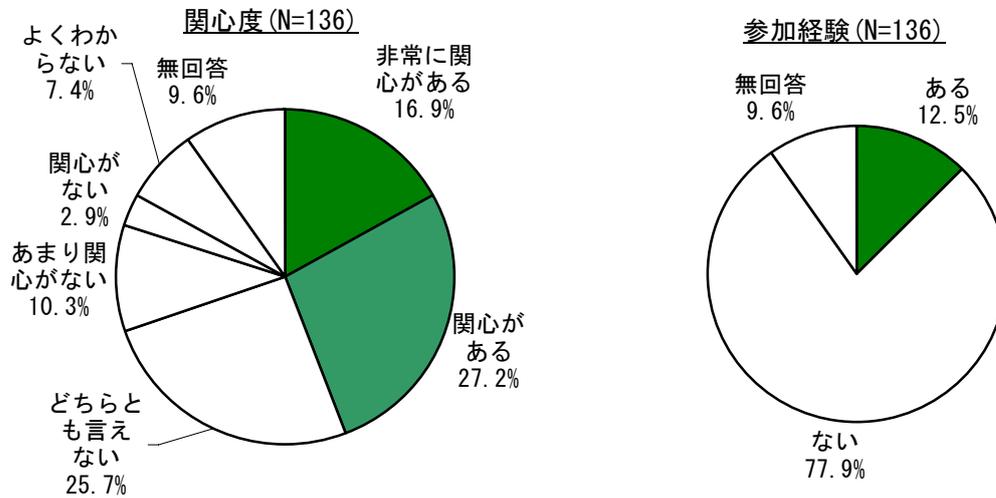


図4.4.2-5 エコツアー（ガイド付き）の関心度・参加経験

② 参加意向・限度額

エコツアー（ガイド付き）への参加意向は、「参加したいと思う」が44.9%で、「参加したいと思わない」（11.0%）を上回っています。また、限度額としては、日帰り旅行の場合は「3,001円～5,000円」（34.4%）、宿泊（1泊2日）の場合は「10,001円～30,000円」（52.5%）の価格帯が最も高くなっています（図4.4.2-6）。

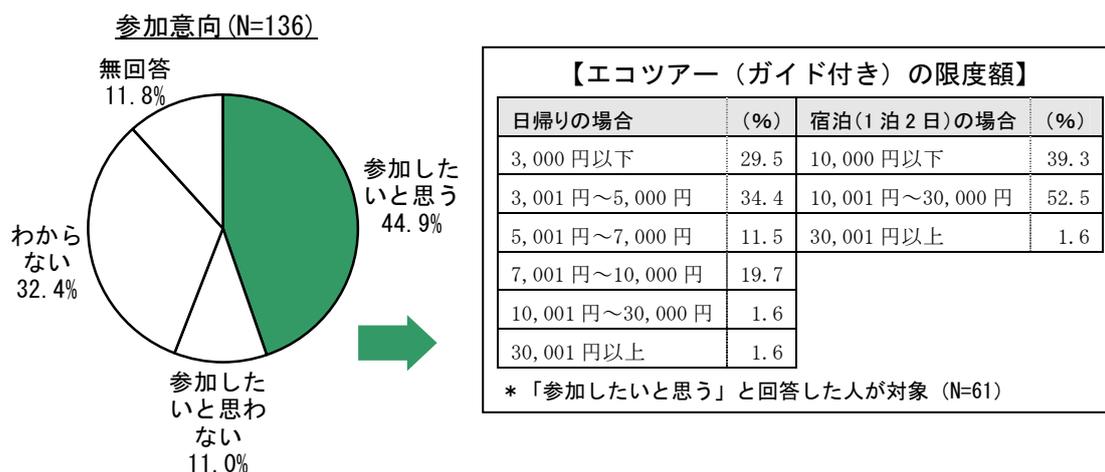


図4.4.2-6 エコツアー（ガイド付き）の参加意向・限度額

(6) 北杜市内で好きな場所・行ってみたいスポット（自由回答）

アンケート調査時期が期間限定であり、参考情報ではありますが、市内の好きな場所・スポットとしては、清里、白州、スパティオ小淵沢、リゾナーレ、八ヶ岳リゾートアウトレット等が挙げられています。

4.5 アンケート・ヒアリング調査結果から見た今後の課題

アンケート調査及びヒアリング調査結果から、今後の課題として、以下の項目に整理できます。

- 北杜市次世代エネルギーパーク構想の意義等に関する情報発信と理解促進
- 長期滞在型リゾートの杜等、観光や環境面での他の取組との関係
- 次世代エネルギーパーク構想の実施に向けた運営体制の構築
- エネルギー環境教育のインタープリターの育成
- 地域密着型・生活密着型の取組とするための仕組みづくり
- 特定地域に偏重しない全市域での取組の推進

5 北杜市次世代エネルギーパーク全体構想

5.1 基本理念

北杜市は、環境省の名水百選を3箇所（「八ヶ岳南麓高原湧水群」「尾白川」「金峰山・瑞牆山源流」）有する全国唯一の市町村であり、ミネラルウォーター生産量が日本一などの名水の里として知られ、清らかで豊富な水資源を有し、日照時間日本一を誇る豊富な太陽エネルギーに恵まれています。そして森林が市の総面積の73.2%を占め市内には2つの国立公園、1つの国定公園があり、「日本百名山」に選ばれた八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、金峰山・瑞牆山を有する自然豊かな市です。また、都心から2時間程度という立地条件から年間約700万人の観光客が訪れ、八ヶ岳南麓を中心に、別荘等の週末利用者や二地域居住が進み、都市近郊型のスローライフが実践されている地域となっています。

このような地域特性を活かし、北杜市では平成18年3月に北杜市地域新エネルギービジョンを策定後、基本理念である「人と自然と文化が躍動する環境創造都市～水と緑と太陽の恵みを次世代に伝えるために～」の実現を目指したまちづくりが進められ、NEDO技術開発機構のNEDO北杜サイトの取り組みに加え、教育施設及び公共施設への太陽光発電システムの導入・検討、小水力発電、バイオマス利活用の導入・検討など新エネルギーの普及促進を積極的に展開しています。

今後は、“脱温暖化”・“クリーンエネルギーの創造”に向けて市民、事業者、団体、北杜市に加え、県外からの観光客、視察・見学者等と地域の交流を進め、環境保全やエネルギー問題への意識啓発を図り、共通の現状意識を持ち、積極的に問題解決に取り組むことが一層重要となります。

一方、国は平成18年5月に策定された「新・国家エネルギー戦略」（経済産業省・資源エネルギー庁）の中で「国民が新エネルギーや省エネルギーなど新たなエネルギーの生産・利用を目で見て触れて理解できるよう、次世代エネルギーパークという形でエネルギーの地域拠点を整備する。」とし、次世代エネルギーパークの整備を推進しています。

北杜市は、これまでの取り組みをさらに進めるため、北杜市次世代エネルギーパークを構築し、北杜市の「豊かな自然」「新エネルギー設備」「人」などの地域特性を活かしたアクションエリア（行動域）において、新エネルギーの導入、エネルギー環境教育・学習、体験ツアー等を市民・団体・事業者等と協働により実践することで、エネルギー問題、地球温暖化問題への理解促進を図り、環境へ配慮した自主的な行動・活動を促す、「持続可能な地域社会と地域環境をつくるアクションエリア ～北杜市まるごとエネルギーパーク～」を目指します（図5.1-1）。

【基本理念】

持続可能な地域社会と地域環境をつくるアクションエリア

～北杜市まるごとエネルギーパーク～

図5.1-1 北杜市次世代エネルギーパーク構想の基本理念

5.2 基本方針

「持続可能な地域社会と地域環境をつくるアクションエリア ～北杜市まるごとエネルギーパーク～」を基本理念の下、北杜市の現況やアンケート・ヒアリング調査等の基礎調査の結果を踏まえ、次のような3点の基本方針を示します（図5.2-1）。

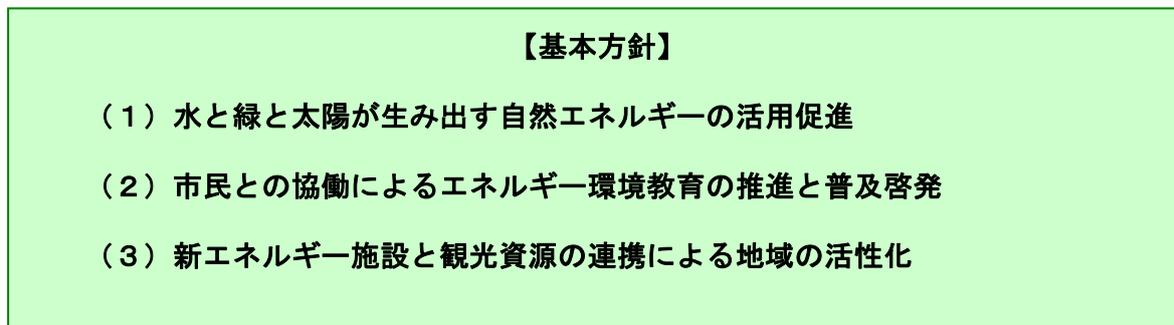


図5.2-1 北杜市次世代エネルギーパーク構想の基本方針

(1) 水と緑と太陽が生み出す自然エネルギーの活用促進

北杜市は、環境省の名水百選を3箇所（「八ヶ岳南麓高原湧水群」「尾白川」「金峰山・瑞牆山源流」）有する全国唯一の市町村であり、ミネラルウォーター生産量が日本一など名水の里として知られ、清らかで豊富な水資源を有し、日照時間日本一を誇る豊富な太陽エネルギーに恵まれています。そして森林が市の総面積の73.2%を占め市内には2つの国立公園、1つの国定公園があり、「日本百名山」に選ばれた八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、金峰山・瑞牆山を有し、毎年多くの観光客が市内外から訪れている緑豊かな市です。

このような地域特性を活かして、水と緑と太陽を中心とする自然エネルギーの活用を促進します。

(2) 市民との協働によるエネルギー環境教育の推進と普及啓発

北杜市の豊かな自然の恵みは、将来の世代に引き継いでいかなければならず、一人ひとりがどのような生活を送り、行動するかにより、次世代の環境が大きく左右されることとなります。美しい北杜市を次世代に引き継いでいくために、一人ひとりが日常生活の中で意識的に環境に配慮した行動をとり、積極的に問題解決に取り組むことが重要です。

このためには、一人ひとりの環境に対する意識を高め、地球環境、エネルギーについて学ぶことが必要であり、環境教育・学習が重要な役割を担います。

北杜市では、豊かな自然や地域の中で、環境・エネルギーの大切さを実感しながら、環境・エネルギーについて学ぶことができます。

また、環境教育・学習を活性化するためには、地域にある知恵と力を共有することが効果的であり、地域で環境教育・学習など環境活動を実践している人材の参加を得ることが有効です。

北杜市は、平成20年3月に「北杜市地球温暖化対策・クリーンエネルギー推進協議会」（温対法26条関係）を設立し、市民、事業者、団体及び北杜市が協働して、地域の実情に即した温暖化防止対策の実践行動を促進し、クリーンエネルギーの利活用を推進しています。

さらには、オオムラサキセンターはじめ、環境教育発祥の地である財団法人キープ協会

など多くの団体等による幅広い環境教育・学習が実践されています。

こうした人材を把握し、環境教育のニーズに対応できる体制を構築するほか、北杜市の自然・歴史・クリーンエネルギーを伝える「北杜市版インタープリター」の養成を図ります。

(3) 新エネルギーと観光資源の連携による地域の活性化

北杜市は、恵まれた自然環境と都心から約2時間という交通アクセスの良さに加え、八ヶ岳や尾白川など大自然が織りなす色彩の美や四季折々のイベント、10箇所の公共温泉施設、100を超える芸術・文化施設、名産があり県内外から年間700万人を超える観光客等が訪れています。

さらには、稲作や酪農・畜産などの農業が盛んな地域であることから、グリーンツーリズムを中心に都市と農山村の交流が多様な主体のつながりの下、展開されています。

また、市内にはNEDO北杜サイト、村山六ヶ村堰水力発電所などの新エネルギー施設が行政、企業等により多数整備されています。NEDO北杜サイトには、国内外から年間2500人を超える視察・見学者が訪れています。また、近年、小水力発電導入拡大の動きが積極展開されており、村山六ヶ村堰水力発電所への視察・見学者も増加しています。

このような市内に点在する観光資源と新エネルギー施設を、それに関わる人々により環境保全型のエコツーリズムに展開し、各主体のニーズを満たし合うことで相乗効果（場をつなぐ・主体をつなぐ・施策をつなぐ）を図り地域の活性化を推進します。

5.3 次世代エネルギーパーク整備方針

次世代エネルギーパークは、太陽光等の新エネルギー設備や体験施設等を整備し、新エネルギーをはじめとした次世代エネルギーについて実際に国民が見て触れる機会を増やすことを通じて地球環境と調和した将来の次世代エネルギーのあり方について国民の理解の増進を図ることを目的としたものです。なお、整備する上では、国（経済産業省）が示している「次世代エネルギーパーク構想」の条件に合致していることが必要です（表5.3-1）。

また、複数の新エネルギー設備が複数の地域にまたがる場合には、中心的な施設を整備し、次世代エネルギーパークの全体像が把握でき、一体的に見学できるような工夫が必要となります。

北杜市の総面積は、602.89平方キロメートルで、山梨県の総面積の13.5%を占め、山梨県内で最も面積の大きな市であり、基本理念である「持続可能な地域社会と地域環境をつくるアクションエリア ～北杜市まるごとエネルギーパーク～」を構築するためには、各主体の人と人のつながりを生み出し、連携を通じて地域の特性を活かした活動を生み出していくことが必要です。

また、活動を通じて生まれる学びの場として実際に見て、触れて、生命や自然の大切さを感じとり、環境の大切さを学び周りの人たちに伝えられる人材を養成することが必要です。次世代エネルギーパークを整備するにあたり、市民アンケートや事業所・団体アンケートから北杜市次世代エネルギーパーク構想の推進時の優先事項として「気軽に利用できる活動拠点の提供・整備」や「情報発信機能の強化」「学習機能の強化」を求める声が大きく、新エネルギー設備のほかに、市民が気軽に利用できる学習機能やビジターセンター施設などの整備の検討が必要です。

一方で、市財政状況の厳しい中で新たなハコモノ施設やエコツアーの意義に対して慎重な意見もあることから、市民に対して幅広く情報発信し、より理解を深めてもらうことが重要です。

表5.3-1 国（経済産業省）が示している「次世代エネルギーパーク」の計画の認定条件

①運営主体は自治体または3セクなど、自治体が主体的に取り組んでいること
②維持費等の確保の見通しが立っており、運営主体による安定した運営・管理が見込まれること
③多くの人々が訪れるよう、ハードやソフト面において、地元自治体や市民、地元企業等による地域の特色を生かした創意工夫がみられること
④新エネルギー設備で得たエネルギーが周辺地区等において使用されること
⑤原則として複数の種類の新エネルギー設備の見学が可能であること
⑥既存の新エネルギー設備や関連施設がある場合は、これを最大限活用すること

6 北杜市次世代エネルギーパークを構成する施設とその活用

6.1 構成する施設

北杜市次世代エネルギーパークは、北杜市内においてエコツーリズム、エネルギー環境教育、大学・企業等による研究、エネルギー関連施設への視察・見学、社員教育などの環境活動を推進します。

北杜市次世代エネルギーパークを構成する施設は、新エネルギー設備が導入（導入予定を含む）され地域特性を活かしたエネルギーが活用されている「新エネルギー施設」で子どもから大人、高齢者まで、あらゆる世代が新エネルギー等を実際に見て触れることにより分かりやすく紹介する複数の施設で構成し、基本理念である「持続可能な地域社会と地域環境をつくるアクションエリア」を目指すものです。

北杜市の地域特性を活かしたエネルギーとして「太陽」「水」「緑」のそれぞれ象徴的な新エネルギー利用の拠点と新エネルギーや地球環境に関する「情報・学習」の普及啓発の拠点を北杜市次世代エネルギーパークの「中核施設」とし、連携して普及啓発を担う「サテライト施設」で構成します。

6.2 施設の位置付け

(1) 中核施設

中核施設は、北杜市次世代エネルギーパークの中心的な役割を担う施設で、新エネルギーの生産、利用について、実際に見て触れることにより分かりやすく紹介する施設です。

この中核施設は既存の施設を有効に活用し、「太陽（NEDO 北杜サイト）」「水（三分一湧水館）」「緑（オオムラサキセンター）」「学（次世代エネルギー情報館（仮称）・長坂コミュニティステーション内）」のテーマごとに4施設（表 6.1-1）を設定します。

それぞれの中核施設は、北杜市次世代エネルギーパークの全体像が把握できる機能、新エネルギーや地球環境に関する情報の収集・発信機能、北杜市次世代エネルギーパークを構成する施設への誘導機能、北杜市の新エネルギーや地球環境への取り組みを紹介する機能を有し、新エネルギーや地球環境に関する環境教育・学習が実践できる施設、団体客等を受け入れることが可能な施設であり、北杜市の自然、歴史などの地域特性の紹介機能新エネルギーや地球環境への取り組みを紹介することで、これらの取り組みの重要性、効果等の周知を図り、自分たちにできる取り組みを考え、実際の行動へと促す重要な施設です。

(2) サテライト施設

サテライト施設は、新エネルギー設備が導入（導入予定を含む）され、新エネルギーの紹介機能を有し、中核施設と連携することにより、効果的に新エネルギーや地球環境について普及啓発を行う施設です。

子どもから大人、高齢者までのあらゆる世代の市民、視察者、観光客など全ての来訪者をターゲットとした「インフォメーション施設」（表 6.1-2）と主に児童・生徒および保護者や地域住民等をターゲットとして市内の小中高等学校の太陽光発電設備等の新エネルギー設備を活かしたエネルギー環境教育を実践する「教育施設」（表 6.1-3）で構成します。

なお、北杜市次世代エネルギーパークを構成するサテライト施設については、随時更新します。

表 6.1-1 各施設の位置付け（中核施設）

位置付け	施設名	趣旨
中核施設	三分一湧水館（三分一湧水公園）	<ul style="list-style-type: none"> ・水と環境をテーマとする中核施設とし、学習、普及啓発とともに各施設への誘導を図る。 ・三分一湧水の歴史や水力発電、風力発電、太陽光発電の仕組み等が学べる。 ・新エネルギー設備として、水力発電 1kW、太陽光発電 3.2kW、ハイブリッド街路灯 5機を設置。 ・三分一湧水は、環境省の名水百選に認定されており、環境・新エネルギーと観光をつなぐ施設として期待できる。
	オオムラサキセンター （オオムラサキ自然公園）	<ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かな自然をテーマとする中核施設とし、学習、普及啓発とともに各施設への誘導を図る。 ・環境教育の取り組みとして、オオムラサキ観察ノートづくり、里山づくり（通年での下草刈りや落ち葉掃き、春：棚田の種まき、夏：昆虫観察会、秋：きこり体験、冬：炭焼き体験等）の体験プログラムを実施している。 ・薪ストーブの導入を検討し、里山づくりの体験プログラムの充実を図る。
	NEDO 北杜サイト	<ul style="list-style-type: none"> ・日照時間日本一の太陽光と環境をテーマとする中核施設とし、学習、普及啓発とともに各施設への誘導を図る。 ・新エネルギー設備として、太陽光発電約 2000kW。国内外 9ヶ国 27 種類の太陽電池モジュールから構成される世界でもまれな施設。 ・現在は国内外から多数の視察者が来場。平成 22 年度末の実証研究終了後は、北杜市への譲渡を要請し、地域密着型の施設整備、活用方策等を検討する。
	次世代エネルギー情報館（仮称） （長坂コミュニティステーション内）	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代エネルギーパークの取り組みを紹介するとともに環境やエネルギーについて、総合的に学習することが出来る学びの中核施設とし、環境、エネルギーに関する人材の育成を図る。 ・エネルギーや環境学習の書 や資料の收藏、展示、市民グループや環境団体等が作業するためのスペースや会議室の整備を検討する。

表 6.1-2 各施設の位置付け（サテライト施設／インフォメーション施設）

位置付け	施設名	趣旨	
サテライト施設	インフォメーション施設	(財) キープ協会 (清泉寮/国際研修交流センター)	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育プログラムの実践と指導者育成など先進的な環境教育に取り組む。 自然体験型の環境教育プログラム、環境教育やインフォメーションの講義、ワークショップや体験プログラムなどを実施。 太陽光発電 30kW、木質バイオマスボイラーを導入。
		村山六ヶ村堰水力発電所 (愛称：クリーンでんでん)	<ul style="list-style-type: none"> 農業用水を利用した流れ込み式小水力発電。 視察・見学を受入れている。 水力発電 出力 320kW。
		増富ラジウム温泉峡・増富の湯	<ul style="list-style-type: none"> 将来的に木質バイオマスボイラーの導入を検討中。 滞在型観光と環境を連動させた取り組みなどを検討。 周辺施設で小水力発電の実証を実施。
		明野温泉太陽館（ふるさと太陽館）	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電の仕組みを紹介。 温泉・宿泊施設、そば工房を併設。 太陽光発電 30kW。
		水車の里公園	<ul style="list-style-type: none"> 大武川の舞鶴橋の近くの水車のある公園。 武川町は、水が豊富だったことから、下三吹地区には多くの水車小屋が点在していた。 水車は発電しないが暮らしと水車の役割を学習。
		サントリー白州蒸留所	<ul style="list-style-type: none"> 次世代環境教育「水育（みずいく）」で「森と水の学校」をはじめ、「親子見学会」や環境学習用教材を配布。 「バードサンクチュアリ（野の域）」を開園。 第2水工場に太陽光発電設備を導入予定。
		J R小海線ハイブリッド車両	<ul style="list-style-type: none"> ディーゼルを発電に利用し、ブレーキ時に蓄電することで、燃料消費と環境負荷を抑え、従来のディーゼル車両に比べ素酸化物（NOx）や粒子状物質（PM）の排出量を60%減らせる環境に配慮したハイブリッド型鉄道車両。
		むかかわの湯	<ul style="list-style-type: none"> 温泉利用プログラムとして自然環境利用プログラムなどを用意。 周辺の散歩コースとして「むかかわの湯から名木を巡るぶらり旅」を紹介。 ハイブリッド街路灯を設置。
		丘の公園	<ul style="list-style-type: none"> 県営総合スポーツ・レクリエーション施設。ゴルフコース、温泉利用施設、ハーバル場やテニスコート、テニスコートもある。 太陽光発電 95kW を設置。
		甲斐大泉温泉パノラマの湯	<ul style="list-style-type: none"> 館内には観光情報検索システムもある。 太陽光発電 40kW を設置。
		塩川発電所	<ul style="list-style-type: none"> 塩川ダムの落差（50.34m）と放流水を有効利用した、県営18番目の水力発電所。 水力発電 出力 1,100kW
		塩川第二発電所	<ul style="list-style-type: none"> 山梨県企業局において、塩川浄水場の減圧施設に水道水の余剰圧力を利用した82kWの水力発電設備を設置予定。
		大門ダム（清里湖）	<ul style="list-style-type: none"> 大門川に洪水調節、上水道用の山梨県建設の多目的ダム。 利水放流を利用した水力発電を行う。 ダム見学が可能。モデル見学コースは1時間コース、30分コースがある。 水力発電 出力 230kW
明野農業関連施設太陽光発電所（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> 山梨県農政部において、農村地域の低炭素社会に向けた取組の一つとして農業関連施設への200kWの太陽光発電システムを設置予定。 		

表 6.1-3 各施設の位置付け（サテライト施設／教育施設）

位置付け		施設名	趣旨
サテライト施設	教育施設（導入予定）	明野小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電設備等の新エネルギー設備を活かした児童・生徒及び保護者や地域住民等に対してエネルギー環境教育を実践する。 ・新エネルギー設備としては、今後、太陽光発電設備を市内の小中高等学校 23 校へ導入するほか、これまでに明野中学校※¹、高根中学校※²、泉中学校※³、小淵沢中学校※⁴、において新エネルギー設備が導入され、環境学習として活用。
		須玉小学校	
		高根東小学校	
		高根西小学校	
		高根北小学校	
		高根清里小学校	
		日野春小学校	
		長坂小学校	
		秋田小学校	
		小泉小学校	
		泉小学校	
		小淵沢小学校	
		白州小学校	
		武川小学校	
		明野中学校	
		須玉中学校	
		高根中学校	
		長坂中学校	
		泉中学校	
		小淵沢中学校	
		白州中学校	
武川中学校			
甲 高等学校			

図6.1-1 次世代エネルギーパークを構成する施設分布図

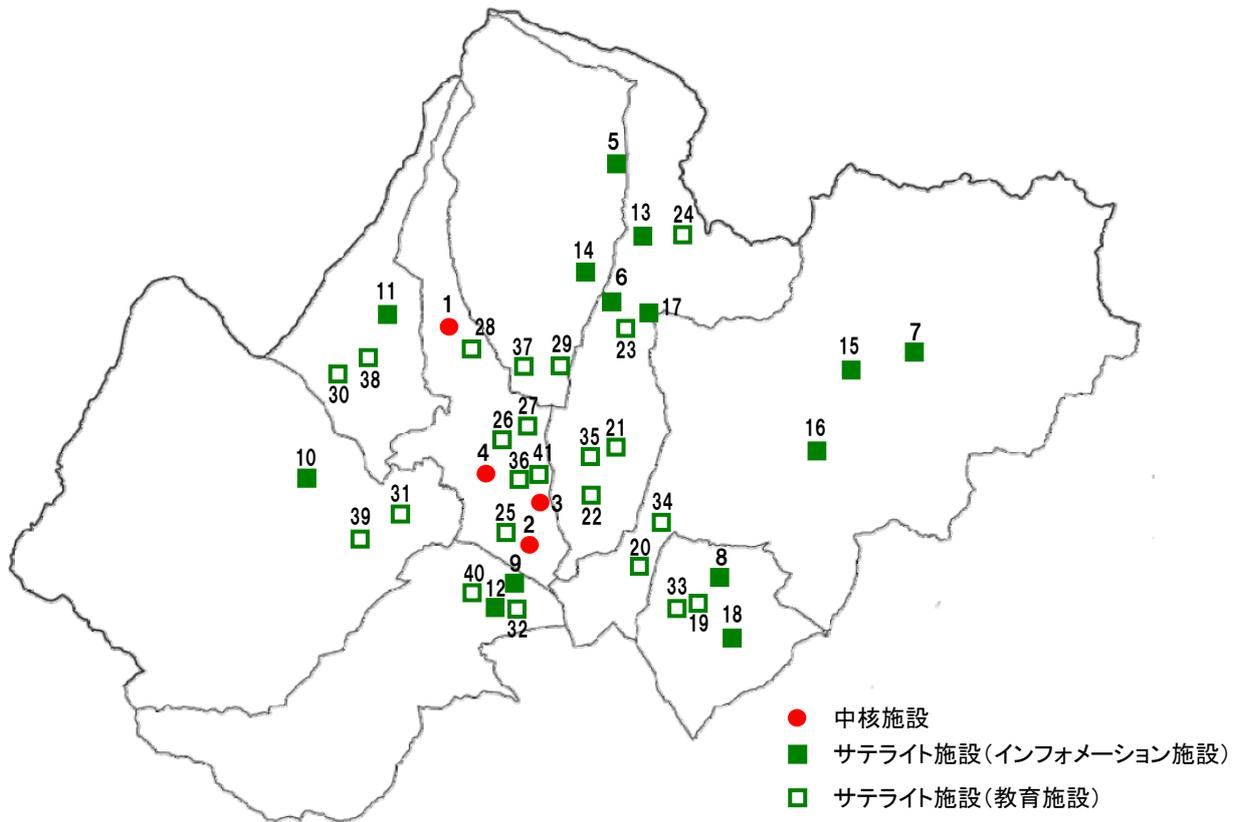


表 6.2-1 次世代エネルギーパークを構成する施設

中核施設	
1	三分一湧水館（三分一湧水公園）
2	オオムラサキセンター（オオムラサキ自然公園）
3	NEDO 北杜サイト
4	次世代エネルギー情報館（仮称） ・長坂コミュニティステーション内

サテライト施設（インフォメーション施設）	
5	（財）キープ協会（清泉寮/国際研修交流センター）
6	村山六ヶ村堰水力発電所（愛称：クリーンでんでん）
7	増富ラジウム温泉峡・増富の湯
8	明野温泉太陽館（ふるさと太陽館）
9	水車の里公園
10	サントリー白州蒸留所
11	JR 小海線ハイブリッド型鉄道車両
12	むかわの湯
13	丘の公園
14	甲斐大泉温泉パノラマの湯
15	塩川発電所
16	塩川第二発電所（導入予定）
17	大門ダム（清里湖）（管理用発電所）
18	明野農業関連施設太陽光発電所（仮称）（導入予定）

サテライト施設（教育施設）	
19	明野小学校
20	須玉小学校
21	高根東小学校
22	高根西小学校
23	高根北小学校
24	高根清里小学校
25	日野春小学校
26	長坂小学校
27	秋田小学校
28	小泉小学校
29	泉小学校
30	小淵沢小学校
31	白州小学校
32	武川小学校
33	明野中学校
34	須玉中学校
35	高根中学校
36	長坂中学校
37	泉中学校
38	小淵沢中学校
39	白州中学校
40	武川中学校
41	甲 高等学校

表内の番号は、「図 6.1-1 次世代エネルギーパークを構成する施設分布図」の番号に対応する。

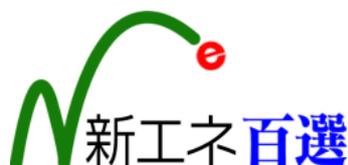
6.3 施設等の活用方針

(1) 中核施設

①NEDO 北杜サイト

「太陽」の中核施設としては、NEDO 北杜サイトが考えられます。本サイトは、NEDO 技術開発機構の委託事業として平成 18 年度～平成 22 年度の 5 年間で国内外 9 カ国 27 種類の太陽電池モジュールで構成される約 2 のメガソーラーシステムを構築し、「太陽と人が出会う場所」をコンセプトに「太陽」の恵みをどのように生かすのかという最先端の研究開発が実施されている場所です（資料編 資料 7, 8 参照）。また平成 21 年 6 月には、「北杜サイトメガソーラー～北杜市太陽エネルギープロジェクト～」の取り組みが、経済産業省及び NEDO 技術開発機構による「新エネ百選」に選定されています。

規模の面からも、県内で最大級であり、地理的にも北杜市の中心部に位置することから、北杜市次世代エネルギーパーク構想において、「太陽」の中核施設として位置付けることが考えられます。



研究概要

- ①系統安定化手法、高調波抑制手法の検討（大容量PCSの開発）
- ②先進的PVモジュールの実環境における特性比較
- ③経済性・環境性を考慮した最適システム設計の研究



モジュール評価スペース



傾斜角度別評価システム



集光二軸追尾システム

② 三分一湧水館（三分一湧水公園）

「水」の中核施設としては、三分一湧水館（三分一湧水公園）が考えられます。三分一湧水館は、八ヶ岳南麓の湧水の仕組みや水質、民話や歴史、そして水そのものについて学ぶことによって、自然の大切さを認識し、その保全意識を高めるとともに、農村と都市住民との交流を図るために設置された施設です。また、園内には水力発電をはじめとした自然エネルギーを学ぶ施設が整備されています。三分一湧水は、昭和60年の環境庁の日本名水百選に認定された「八ヶ岳南麓高原湧水群」のひとつであり、水いがいしい頃に農業用水を3つの村に均等に分配させるため湧出口の分水に三角石柱を築き3方向に流水を分岐させたという伝説が残っている場所です。こうした水にまつわるストーリー性を有しつつ、自然や環境、農村文化をテーマにした体験プログラムを実施し、「自然」「水」について考える場となっていることから、本構想において、「水」の中核施設として位置付けることが考えられます。

■三分一湧水館利用概要

開館時間	9:00～17:00
休館日	火、5月～10月無休
観覧料	大人400円 子供200円
併設施設	<ul style="list-style-type: none"> ・そば処三分一 手打ちそば、山菜天ぷらなどが味わえる ・体験工房（予約制） そば打ち、味づくり、アロマオイル作りなど ・農産物直売所 摘み野菜や地酒など地産土産の販売 ・資料館3階の展望ホールは、展示会や会議室など多目的スペースとして貸し出している。
車場	乗用車約80台、大型バス2台
交通	電車：JR小海線甲斐小泉駅より徒歩約10分 自動車：中央道長坂J.C.より約10分
イベント等	5・6・9・10月水のセミナー、毎月湧水館を中心に地産地消費と食フェア そばまつり、野外活動、コンサートなど



三分一湧水館外観



三分一湧水館展示室



展示（水の情報コーナー）



太陽光発電パネル



太陽光発電表示盤

■三分一湧水公園発電所の概要

事業主体	山梨県北杜市（旧長坂町）	出力	1.0kW
有効落差	7.0m	最大使用水量	0.03
水車	クロスフロー水車	発電機	同期発電機 110V
需要	公園内の吊り橋の照明、発電所内の模型電車		



発電所建屋と吊り橋



水車・発電機

■三分一湧水公園 園内マップ



三分一湧水（分水樹）



ハイブリッド街路灯

③ オオムラサキセンター（オオムラサキ自然公園）

北杜市では、「太陽」「水」とともに「緑」も豊富であることから、北杜市次世代エネルギーパーク構想において、「緑」の中核施設としては、「オオムラサキセンター」の活用が考えられます。

オオムラサキセンターは、国蝶オオムラサキを通して、自然環境について関心を高めることを目的に整備された自然教育施設です。館内にはジオラマや世界中の蝶標本、映像室などが備えられ、体系的な知識を得ることができます。併設される「びばりうむ長坂」では、自然生息そのままのオオムラサキの観察することができます。里山体験イベント（炭焼き体験、きのこのほだ木づくりや落ち葉を集めたづくり、下草狩り等）、間伐材を利用した木工教室等、年間70～80回にも及ぶ体験イベントが開催されており、今後、木質バイオマスを中心とした新エネルギーの導入により、地域の森林・里山を保全し、未利用の木質バイオマスを活用する資源循環型の地域づくりに結び付けていくことが考えられることから、本構想において、「緑」の中核施設として位置付けることが考えられます。

■ オオムラサキセンター利用概要

所在地	北杜市長坂町富岡 2812
開館時間	午前9:00～午後5:00（最終入館は午後4:30まで）
休館日	毎週月 日、休日の 日（月 日が 日の場合はその 日）、年末年始
観覧料	大人 400 円（団体割引：20 人以上 300 円） 子ども 200 円（団体割引：20 人以上 150 円）
車場	乗用車 38 台、大型バス 4 台
交通案内	JR 中央本線日野春駅下車 徒歩 10 分 中央自動車道 長坂 IC より車 10 分

■ 活動内容（一例）

里山づくり	
人と里山の関わりを考えるプログラム。身近な自然を観察しながら、里山の管理作業や里山の恵みを活かした様々な体験ができる。	
活動内容	通年、下草刈りや落ち葉掃きなどの里やまの管理作業を行なう。
（春～初夏）	森の遊び場づくり、野草料理、 会、棚田の種まき（花など）
（夏）	昆虫観察会、植物観察会、そばまき体験、棚田の草取り体験
（秋）	里やまの収穫祭、きこり体験、木工教室
（冬）	樹木教室、きのこのほだ木づくり、炭焼き体験

オオムラサキ観察ノートづくり	
「オオムラサキの幼虫はどんな をしているの」「オオムラサキは冬どうしているの」という 問を実際に観察しながら理解していくプログラム。	
5月下旬 ～6月下旬	オオムラサキの幼虫と出会う —OHCによる拡大撮影—
7月中旬	オオムラサキ有視界調査（長坂中学校生徒と一 に）
7月 ～8月上旬	成虫の観察会 （昆虫酒場を いてみよう、 の昆虫観察会、昆虫たちのレストランなど）
12月上旬	冬のオオムラサキ越冬幼虫観察会
3月下旬	春のオオムラサキ越冬幼虫観察会

■オオムラサキ自然公園 園内マップ

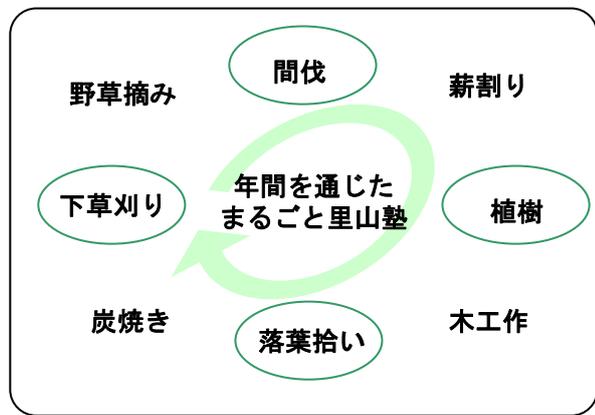
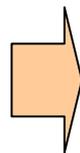


オオムラサキセンター外観・展示室

薪ストーブの導入と利活用（案）



薪ストーブの導入



④ 次世代エネルギー情報館（仮称）

「学び」の中核施設としては、長坂コミュニティステーション内のスペースを有効活用による新エネルギーや地球環境への取組等を学習・情報発信することを目的とした次世代エネルギー情報館（仮称）を整備することを検討します。

長坂コミュニティステーションは、図書館（子どもコーナー）、多目的ホール、会議室等で構成され各種イベントにも対応できることから、次世代エネルギーパークの情報発信、学習・展示に適しています。また、JR長坂駅に隣接し、市内のバス路線12のうち5つの路線の通る交通の結節点となっており、駅周辺には市立甲 高等学校はじめ小中学校などの教育施設や長坂総合支所、北杜市商工会、農村環境改善センター、長坂郷土資料館、市立甲陽病 院、北杜 警察署などの公共施設もあります。

さらには、NEDO北杜サイトやオオムラサキセンターにも近く中核施設間の連携も期待できます。

このような交通アクセス、周辺公共施設等の集客性を活かし、新エネルギーや地球環境に関する知識を総合的に学ぶことができ、かつ、個人や団体などが所有する知識などを共有することができる情報共有拠点として本構想における「学び」の中核施設として位置付けることが考えられます。

■長坂コミュニティステーション概要

総客数	450（アリーナ110、車いす用スペース・親子室あり）
附属施設	ながさか図書館、子どもコーナー、福祉保健コーナー、PRボックス ルーフガーデン
舞 台	オープンステージ： 広さ 14.29m× 行き 6.3m
	プロセニウム： 開口部 10.7m×6m
舞台設備	面、指揮台、スポットライト、調光器、音響設備等
楽 器	グランドピアノ（スタインウェイ D-274 フルコンサートピアノ）
障害者対応	多目的トイレ（1Fと2F）、手すりと点 ブロック（建物周囲） エレベーター（音声案内・手すり付・両側ドア）、補助 同伴可能
車 場	長坂総合支所隣、長坂駅西側



長坂コミュニティステーション外観

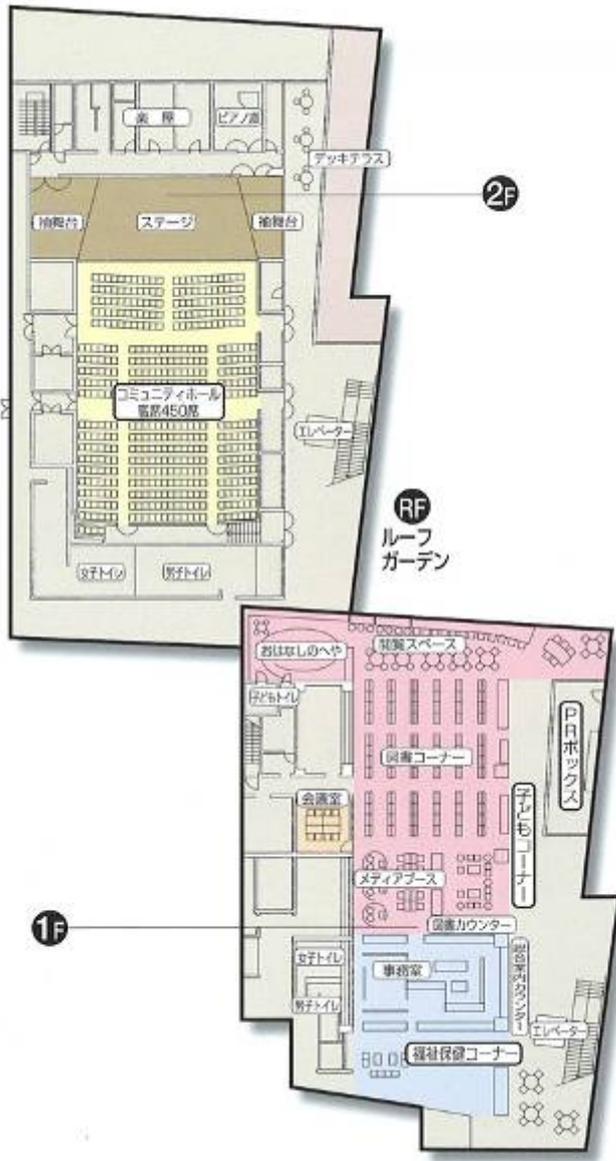


多目的ホール（450席）



図書コーナー

■長坂コミュニティステーション 館内マップ



閲覧スペース



PRボックス



福祉保健コーナー



ルーフガーデン



休憩スペース

(2) アクションエリアの活用方法

北杜市次世代エネルギーパークは、一部の拠点による展示、体験型プログラムや研修プログラムを実施するだけでなく、北杜市の全域をアクションエリア（行動域）として、①エコツーリズム及びエコツアーの推進、②エネルギー環境教育等の学習機会の創出、③大学・企業等による研究エリアの提供、④次世代エネルギーパークの関連施設への視察・見学者の受け入れ、⑤地球温暖化問題やエネルギー問題などの環境問題を学ぶ社員教育の場、⑥地域密着型自然エネルギービジネスの場として活用していくことなどが考えられます。

①エコツーリズム及びエコツアーの推進

エコツーリズムは、地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域 有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組みで、「エコツーリズム推進法」（平成 19 年法律第 105 号）においては、「自然環境の保全」「観光振興」「地域振興」「環境教育の場としての活用」を基本理念としています。

エコツーリズムは、観光客に地域の資源を伝えることによって、地域の住民も自分たちの資源の価値を再認識し、地域の観光のオリジナリティが高まり、活性化させるだけでなく、地域のこのような一連の取り組みによって地域社会そのものが活性化されていくと考えられ、環境省ではその効果について次の 3 つを示しています。

1. 環境保全：地域の自然環境・文化資源に対しては、それらの価値が維持されるよう保全され、または向上する。
2. 観光振興：観光業に対しては、新たなニーズに的確に対応し、新たな観光需要を起こすことができる。
3. 地域振興：地域社会に対しては、雇用の確保、経済 及効果、住民が地域に誇りを持つこと等により、地域振興につながる。

また、エコツアーは、自然環境や歴史文化を体験し、学ぶ観光であるエコツーリズムの考えを実践するためのツアー（旅行商品）であり、環境保護活動の盛り上がりに伴って、新しい旅行の形態として 目を集めています。

自然に触れながら、そこに生きる動植物の生態を学ぶことや、自然を大切にしようという気持ちを育てることなど様々な目的があります。エコツアーは、自然が豊かなオーストラリアなどをはじめ、各国で、自然の大切さを旅行客に理解してもらおうと盛んに行われています。また、国内においても、小 原、屋久島、沖縄の島々、東北の白神山地など各地で実施されています。

北杜市次世代エネルギーパークにおいても、市内の恵まれた自然環境や地域特性を活かしたエコツアーは、施設等の利用・普及啓発の促進に役立つと考えられます。また、地域資源の再発見や地域住民の理解及び地域間の交流を促進することにもつながります。

エコツアーのモデルコースを検討する上で、観光客の旅行形態（日帰り 宿泊）や旅行の目的（観光、研修・修学旅行など）、地域などによって、多様なコースが考えられます。

モデルコースを検討する際は、市民参加により、市内に広く点在する地域 有の資源を活かした各種エコツアーを検討し、情報発信することが重要です。

例えば、北杜市次世代エネルギーパークの中核施設及びサテライト施設を巡る「北杜市次世代エネルギーパーク体験エコツアー」や「水」「緑」「太陽」をテーマとした「自然の恵み体験エコツアー」など北杜市の「自然」や「エネルギー」を体験するエコツアーの実施が考えられます（図 6.3-3）。

また、北杜市観光パンフレット「名水と温泉」に掲載の「名水をめぐるぶらり旅」「温泉ぶらり旅」（図 6.3-4）やオオムラサキ自然観察歩道（図 6.3-5）などの散策コースの中には、中核施設やサテライト施設が含まれるものもあります。こうした既存コースを活用するとともに、広大な北杜市次世代エネルギーパークのアクションエリア（行動域）を有効に活用した市民や観光客が気軽に参加できるモデルコースを検討することが必要です。例として（図 6.3-6）に施設分布図・モデルコースを示します。

なお、エコツアーを実施する際には、運送等サービスを含み、報酬を得る事業として実施する場合は、旅行業の登録が必要になり、他法令との関係にも留意する必要があります。

（社）北杜市長期滞在型リトリートの杜事業コンソーシアムでは、第3種旅行業の登録申請を行っており、登録後は事業を展開・発展される動きがあり、一定条件下における募集型企画旅行での連携が期待されます。

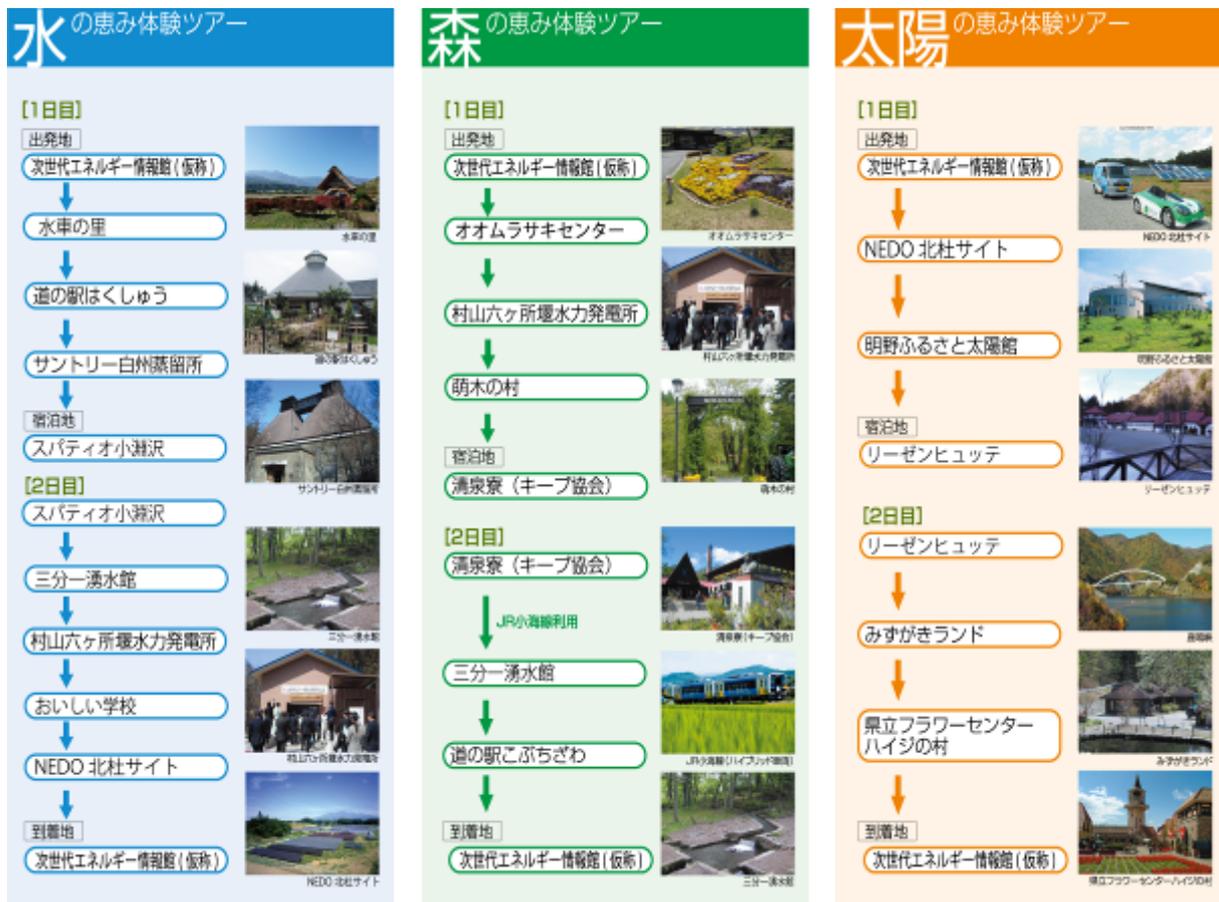


図 6.3-3 モデルコース「自然の恵み体験エコツアー」（案）

図 6.3-4 「名水と温泉」パンフレット抜粋（「名水をめぐるぶらり旅」「温泉ぶらり旅」より）



下図の例のほか、

○明野温泉太陽館「明野温泉太陽館からお花畑をめぐるぶらり旅」
（サテライト施設：明野温泉太陽館）

○南アルプス釜無川温泉むかわの湯「むかわの湯から 木を巡るぶらり旅」
（サテライト施設：むかわの湯、水車の里公園）

水 ハヶ岳南麓高原湧水群(日本名水百選)

北杜市はハヶ岳を水源とする数多くの湧水に恵まれた名水の里です。なかでも三分一湧水、女取湧水、大滝湧水の3つは、ハヶ岳南麓高原湧水群として日本名水百選に選定されており、その豊富で清らかな水は、人々の生活と調和し、独自の文化を築き、また訪れた人々に感動を与え続けてきました。

三分一湧水公園内には、ハヶ岳南麓の湧水のしくみや民話を紹介している「三分一湧水館」があり、水を分かんない、地域を拓いてきた先人たちの暮らしに接することができます。

三分一湧水
武田信玄が特殊な工法を施し、下流の3つの村に平等に水を分配したという伝説もあります。現在でも1日8,500トンの水が湧き、田畑をうるおしています。
◎三分一湧水館 ☎0551-32-0058

女取湧水
ひっそりとした深い山中に湧く湧水。この水はやがて女取川となり、流域に自然の恵みをもたらしています。

大滝湧水
大滝神社境内にあり、木をくり抜いた橋から流れ落ちる様は圧巻。ハヶ岳南麓最大の日量22,000ℓを誇る湧水は、1年を通して水温が一定で、周囲は公園として整備されており園内では釣りも楽しめます。

（中核施設：三分一湧水館）

甲斐大泉温泉 パノラマの湯
遠かに富士山を眺める高原の温泉

標高約1,160メートルの甲斐大泉駅から徒歩3分。大自然に囲まれた露天風呂からは、富士山や南アルプスの山々が望めます。また、夜には満天の星空が心と体を癒してくれます。温泉スタンドで温泉を持ち帰ることもできます。

パノラマの湯 清泉亭

温泉の特色
◎泉質：ナトリウム-炭酸水素塩系
◎適応症：切り傷、やけど、慢性皮膚炎、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、こむらね、慢性消化器病、冷え性、疲労回復、健康増進

営業時間 午前10時～午後10時
休 日 第2・4火曜日
（祭日の場合はその翌日）
※年末年始の営業状況は別途お知らせいたします。

料 金 大人700円
お問合せ ☎0551-30-1341

清泉亭
標高1400m、ハヶ岳のふもとに抜かれるようにして建つ「清泉亭」。恵まれた環境で育った牛たちからとれる特製のパネージョー乳を使った名物のソフトクリームが味わえます。

増富の湯
癒しの空間が広がるくつろぎの湯！！

豊かな自然の中に位置する「増富の湯」は、掛け流しの源泉湯で好きなだけ温泉浴が味わえます。また、身体に症状別に温泉利用指導者が相談にのってくれるのも魅力です。館内には、日頃の疲れを癒す整体とリラクゼーションに最適なエステ「オアシス」があります。

温泉の特色 ◎泉質：含二酸化炭素-ナトリウム-塩化物-炭酸水素塩系
◎適応症：神経痛、筋肉痛、関節痛、慢性皮膚病、慢性婦人病、高血圧症、動脈硬化症、疲労回復、やけど、切り傷、冷え性、痔疾、慢性消化器病、運動麻痺、五十肩、冷え性

営業時間 4～11月/午後1時～午後8時、12～3月/午前10時～午後8時
休 日 5～11月は毎週12～14日/湯水部が年々定期的な定型に閉鎖期間がございます。
料金 大人700円・障害者の方500円
お問合せ ☎0551-20-6500

おいしい市場
増富の湯から清流本谷川を歩くぶらり旅
清らかな水のせせざらぎ。すがすがしい風に揺れる木々の葉。深い森に囲まれた渓谷の小路を歩いて、心と体をリフレッシュしてください。

増富の湯から車ですら約30分。国道141号線沿いにあるおいしい市場では、新鮮で安心して食べられる農産物や加工品を提供しています。☎0551-42-1177

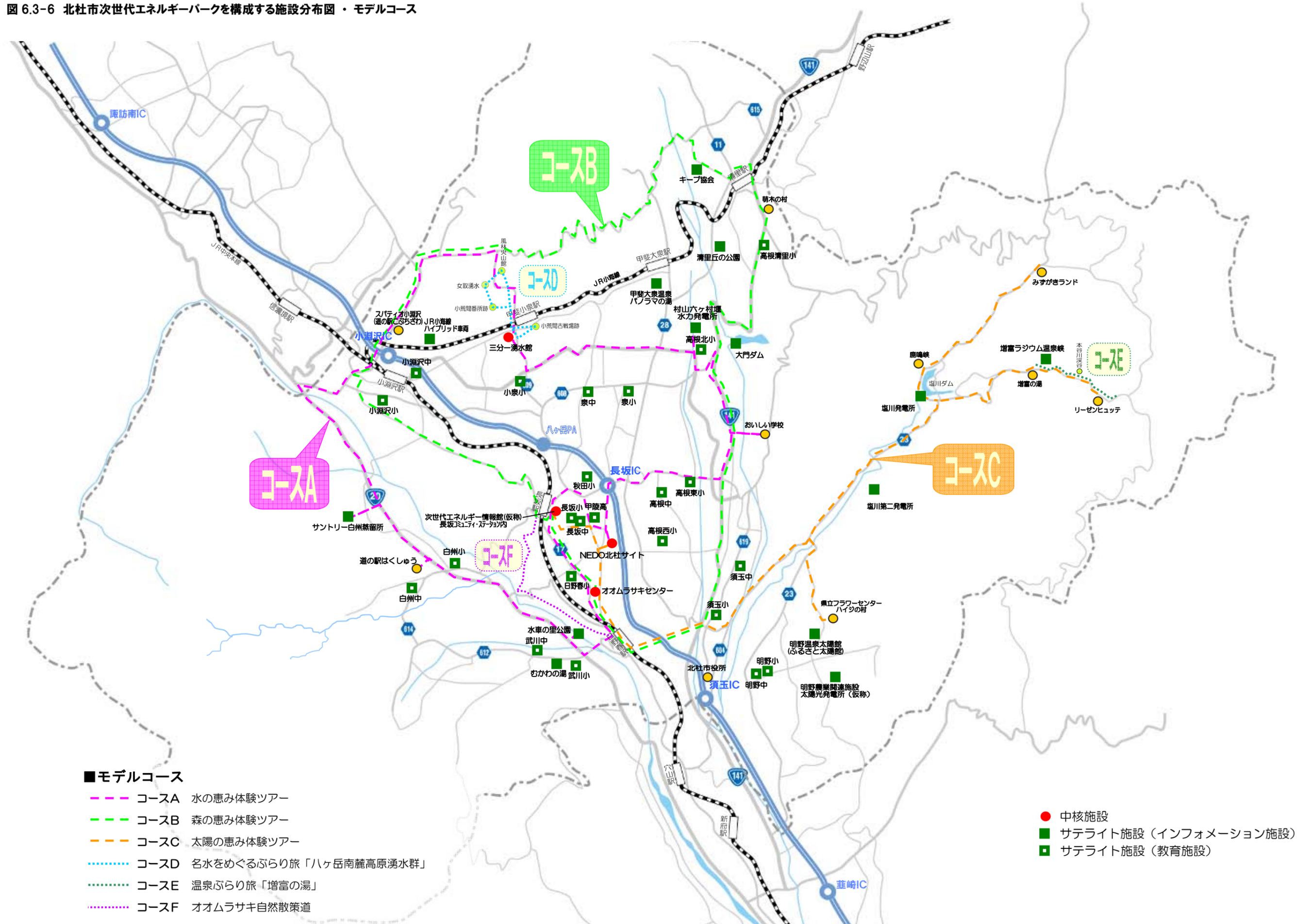
（サテライト施設：甲斐大泉温泉パノラマの湯、増富の湯）

図 6.3-5 オオムラサキ自然観察歩道

オオムラサキ自然観察歩道は、JR 中央線長坂駅から日野春駅までの約 9 km の道です。歩道の周辺はオオムラサキをはじめとする多くの種類の昆虫、野 花、山野草を育む 木林が広がる、自然観察には最適の歩道で、平成 14 年 売新 大阪発 50 周年記念事業として行われた「全国遊歩 100 選」に認定されたコースです。



図 6.3-6 北杜市次世代エネルギーパークを構成する施設分布図・モデルコース



a. フットパスガイドツアー

「フットパス」とは、イギリスを発祥とする、森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径(こみち)【Path】のことです。

北柱市内では、市民団体により八ヶ岳南麓においてフットパスを検討する動きもあり、本パーク事業との連携も考えられます。

【フットパスガイドツアー：事例】

黒松内町のフットパス(北海道)

黒松内町は、「ブナ北限の里」をテーマにまちづくりの一環として、平成16年にフットパス活動を開始しました。町と住民ボランティアが協力して、コースの選定・整備、都市住民と町民との交流イベントなどを開催しています。

☆チョボシナイコース (10km)

道の駅くろまつない(トワ・ヴェールⅡ)を出発して、川沿いに歩き、小さな山を越えて市街地に至る景色の変化に富んだコースです。廃道同然だった道をボランティアが手作業で整備した道で、黒松内町における第1号のフットパスコースです。トワ・ヴェールⅡでは、観光情報の収集、特産品や地元の採れたて野菜のお買い物ができます。大自然が育んだ素材をたっぷり入れた焼きたての手づくりパンが大人気。

☆寺の沢川コース (2km)

市街地を流れる寺の沢川沿いを歩き、歌才自然の家に至るコースです。歌才自然の家は、国の天然記念物「歌オブナ林」に近く、黒松内の自然体験の拠点となる宿泊施設です。また、コースの途中には、泉質はアルカリ性で、肌がつるつるになる美肌の湯・黒松内温泉「ぶなの森」があります。

☆西沢コース (10km)

歌才自然の家を出発して、森林公園、ブナセンターを経由して、素朴な農村風景を楽しみながらトワ・ヴェール(特産物手づくり加工センター)に至るコースです。トワ・ヴェールは、ゆるやかな丘に広がる広々とした牧草地に囲まれており、2階のリサーチルームでは、特製チーズフォンデュやトワ・ヴェール製品が味わえます。

◎主な取組

☆人材育成 ア. 国内・道内先進地の視察及びイベント参加 イ. 参考図書・資料の提供 ウ. 会議及び懇親会の開催	☆フットパスコースの整備 ア. 既設コースの草刈り等維持管理 イ. 既設コースへの道標、案内板、ベンチ、仮設トイレの設置 ウ. 関係機関へのコース整備依頼 エ. コース上の交流スポット、農家や商店街との連携促進
☆新規コース開拓 ア. 新規コースの現地調査 イ. 町内の観光資源の活用策検討	☆普及啓発 ア. 町広報・ホームページや日本フットパス協会での紹介 イ. 取材協力 ウ. 駅舎内での写真掲示等による紹介 エ. コース案内板の設置
☆イベントの実施 ア. 町内・町外者向けの交流イベントの実施	

(出典：日本フットパス協会ホームページ <http://www.japan-footpath.jp/aboutfootpath.html/>)

b. カーボンオフセットツアー

カーボンオフセットツアーとは、旅行中に排出する CO₂ を算出の上、この CO₂ 排出量をオフセットできる自然エネルギーをグリーン電力証書として調達し、旅行する参加者に対して相当分の排出量オフセットとして、グリーン電力証書を配るような仕組みをいいます。

北杜市に訪れる多くの観光客が交通手段に車を利用しています (P54 図 4.4.2-2)。旅行会社や鉄道会社などと連携して公共交通機関の利用を進めることは、CO₂ 削減を図る手段として有効な手法の一つとなります。本パーク事業においても、旅行会社や鉄道会社が実施しているハイキングイベントや各種団体が実施するウォーキングイベントとの連携が考えられます。

【カーボンオフセットツアー：事例】

株式会社 JTB 関東

旅から始まるカーボンオフセット (GREENSHOES ブランド)

* 2008 年度新エネ大賞新エネルギー財団会長賞受賞

温暖化の影響で未来の子どもたちが美しい地球を旅ができなくなるのでは・・・と考えたのが商品開発のきっかけである。山登りをしてゴミを持ち帰るように、CO₂ ゼロ旅行のコンセプトは「旅をしながら ECO できる」、旅で出した CO₂ をオフセットするものである。

仕組みは、旅行中に排出する CO₂ を算出の上、この CO₂ 排出量をオフセットできる自然エネルギーをグリーン電力証書として調達し、旅行する参加者に対して相当分の排出量オフセットとして、グリーン電力証書 (団体に対して 1 枚発行) ならびに記念バッジを配るものである。

また、旅をしながらカーボンオフセットする商品の象徴として、エコツアーブランド「GREENSHOES」を立ち上げた。企業の旅行や修学旅行を中心に、ドライブ旅行やパーキングにも導入し、約 70,000 名の参加があった。



記念バッジ

(出典：新エネルギー財団ホームページ <http://www.nef.or.jp/award/kako/h20/p08.html/>)

c. 電動アシスト自転車の活用

観光と環境が連動した事例として、観光客に電動アシスト自転車を貸し出して観光地を巡ってもらう取組が出始めています。和歌山県串本町では、観光協会等が中心となり、観光客らに町内を巡ってもらう「街中チョイのりサイクリング」を始めています。

北杜市内では、八ヶ岳南麓の清里駅周辺を中心にレンタサイクルの事業所が所在しています。次世代エネルギーパークの中核施設やサテライト施設を巡る交通手段として、CO₂を排出しない自転車の利用は有効な手段です。起伏の多い市内においては、上り坂でも負担の少ない電動アシスト自転車によるサイクリングツアーの検討も考えられます。

モデル案としては、長坂駅前の次世代エネルギー情報館（仮称）でガイダンスを受けた後に、電動アシスト自転車の貸し出しを行い、中核施設であるオオムラサキセンター、NEDO北杜サイト、三分一湧水館を巡るサイクリングツアーも考えられます。

また、電動アシスト自転車への電源供給に各施設の次世代エネルギーを利用し、体験することで、次世代エネルギーを身近に感じてもらう機会となります。

【電動アシスト自転車の活用イメージ】



②エネルギー環境教育等の学習機会の創出

現在、市立小中高等学校 23 施設への太陽光発電システムの導入を進めており、学校教育での児童・生徒に対してのエネルギー環境教育等の推進を図ることが求められています。また、NEDO 北杜サイト、村山六カ村堰水力発電所などの市内に導入された新エネルギー設備を活用した市民や観光客を含む市外からの来訪者に対してのエネルギー環境教育の学習機会を創出することが重要となります。エネルギー環境教育に役に立つ教材や資料等の調達方法としては次の情報提供機関・団体などと連携して準備することが可能です。

a. (財)日本生産性本部・エネルギー環境教育情報センター

学校教育や社会教育におけるエネルギー環境教育の推進を図ることを目的に、次世代層や教育関係者を対象に、総合的な観点からエネルギー環境教育を実践する上で役に立つ各種教材・資料や様々な学習機会の提供を行っています。

エネルギー環境教育情報センターは、1984年に、政府・教育関係機関・エネルギー関係機関等の支援により設立された機関で、教材(児童・生徒や学校の先生方のための副教材(冊子・VTR・CD-ROM)・ガイドブック及びエネルギー環境教育に関する調査報告書等)や資料の発行(エネルギー教育指導事例集、エネルギー教育ガイドライン、エネルギー環境教育学習プラン)を行っています。

(出典：エネルギー環境教育情報センターホームページ

<http://www.icee.gr.jp/katsudou/index.html/>)

b. 全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)

JCCCA(じゃっか)は「地球温暖化対策に関する法律」にもとづき、平成11年に設立されました。地球温暖化対策に関する普及啓発を行うこと等により、地球温暖化防止に寄与する活動の促進を図っています。環境教育拠点「JCCCAラボ(旧ストップおんだん館)において「参加型・体験型」の教材(ツール)を開発し、地域のNPO、自治体、企業などにツールの無料貸出やノウハウの提供などを行っています。また、ウェブサイト等による情報発信・素材提供や、都道府県にある温暖化防止センターなどとのネットワークによる企画も展開しています。



※ツールによる学習対象はこどもから大人までと幅広い。



※パネルセットやタペストリーなどツールは70種類以上ある。

(出典：全国地球温暖化防止活動推進センター ホームページ <http://www.jccca.org/>)

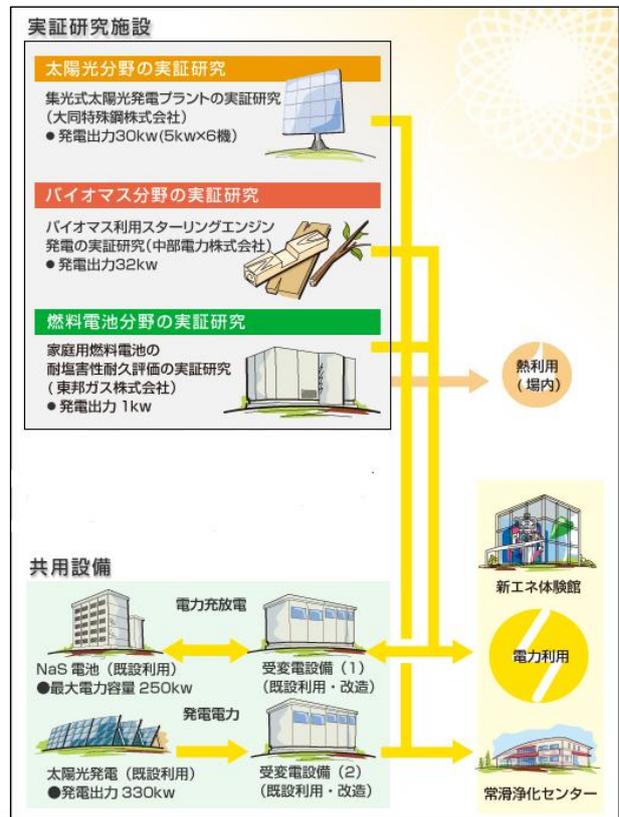
③大学・企業等による研究エリアの提供

a. あいち臨空新エネルギー実証研究エリア

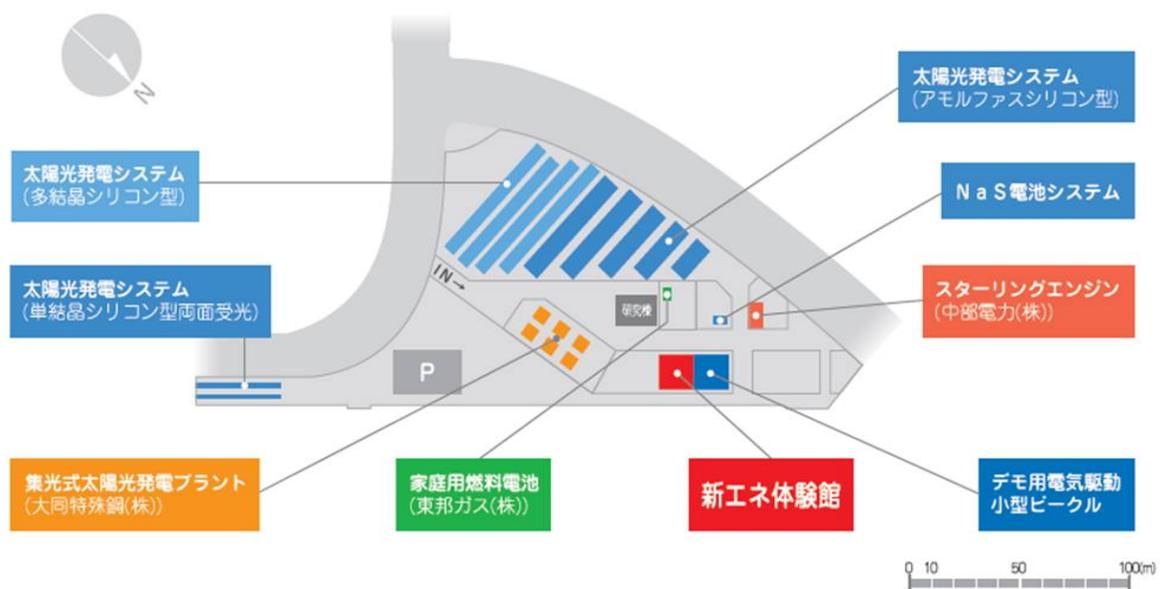
あいち臨空新エネルギーパークの中核施設となっています。当施設では、NEDOの実証研究施設の一部を継承するとともに公募により、新たな実証研究テーマを決定し、最先端の技術を活かした企業による新エネルギーに関する新たな実証研究が平成 21 年 2 月から実施されています。実施されている実証研究は、以下のとおりです。

- 集光型太陽光発電プラントの実証研究
(大同特殊鋼株)
- 家庭用燃料電池の耐塩害性耐久評価の実証研究 (東邦ガス株)
- バイオマス利用スターリングエンジン発電の実証研究 (中部電力株)
- 小形風力発電装置の翼の騒音低減のための実証研究 (ニッコー株)
- 蓄電式小形風力発電装置におけるバッテリー放充電制御の実証研究 (シフオエテクノロジー株)

また、新エネルギーの啓発・普及のための施設として「新エネ体験館」が併設され、小中学生や県民の方々に、新エネルギー技術の理解を深めていただくことを目的として、新エネルギー教室など各種企画事業も実施されています。



〈配置図〉



(出典：愛知県「あいち臨空新エネルギー実証研究エリア」ホームページ

http://www.pref.aichi.jp/shin-san/shinene_area/index.html/)

④次世代エネルギーパークの関連施設への視察・見学者の受け入れ

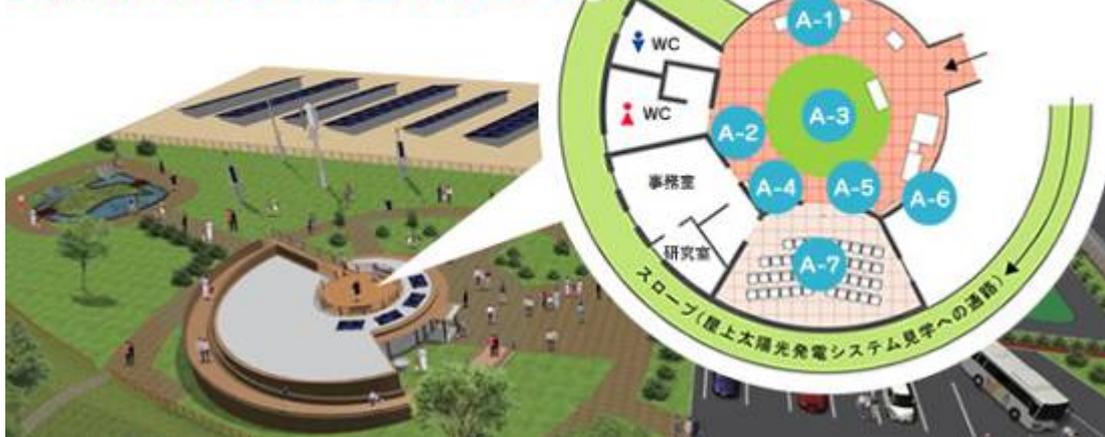
a. あいち臨空新エネルギー実証研究エリア 新エネ体験館（愛知県常滑市）



(出典：愛知県「あいち臨空新エネルギー実証研究エリア新エネ体験館パンフレット」)

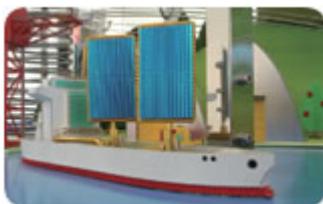
b. 日高港新エネルギーパーク EEパーク（和歌山県御坊市）

子どもたちにもやさしい内容で新エネルギーを紹介。
楽しみながら、学習できます。



ネイチャーエネジータウン

公園施設



(出典：関西電力株式会社「日高港新エネルギーパーク EEパーク」ホームページ
<http://www.kepco.co.jp/pr/eepark/index.html/>)

⑤地球温暖化問題やエネルギー問題などの環境問題を学ぶ社員教育の場としての活用

a. 財団法人キープ協会（山梨県北杜市）

キープ協会では、企業向けの環境教育プログラムを行っています。

●社会貢献事業

環境教育分野での社会貢献事業の企画・運営・評価を実施しています。

- ①子どもや家族、地域の方を対象とした自然体験事業
- ②協働での事業実施
- ③一般・学生を対象とした指導者養成事業
- ④商品の協賛によるPR事業

●社員教育

社員全員が企業の理念と環境教育の意味の伝え手へと育てます。

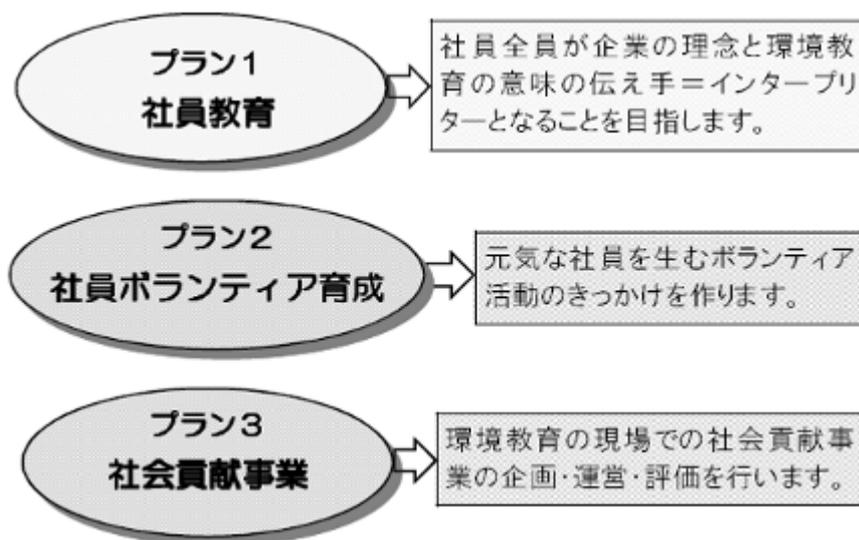
- ①環境・自然保護意識の向上
- ②気づきの力を養うこと → 自然・他者・自己への気づき
- ③コミュニケーション能力の向上

●社員ボランティア育成

元気な社員を育てるボランティア活動のきっかけを作ります。

- ①環境・自然保護意識の向上
- ②基礎的な環境（森林）ボランティアスキルの習得

●講演会の実施



(出典：(財)キープ協会「フォレストーズスクール」ホームページ
http://www.keep.or.jp/ja/foresters_school/experience-group/kigyoo/)

⑥地域密着型自然エネルギービジネスの場としての活用

北杜市は清らかで豊富な水資源、日本一を誇る日照時間、市の7割以上を占める森林資源を有し、自然エネルギーのポテンシャルは高く、太陽光発電施設、水力発電施設、農業、林業、エコツーリズム、自然保護・管理など地域密着型自然エネルギービジネスの場としての活用が考えられます。

自然エネルギービジネスは、環境の調和を図りながら人と人との新たな交流を生み、各主体と連携を通じた地域経済、地域社会の活性化、エネルギー自給率の拡大、雇用創出も期待できます。

世界のエネルギー環境政策は、自然エネルギーの実用性の向上と市民の環境意識の高まりとともに大きく転換してきており、国内でも市民の運動が地域のエネルギー供給に働きかける例がでてきています。

a. 市民共同出資によるおひさま発電所の設置

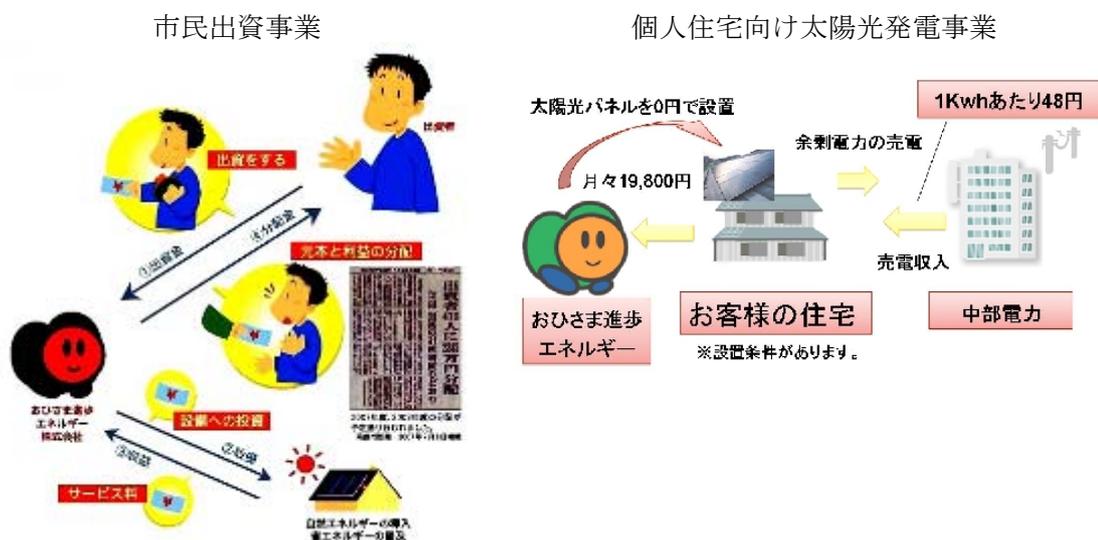
(おひさま進歩エネルギー株式会社 (長野県飯田市))

おひさま進歩エネルギー株式会社は、持続可能な循環型社会を目指し、地元地域と密接に関わりながら太陽光発電の大量導入、ESCO 事業との組み合わせ、グリーン電力証書と市民出資といった複数の手法の組み合わせで、太陽光発電のビジネスが実現した事例です。

平成16年度から平成20年度にかけて南信州を中心に162ヶ所、合計出力1,281kWの太陽光発電システムを、市民出資により設置しています。

保育園や公民館といった公共施設や、民間事業所などの屋根に太陽光発電システムを設置し、発電した電力は施設で使用するほか余剰電力を中部電力(株)に販売されています。また、この発電所による電気のうち、施設で使用した自家消費電力をグリーン電力証書化し、販売しています。

個人による出資、行政や民間事業所などからの屋根の提供と電力の利用、というように各主体が「できること」を持ち寄ることで、「地域が一体となる」太陽光発電の普及を行っています。



(出典：おひさま進歩エネルギー(株) ホームページ <http://www.ohisama-energy.co.jp/>)

7 北杜市次世代エネルギーパークの運用と今後の課題

7.1 運用の考え方

北杜市次世代エネルギーパークは、北杜市の「豊かな自然」「新エネルギー設備」「人」などの地域特性を活かした環境活動の場・機会を市民、団体、事業者、観光客等に広く提供し、エネルギー環境教育、大学・企業等による研究、エネルギー関連施設への視察・見学、社員教育などのアクションエリア（行動域）として活用します。それらの体験・活動を通じて学びあう関係を築き、生命や自然の大切さを感じ取り、地球温暖化問題への理解促進を図り、環境へ配慮した自主的な行動・活動を促すことを目指します。

北杜市次世代エネルギーパーク構想の実現に向けた運用の考え方として、以下の3点が重要です。

(1) 新エネルギー施設の充実と観光資源等との連携

中核施設やサテライト施設に位置付けられる拠点施設は、各々の施設では新エネルギー設備の導入を促進し、その特徴を活かした展示、体験プログラム等の充実を図ります。特に中核施設は、北杜市次世代エネルギーパークの窓口として、全体概要の説明、案内が可能な運用体制、市民や観光客などが利用しやすい運用形態を検討します。

また、関連機関と連携し、相乗効果による地域の活性化を図ります。

(2) 北杜市版インタープリターによるエネルギー環境教育等の推進

エネルギー環境教育を推進するため、市民と市外から訪れる観光客等に対する意識啓発が必要です。市民に対しては小中学校等の教育施設におけるエネルギー環境教育プログラムや市民向けのイベント・講座などの充実が求められます。

観光客に対しては、一方的な広報や展示だけではなく、観光客等が「参加しやすい」「参加したくなる」北杜市の新エネルギー施設や観光資源などを活用した、見て、触れて、体感できるような体験プログラムや交流プログラムの充実が必要です。

そのために、北杜市次世代エネルギーパークを理解し、説明ができる説明員や指導者となる北杜市版インタープリターを養成し、エネルギー環境教育等の推進を図ります。

(3) 情報発信機能の充実

北杜市次世代エネルギーパークの構成施設は、地域、公共施設、民間施設など特性が異なります。また、本パークを活用する人は、市民や観光客、企業など多様であり、学習・研修、観光、ビジネスなど目的も異なります。

インターネットをうまく活用することは、これから本パーク事業を展開していく上で必要であり、本パークのホームページを作成し、活動者・消費者ニーズの多様化・高度化に対応できる情報を広く発信します。内容については、北杜市域に広がる構成施設の利点を活かしたエネルギー環境教育プログラム、エコツアーのモデルルート案内など、活用される人に対して選択可能な情報、新エネルギー・省エネルギーに関する情報などが考えられ、普及促進ツールのひとつとしても活用することが可能です。

7.2 運用の体制

北杜市次世代エネルギーパーク構想を実現していくために、本構想策定後に中心的な役割を果たす運営組織を構築し、同組織により継続的な管理・運営がされる必要があります。

具体的には、市民、市民グループ、企業、大学等教育機関、北杜市等が構成メンバーとなり、「北杜市次世代エネルギーパーク推進協議会（仮称）」を立ち上げることが考えられます。運営組織の設立にあたっては、運用に向けた円滑な推進を図る必要があるため、市内で活動している複数の主体で構成されている本事業の趣旨に沿った適切な既存団体等を母体として充てることが有効と考えます。

また、同協議会内にプロジェクトごとのグループをつくり、エコツアーの具体的なプログラムづくりや、ガイド役となる人材の育成等、テーマごとにワーキンググループを構成することが考えられます。さらにはプロジェクトの実施には関連機関（観光協会、商工会、観光施設、旅行会社、ホテル・レストランなど）との連携が考えられます。

また、協議会やワーキンググループのメンバー以外の市民等からのアイデアをプログラムに活かすために市民からプログラム提案を受ける制度を導入することで、幅広い市民・事業者等の意見を反映させながら、実現に向けた取り組みを推進していくことが考えられます（図 7.2-1）。

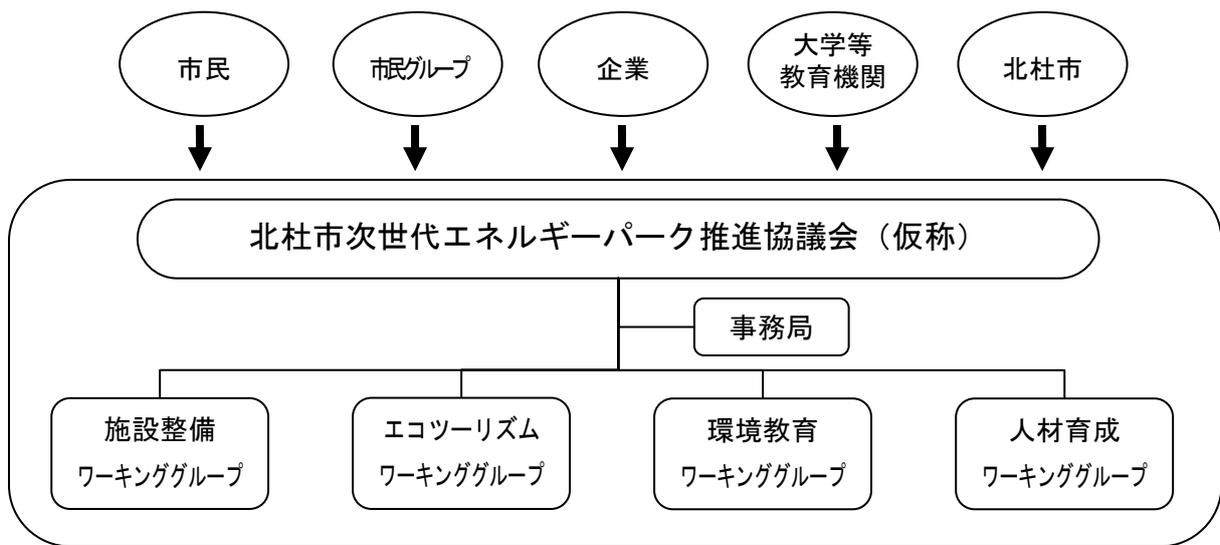


図 7.2-1 組織図、ワーキンググループ概念図

7.3 今後のスケジュール

北杜市次世代エネルギーパークの事業推進を図るため、今後のスケジュールを下図に示します（表 7.3-1）。

表 7.3-1 今後のスケジュール（案）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
管理・運営 (ソフト)		協議会設立、ワーキンググループによる運用検討 運用に向けた人材育成 情報発信 認定	運用主体の検討	運営主体による管理・運営	
施設整備 (ハード)		申請 中核施設機能整備検討 新エネルギー設備導入検討	ビジターセンター整備 次世代エネルギー情報館（仮称）整備（長坂コミュニティステーション内） 新エネルギー設備導入 市、市民、事業者の独自の新エネルギー導入		

7.4 持続可能な運用に向けた課題

これまでの検討から、北杜市次世代エネルギーパークの持続可能な運用に向けて、以下のことが課題として考えられます。

(1) 市民への情報発信、合意形成

アンケート・ヒアリングの結果からも、新たなハコモノ整備やエコツアーの意義に対して慎重な意見があります。市民に対して幅広く情報発信し、理解を深めてもらうことが必要です。

また、環境活動を実践する際には、地域（住民）に対する配慮が必要であり、本パーク事業を推進するにあたっては市民参加を促し、理解していただくことが必要です。

(2) 各主体との協働による事業推進

新エネルギー施設には公共・民間を含めて、見学者の受け入れに対して案内板等設置、安全性の確保など施設面や説明対応などの運営面が整っていない施設も多く、各主体との調整が必要です。

(3) 北杜市版インタープリターの養成

地球温暖化対策等の効果的な普及啓発を図るため、地球温暖化、省エネルギー、新エネルギーの知識に加え、市内の新エネルギー施設や観光資源の知識や北杜市の特徴を理解して本パーク運営をサポートする北杜市版インタープリターが必要です。また、インタープリターには、企画力やガイドスキルも必要なことから養成プログラムの構築が求められます。加えて、インタープリターの活動場面の提供や活動資金の確保も求められます。

(4) 北杜市次世代エネルギーパーク構成施設の充実

新エネルギー設備の導入や案内機能等の整備を推進するとともに、体験プログラムなどのソフトの充実が必要です。このため運用組織への支援等が行政に求められます。

(5) 地域と連携したモデルコースの整備

モデルコースでは単に施設を見学するだけでなく、周辺の地域に密着、連携し、コースの魅力を高め、観光業、商工業等の活性化に寄与することが必要です。

平成 21 年度地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定等事業

北杜市次世代エネルギーパーク構想報告書

- 発行日 平成 22 年 2 月
- 発行者 北杜市
- 編集 北杜市生活環境部環境課
〒408-0188
山梨県北杜市須玉町大豆生田 961-1
TEL 0551-42-1341(直通) FAX 0551-42-1124
ホームページ <http://www.city.hokuto.lg.jp/>

本報告書は、グリーン購入法(国等による環境物品等の調達に関する法律)に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙を使用しています。